



考古学財団

ISSN 1342-6834

研究紀要 10

かながわの考古学

2005. 2

財団法人 かながわ考古学財団

かながわの考古学

2005. 2

財団法人 かながわ考古学財団

はじめに

今年度も、各時代の研究プロジェクトチームから提出された共同研究の成果を7本掲載することができました。

旧石器時代、縄文時代、弥生時代、古墳時代、奈良・平安時代、中世、近世の各研究プロジェクトチームは設定したテーマの継続研究を続けております。

いずれの研究プロジェクトチームも限られた時間のなかで収集した、膨大なデータの蓄積があります。その情報を合理的にまとめ、この紀要の限られた紙面の中で反映しています。各研究課題については、それぞれの目標に沿って検討を進めています。

今後ともこうしたグループの共同研究を進めることによって、職員の資質向上が図られ、皆様にその成果が還元できるようであれば、幸いです。

また、これら研究成果を通して、私たちの郷土かながわの先人たちの足跡をたどり、歴史を学ぶ一助となることを期待して刊行の言葉とさせていただきます。

刊行にあたりまして、関係各位にご指導をいただきましたことに厚く御礼申し上げます。

2005年2月

財団法人 かながわ考古学財団

理事長 熊田節郎

目 次

| | |
|------------------------------------|----|
| 神奈川県における旧石器時代の遺構（その4）－B2層－ | 1 |
| 旧石器時代研究プロジェクトチーム | |
| 神奈川県における縄文時代文化の変遷VII | |
| 中期後葉期 加曽利E式土器文化期の様相 その5 文化的様相（3）－ | |
| 縄文時代研究プロジェクトチーム | 19 |
| 宮ノ台式土器の研究（4） | 35 |
| 弥生時代研究プロジェクトチーム | |
| 考古学の先駆者 赤星直忠博士の軌跡（2） | |
| －通称「赤星ノート」の古墳時代資料の紹介－ | |
| 古墳時代研究プロジェクトチーム | 51 |
| 奈良・平安時代の宮ヶ瀬遺跡群の研究Ⅲ | |
| 奈良・平安時代研究プロジェクトチーム | 69 |
| 神奈川県内の「やぐら」集成（3）－「やぐら」出土の石造塔類について－ | |
| 中世研究プロジェクトチーム | 85 |
| 近世民家の集成（2） | 95 |
| 近世研究プロジェクトチーム | |

例　　言

1. 本書は、財団法人かながわ考古学財団および神奈川県教育庁教育部生涯学習文化財課の職員で構成する研究プロジェクトチームが、時代ごとに計画的に共同研究を行った結果を掲載する。

2. 各研究プロジェクトチームの構成は以下のとおりである（五十音順）。

・旧石器（先土器・岩宿）時代研究プロジェクトチーム

井間文明・大塚健一・加藤勝仁・栗原伸好・鈴木次郎・砂田佳弘・畠中俊明・三瓶裕司・御堂島　正吉田政行

・縄文時代研究プロジェクトチーム

天野賢一・井澤　純・井辺一徳・岡　稔・小川岳人・恩田　勇・長岡文紀・松田光太郎

・弥生時代研究プロジェクトチーム

阿部友寿・飯塚美保・池田　治・伊丹　徹・桜井真貴・新間基史・谷口　肇・村上吉正・渡辺　外

・古墳時代研究プロジェクトチーム

上田　薰・植山英史・柏木善治・須藤智夫・谷　正秋・近野正幸

・奈良・平安時代研究プロジェクトチーム

大上周三・加藤久美・河野喜映・小林耕一・富永樹之・中田　英・宮井　香・依田亮一・渡辺清史

・中世研究プロジェクトチーム

宍戸信悟・鈴木庸一郎・服部実喜・宮坂淳一

・近世研究プロジェクトチーム

市川正史・木村吉行・永井　淳・樹瀬規彰・柳川清彦

神奈川県における旧石器時代の遺構（その4）

- B 2層 -

旧石器時代研究プロジェクトチーム

はじめに

本プロジェクトチームでは、1994年以来、県内における旧石器時代遺跡の石器群について集成・分析を実施してきた。'94年から'99年までの6回は、「…石器群の諸問題」と題して、主に出土した石器の特徴、器種・石材組成、石器製作工程等の検討を中心として層位ごとに集成し、各時期における石器群の特徴を捉えようとした。2001年度の活動からは、主に旧石器時代の遺構（住居状遺構、土坑、砾群、配石、炉跡、炭化物集中、アボなど）を層位ごとに集成し、今回で4回目となる。今年度は、相模野基本層序におけるB2層相当の遺構を集成し、当概期の特徴を把握しようと試みた。B2層の遺構としては、砾群、配石、炭化物集中、炉址等が集成され、特徴的なものとしては磨石状砾の集積遺構がみられる。今回も例年通り、以下で各遺構ごとにその特徴を述べる。

B 2層出土の遺構について

a) 砂群（第1・2図）

今回集成された砾群は51遺跡62文化層より、およそ400基を数える。砾群の規模について、平面形の長軸は1m以下がおよそ21%、1m超5m以下が69%、5mを超すものが約10%存在し、長軸の平均値はおよそ2.5mを測る。短軸では、およそ7割強が2m以下で、平均値は約1.6mである。構成砾の数は、わずか2点から450点までと様々だが、100点以上の砾で構成される砾群は370例中25例とわずか7%程度で、実に8割以上の砾群は50点以下の砾で構成されている。砾の大半は、赤化やススの付着といった被熱の痕跡を残し、全ての砾が焼けている例も珍しくない。使用石材では凝灰岩系が多用されており、概ね相模川水系の河床砾から無作為に用いられているものと思われる。ところが藤沢市域の慶応SFC遺跡第IV文化層や南葛野遺跡第II文化層等の砾群では、相模川水系には比較的少ない安山岩や砂岩¹⁾が偏在する例も認められ、意図的に石材選択されている場合も考えられる。

平塚市原口遺跡第II文化層では、3地点で当概期の石器群が発見された。それぞれの地点に砾群を伴うが、本館エリアとされた地点では、およそ4180点余りの砾が出土しており、最大幅約8m×長さ約25mの範囲に帯状に分布している。報告書本文中では、視覚的に明確な5箇所の砾集中について砾群と報告しているのみで、他は付図にて砾の分布状況を掲載しているに過ぎない。海老名市柏ヶ谷長ツサ遺跡第IX文化層²⁾では、やはり3000点を超える砾が出土し、こちらは詳細な分析により砾群125基以上を認定している。これら比較的大規模な遺跡では、大量の砾が広範囲にわたって連続的に出土している状況が観察される。

b) 磨石状砾集積遺構（第3図・4図1~3）

本遺構は、県内の当概期において極めて特徴的に認められる。そこで本来ならば、配石等の中で扱われるべき遺構かもしれないが、敢えて別項目として取り上げた。今回の集成作業において、砾群あるいは配石として表に掲載されている遺構についても別表にて再度集約した（第2表）。ここでは、8遺跡³⁾26事例を集

成している。本遺構は、磨石状の礫数点が、50cm内外の範囲にまとまって出土する例が多く、「磨石集積」といった捉え方も可能かもしれない。しかしながら、藤沢市慶應SFC遺跡や南葛野遺跡の報告の中では、「磨痕や擦痕等の使用痕は観察できない。」といった理由から、このような礫を亜石器と称し、磨石とは区別している。そのため、明確に磨石と判断している報告もあるが、亜石器のような礫の集積も含めてここでは「磨石状礫」の集積遺構として一括して扱った。

原口遺跡第II文化層の1号、2号礫群は、何れも複数の磨石が密集している磨石集積である。これらの遺構は、大規模な礫集中箇所や石器集中ブロックからやや離れた外縁部に設けられている様子が認められた。柏ヶ谷長ツサ遺跡第IV文化層の配石26・32・34等も同様に、石器集中や礫集中の外縁または空白域に位置していることが指摘されている。吉岡遺跡群C区では、破片も含めて261点もの磨石状石器が敲石、台石、石皿などと共に出土している。本遺跡では、10箇所の「磨石状石器ユニット」が報告され、それ以外にも複数のブロック内において磨石状石器の集積（集石）が捉えられた。

c) 配 石（第4図4）

本遺構は、吉岡遺跡群B区（2次）と柏ヶ谷長ツサ遺跡のわずか2遺跡のみで、6文化層71例が報告されている。ここで集成された遺構のはば99%は柏ヶ谷長ツサ遺跡の例に偏り^①、その他の遺跡での発見は皆無である。これは、配石遺構に対する報告者の捉え方や見解の相違に大きく起因していることは否めない。しかしながら、ここでは報告書の記述に従って集成を行っている。

柏ヶ谷長ツサ遺跡第Ⅳ文化層の配石1では、台石と考えられる大型の礫が、磨石状の礫2点と数点の礫を伴って密集している。この遺構は、866点の石器が集中している1号ブロックの片隅に位置しており、ある種の「作業地点を想定させる配置をみせている」としている。ただ、その他の配石遺構の多くは、礫群に伴って1ないし2点の礫が配されているに過ぎない。

d) 炭化物集中（第5図1）

炭化物集中は、9遺跡14事例を集成した。規模は、長軸1.25m～約6m、短軸0.88m～約3.5mで、各遺構毎でかなりのばらつきがある。出土状況は、石器・礫集中と重複する例、石器・礫集中とは離れている例、石器集中を取り囲むように分布する例など様々である。

e) 炉 址（第5図2）

炉址についての報告は、用田バイパス関連遺跡群大河内遺跡第VI文化層の1例のみである。本遺構は、深さ25cm程の掘り込みをもち、被熱した69点の礫を伴っていた。今回礫群の中で取り扱った、宮ヶ瀬遺跡群サザランケ遺跡第VII文化層のP3号礫群では、密集する礫の下部に浅い掘り込みをもち、多量の炭化物や焼土を伴っていた。本遺構も構造的には南原遺跡の例と極めて似ているものと思われ、炉址と捉えることも可能かもしれない。

（畠中俊明）

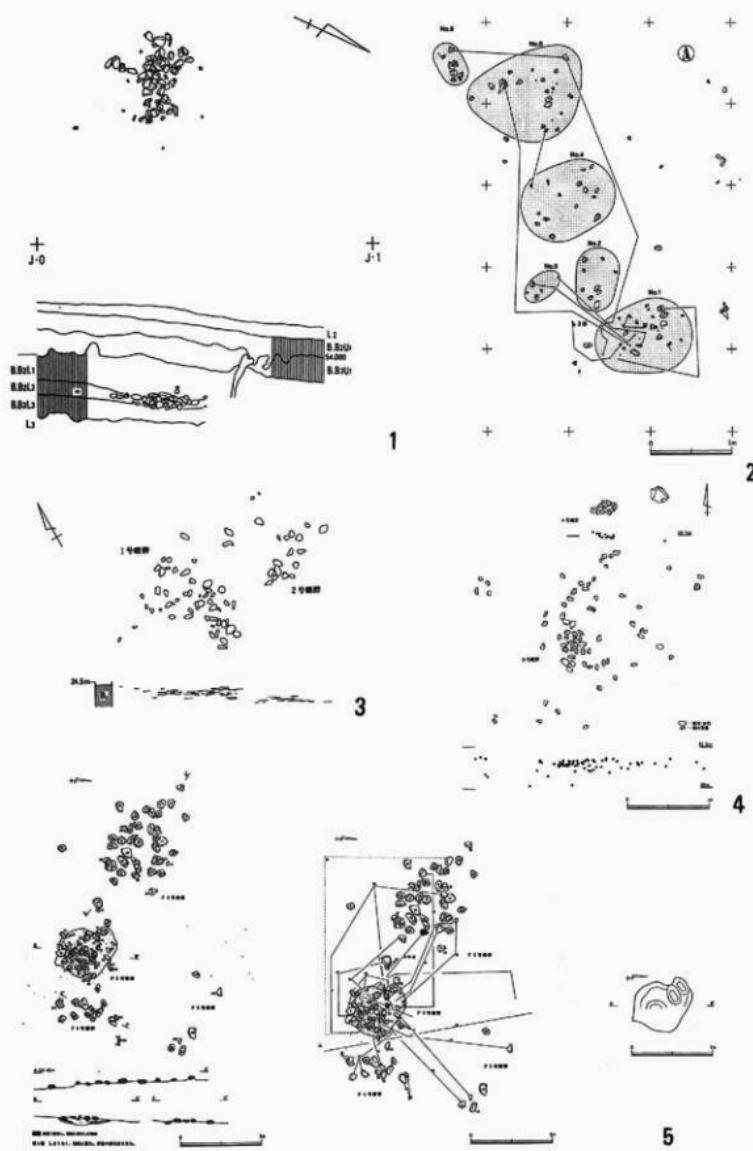
註

- (1) 上本進二・飼持晶子・天野賢一・柴田 譲・櫻井尚美・多田敦子 1996 「遺跡出土礫の採集地推定—神奈川県および周辺地域の河床礫・海浜礫と遺跡出土礫の分析—」「神奈川考古」32号の河床礫のデータを参考にした。
- (2) 柏ヶ谷長ツサ遺跡については、データ量が膨大なため一部を除き遺構データ表は次年度以降に掲載する予定である。
- (3) 吉岡遺跡群については、各地区毎に別遺跡と捉えている。
- (4) 柏ヶ谷長ツサ遺跡の報告において、保坂康夫氏は900g以上の礫について配石として一律に扱っている。同様の手法によって他の遺跡でも配石を抽出することは可能だと思われるが、今回は報告書の記載に従う。

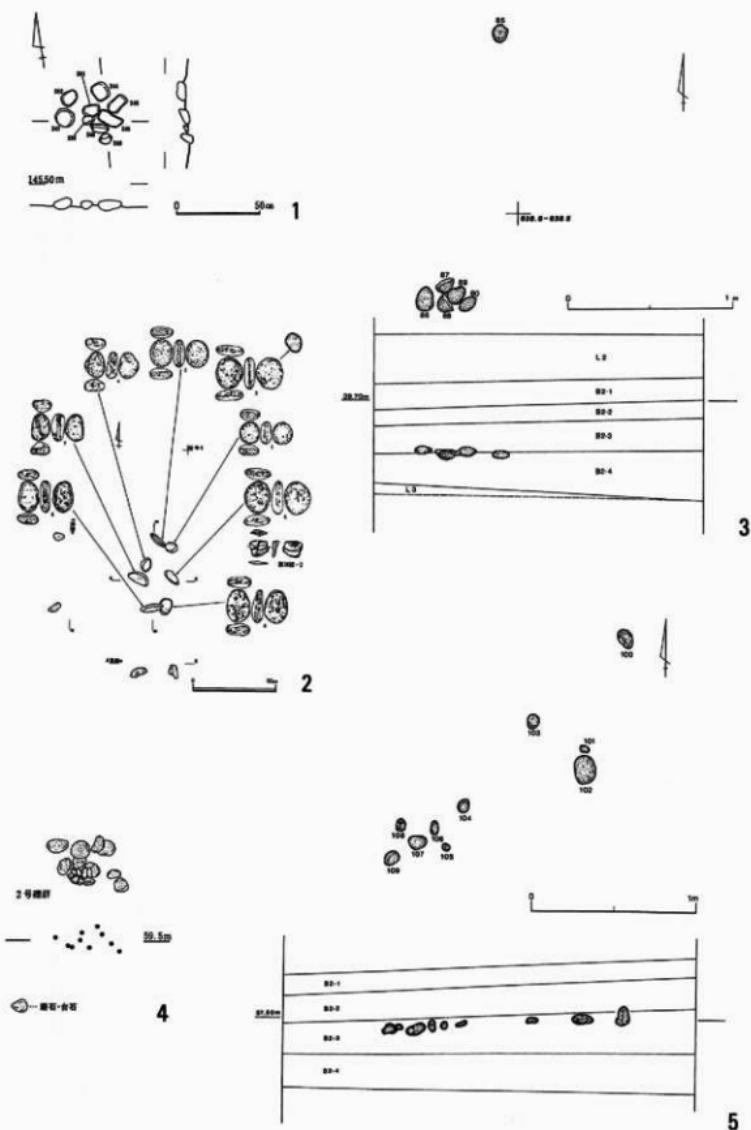
神奈川県における旧石器時代の遺構（その4）



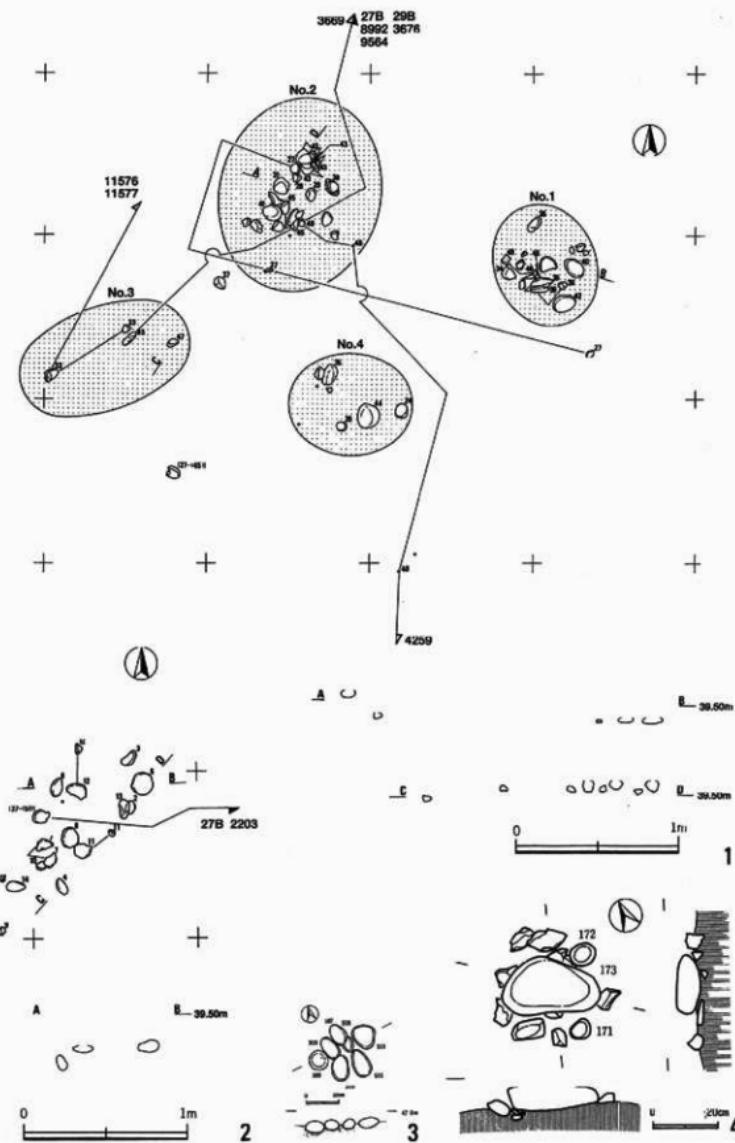
第1図 球群 (1.長堀南IV 1号～3号球群 2.橋本IV 球群19 3.上今泉 第1球群 4.柏ヶ谷長ツサワ 球群
1～7、配石1～3)



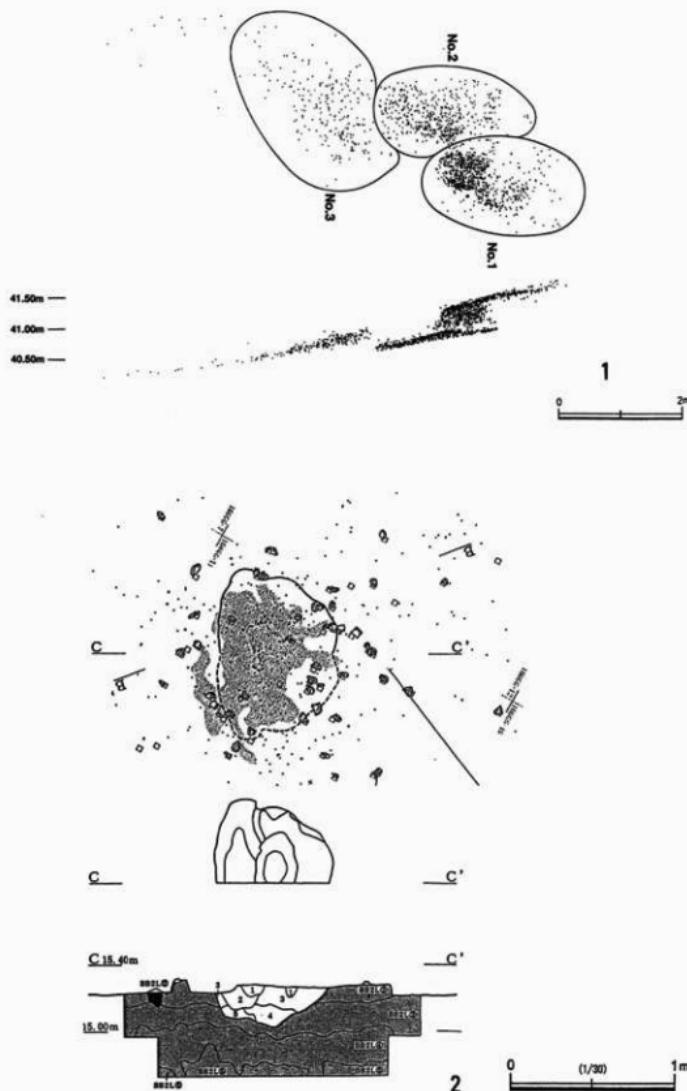
第2図 砥群 (1.かしわ台駅前V 第3号礫群 2.吉岡C区B2層 第2礫群5種ブロック 3.今田IV 1~2号礫群
群 4.原口II 4・5号礫群 5.宮ヶ瀬サザランケ丘 P2~P5礫群)



第3図 磨石状遺集積 (1.川尻V 磨石群 2.吉岡B区B2層 磨り石状遺 3.南葛野II 第1号縄群 4.原口II 2号縄群 5.南葛野II 亞石器・磨石群)



第4図 磨り石状礫集積・配石 (1.吉岡C区B2層 32ブロック磨石状石器 2.吉岡C区B2層 22ブロック磨石状石器 3.柏ヶ谷長ツサⅡ 配石26 4.柏ヶ谷長ツサⅡ 配石1)



第5図 炭化物集中・炉址 (1.吉岡D区B2層 炭化物集中 2.用田大河内VI 第1号炉址)

第1表 褐 磁

| 遺跡 No. | 遺跡名 | 確認 層位 | 文化層 | 遺構名 | 長軸 (m) | 短軸 (m) | 標数 総合後数 | 分布 | 磁の状態 | 埋葬石材組成 | 備考 (共伴遺物等) |
|-----------|---------|----------|-----|-----------------|-----------|-----------|------------|----------|---|---|--|
| 52 | 赤坂 | BB2U | 縦肝 | | | | | | | | 詳載未報告 |
| 73 | かしわ台駅前 | BB2LM | V | 第1号埋葬 | 3.00 | 2.70 | 30 | 分散 | 未定: 4, 破損: 26, 赤化: 30, 灰化物・スス付着: 25 | | 後合: 4, 第2・3号埋葬群との接合: 3, 第1ブロックと重複。 |
| 73 | かしわ台駅前 | BB2LM | VI | 第2号埋葬 | 1.50 | 1.50 | 42 | 密集 | 未定: 12, 破損: 30, 赤化: 30, 灰化物・スス付着: 45 | | 後合: 17, 第1号埋葬群との接合: 1, 第3号埋葬群との接合: 11 |
| 73 | かしわ台駅前 | BB2LM | VI | 第3号埋葬 | 2.00 | 1.40 | 80 | 集中 | 未定: 9, 破損: 71, 赤化: 80, スス付着: 66 | | 後合: 13, 第1号埋葬群との接合: 2, 第2号埋葬群との接合: 12, 第1ブロック(磁化岩製削片: 6・石核: 1)と重複。 |
| 87 | 長瀬南 | BB2LU | VI | 1号埋葬 | 5.10 | 2.40 | 120 | 集中 | 赤化: 117, スス: 42, タール: 8, 完形: 59, 火候岩: 94 | 砂岩: 5, 砂岩: 21, 泥質灰岩: 4, 安山岩: 31, 開裂岩: 5, 灰化岩: 13, その他: 1 | 1号ユニットと重なる。 |
| 87 | 長瀬南 | BB2LU | VI | 2号埋葬 | 0.80 | 0.70 | 8 | やや 集中 | 赤化: 8, スス: 6, タール: 2, 完形: 2, 破損: 6 | 砂岩: 3, 泥岩: 1, 開裂岩: 1, 火候岩: 3 | 7単位に区分。 |
| 87 | 長瀬南 | BB2LU | VI | 3号埋葬 | 2.20 | 1.90 | 52 | 集中 | 赤化: 52, スス: 16, タール: 5, 完形: 17, 破損: 35 | 砂岩: 18, 泥岩: 1, 安山岩: 10, 開裂岩: 3, 灰化岩: 7 | |
| 90 | 上和田城山 | BB2U | IV | 縦肝 | 1.89 | 0.68 | 8 | 集中 | 詳細記載なし | 記載なし | 8点の埋以外に石核石器、敲打石が伴う。ブロッケあり。 |
| 90 | 上和田城山 | BB2L | V | 記載なし | 2.30 | 1.89 | 8 | 散漫 | 円満または破壊標 で被熱 | 記載なし | ブロッケあり。 |
| 92 | 上草柳第2地点 | BB2L | II | a埋葬 | 5.00 | 4.50 | 不明 | 散漫 | 不明 | 不明 | 4~5Cまとまる。 |
| 92 | 上草柳第2地点 | BB2L | II | b埋葬 | 4.50 | 2.20 | 不明 | 集中 | 火熱を受けた跡 | 不明 | 7単位に区分。 |
| 95 | 福田丸ノ辻 | BB2U | IV | 第1埋葬 | 4.25 | 3.80 | 134 | 集中 | 未定: 36, 完形: 約10 | 磁化岩が多く、ほかに砂岩や 泥岩まとまるところ 玄武岩。 | では4点 |
| 95 | 福田丸ノ辻 | BB2U | IV | 第2埋葬 | 3.80 | 3.30 | 53 | 集中 | 未定: 53, ヒビ: 53, 完形: 約14 | 磁化岩が多く、ほかに砂岩や 泥岩まとまるところ 玄武岩。 | 第1ブロックと重なる。 |
| 95 | 福田丸ノ辻 | BB2L | V | 第1埋葬 | 2.40 | 2.00 | 297 | 密集 | 未定: 297, 完形: 約24 | 砂岩や玄武岩が多い。 | 第2ブロックと重なる。 |
| 95 | 福田丸ノ辻 | BB2LU | V | 第2埋葬 | 2.00 | 1.60 | 85 | 密集 | 未定: 92, 完形: 約13 | 砂岩や玄武岩が多い。 | 第3ブロックと重なる。 |
| 95 | 福田丸ノ辻 | BB2LU | V | 第3埋葬 | 2.10 | 0.70 | 11 | 散漫 | 未定: 11, 破損: 11 | 砂岩 | 本番群の西側に散3ブ ロックあり。 |
| 95 | 福田丸ノ辻 | BB2LU | V | 第4埋葬 | 3.70 | 3.30 | 120 | 集中 | 未定: 120, 完形: 約98 | 砂岩や玄武岩が多い。 | 第4ブロックと重なる。 |
| 101 | 吉岡B区 | BB2U | B2 | 第1号埋葬 | 2.00 | 1.40 | 83 | 密集 | 未定: 69, スス: 13, 完形: 7, 破 損: 76, 接合後完定: 25 | 安山岩25, 中粒凝灰岩17, 硫 質砂岩24, 斜葉岩8, 灰葉凝 灰岩4, 硫質斜葉凝灰岩2, He2, 砂岩1 | |
| 101 | 吉岡B区 | BB2L | B2 | 第2号埋葬 | 0.98 | 0.70 | 73 | 密集 | 未定: 68, スス: 6, 破損: 63, 総合後完定: 21 | 安山岩21, 中粒凝灰岩34, 硫 質砂岩5, He3, 斜葉岩 | |
| 102 | 吉岡C区 | BB2 | B2 | 第1埋葬 1層ブロック | 6.50 | 3.20 | 8 | 散漫 | 不明 | ナマー1, 磁化岩3, 安山岩4, He2, 砂岩1 | 第2号埋葬4号器ブロ ックと重複。 |
| 102 | 吉岡C区 | BB2 | B2 | 第2埋葬 2層ブロック | 3.60 | 2.60 | 104 | 密集 | 不明 | 磁化岩75, 硫質磁化岩54, 磁 化岩54, 安山岩35, 泥質岩9, 結晶片岩1 | 第2号埋葬2号器ブロ ックと重複。 |
| 102 | 吉岡C区 | BB2 | B2 | 第2埋葬 3層ブロック | 5.90 | 3.40 | 30 | 散漫 | 不明 | 磁化岩54, He1, 砂岩4 | 第2号埋葬3号器ブロ ックと重複。 |
| 102 | 吉岡C区 | BB2 | B2 | 第2埋葬 4層ブロック | 5.60 | 2.50 | 126 | 密集 | ナマー2, 磁化岩67, 安山岩4, He3, 砂岩15, 泥質岩9, 結晶片岩1, 石英閃長岩1 | 第2号埋葬4号器ブロ ックと重複。 | |
| 102 | 吉岡C区 | BB2 | B2 | 第2埋葬 5層ブロック | 5.30 | 4.30 | 111 | 密集 | 不明 | 磁化岩54, 硫質磁化岩51, 安山岩32, He6, 砂岩2, 灰 化岩15, 石英1 | 第2号埋葬5号器ブロ ックと重複。 |
| 102 | 吉岡C区 | BB2 | B2 | 第2埋葬 6層ブロック | 5.10 | 2.60 | 10 | 散漫 | ナマー1, 磁化岩3, 安山岩4, 石英閃長岩2 | 第2号埋葬6号器ブロ ックと重複。 | |
| 102 | 吉岡C区 | BB2 | B2 | 第3埋葬 7層ブロック | 2.90 | 2.10 | 14 | 散漫 | 不明 | 中粒磁化岩12, 安山岩2 | 第2号埋葬10号器ブロ ックと重複。 |
| 102 | 吉岡C区 | BB2 | B2 | 第3埋葬 8層ブロック | 5.80 | 3.60 | 23 | 散漫 | 不明 | 磁化岩13, 中粒磁化岩2, 安山 岩5, 砂岩1, 泥質岩2 | 第2号埋葬11号器ブロ ックと重複。 |
| 102 | 吉岡C区 | BB2 | B2 | 第4埋葬 9層ブロック | 1.80 | 1.20 | 4 | 散漫 | 不明 | 磁化岩5, 泥質岩1 | |
| 102 | 吉岡C区 | BB2 | B2 | 第5埋葬 10層ブロック | 1.30 | 0.70 | 4 | 散漫 | 不明 | 磁化岩3, 泥質岩1 | |

| 遺跡 No. | 遺跡名 | 確認 層位 | 文化層 | 遺構名 | 長軸 (m) | 短軸 (m) | 埋 合 | 分 布 | 種の状態 | 構 造 物 類 成 | 備 考 (共伴遺物等) |
|-----------|------|----------|-----|-----------------|-----------|-----------|--------|-----|------|--|--------------------------------------|
| 102 | 吉岡C区 | B8B2 | B2 | 第5堆存 11壁ブロック | 8.80 | 7.20 | 105 | 集中 | 不明 | 基底岩57、柱貫頭粒状灰岩1、 沈軟岩質灰岩1、砂岩1、安 山岩5、Ho13、砂岩26、瓦砾 27 | 第5石器群18石器ブロ ックと一部19石器ブロ ックと重複。 |
| 102 | 吉岡C区 | B8B2 | B2 | 第5堆存 12壁ブロック | 5.60 | 4.60 | 33 | 散漫 | 不明 | 基底岩19、中粒凝灰岩1、Ho7、 砂岩22、瓦砾岩4 | 第5石器群29石器ブロ ックと重複。 |
| 102 | 吉岡C区 | B8B2 | B2 | 第5堆存 13壁ブロック | 5.30 | 3.90 | 62 | 散漫 | 不明 | 基底岩28、火山巣凝灰岩1、中 粒凝灰岩1、安山岩5、Ho7、 砂岩12、瓦砾岩3、粘晶岩72 | 第5石器群19:6石器ブロ ックと重複。 |
| 102 | 吉岡C区 | B8B2 | B2 | 第5堆存 14壁ブロック | 4.00 | 2.60 | 22 | 散漫 | 不明 | 基底岩16、安山岩3、瓦砾岩23 | 第5石器群19石器ブロ ックと重複。 |
| 102 | 吉岡C区 | B8B2 | B2 | 第5堆存 15壁ブロック | 1.30 | 0.60 | 6 | 散漫 | 不明 | 基底岩2、Ho1、砂岩1、瓦砾 岩22 | 第5石器群20石器ブロ ックと重複。 |
| 102 | 吉岡C区 | B8B2 | B2 | 第5堆存 16壁ブロック | 10.50 | 7.20 | 35 | 散漫 | 不明 | 基底岩10、硬質細粒状灰岩1、 中粒凝灰岩1、沈軟岩質灰岩1、 安山岩11、Ho6、砂岩22、 瓦砾岩3 | 第5石器群29石器ブロ ックと重複。 |
| 102 | 吉岡C区 | B8B2 | B2 | 第5堆存 17壁ブロック | 3.60 | 3.20 | 30 | 散漫 | 不明 | 小粒凝灰岩2、中粒凝灰岩28、 安山岩7、瓦砾岩1、石英岩 29 | 第5石器群20石器ブロ ックと重複。 |
| 102 | 吉岡C区 | B8B2 | B2 | 第5堆存 18壁ブロック | 7.80 | 7.20 | 52 | 集中 | 不明 | チート1、基底岩12、粗粒凝 灰岩1、硬質細粒状灰岩3、中 粒凝灰岩18、Ho2、砂岩7、瓦 砾岩6、石英2 | 第5石器群21石器ブロ ックと重複。 |
| 102 | 吉岡C区 | B8B2 | B2 | 第5堆存 19壁ブロック | 6.00 | 4.80 | 6 | 散漫 | 不明 | 基底岩3、砂岩1、瓦砾岩2 | 第5石器群25石器ブロ ックと重複。 |
| 102 | 吉岡C区 | B8B2 | B2 | 第5堆存 20壁ブロック | 2.60 | 2.20 | 67 | 密集 | 不明 | 細粒岩11、火山巣凝灰岩2、中 粒凝灰岩7、沈軟岩質灰岩2、 安山岩17、Ho3、砂岩7、瓦砾 岩18 | 第5石器群26石器ブロ ックと重複。 |
| 102 | 吉岡C区 | B8B2 | B2 | 第5堆存 21壁ブロック | 1.90 | 1.60 | 117 | 密集 | 不明 | 細粒岩64、硬質細粒状灰岩1、 中粒凝灰岩5、沈軟岩質灰岩 3、安山岩5、Ho6、砂岩1、 瓦砾岩16 | 第5石器群26石器ブロ ックと重複。 |
| 102 | 吉岡C区 | B8B2 | B2 | 第5堆存 22壁ブロック | 2.60 | 1.10 | 29 | 集中 | 不明 | 細粒岩10、安山岩3、Ho2、砂 岩4、瓦砾岩1 | 第5石器群26石器ブロ ックと重複。 |
| 102 | 吉岡C区 | B8B2 | B2 | 第5堆存 23壁ブロック | 7.60 | 6.00 | 71 | 集中 | 不明 | 細粒岩41、中粒凝灰岩6、油紋 岩10、安山岩2、砂岩4、Ho3、 砂岩2、瓦砾岩11、瓦砾岩1、 瓦砾岩1 | 第5石器群27石器ブロ ックと重複。 |
| 102 | 吉岡C区 | B8B2 | B2 | 第5堆存 24壁ブロック | 2.40 | 0.60 | 3 | 散漫 | 不明 | 細粒岩1、油紋岩質凝灰岩1、 安山岩1 | 第5石器群27石器ブロ ックと重複。 |
| 102 | 吉岡C区 | B8B2 | B2 | 第5堆存 25壁ブロック | 5.20 | 2.50 | 76 | 集中 | 不明 | 細粒岩34、中粒凝灰岩6、安山 岩3、Ho12、砂岩10、瓦砾岩5、 瓦砾岩1 | 第5石器群28石器ブロ ックと重複。 |
| 102 | 吉岡C区 | B8B2 | B2 | 第5堆存 26壁ブロック | 5.50 | 2.00 | 15 | 散漫 | 不明 | 細粒岩8、中粒凝灰岩1、安山 岩5、瓦砾岩1 | 第5石器群31石器ブロ ックと重複。 |
| 102 | 吉岡C区 | B8B2 | B2 | 第5堆存 27壁ブロック | 4.40 | 4.40 | 11 | 散漫 | 不明 | 細粒岩7、瓦砾岩4 | 第5石器群24石器ブロ ックと重複。 |
| 102 | 吉岡C区 | B8B2 | B2 | 第5堆存 28壁ブロック | 4.90 | 2.40 | 10 | 散漫 | 不明 | 細粒岩8、砂岩1、瓦砾岩1 | 第5石器群30石器ブロ ックと重複。 |
| 102 | 吉岡C区 | B8B2 | B2 | 第5堆存 29壁ブロック | 3.20 | 1.80 | 3 | 散漫 | 不明 | 細粒岩11、安山岩1、砂岩1 | 第5石器群30石器ブロ ックと重複。 |
| 102 | 吉岡C区 | B8B2 | B2 | 第5堆存 30壁ブロック | 2.40 | 1.70 | 6 | 散漫 | 不明 | 細粒岩12、安山岩2、瓦砾岩2 | 第5石器群31石器ブロ ックと重複。 |
| 102 | 吉岡C区 | B8B2 | B2 | 第5堆存 31壁ブロック | 7.10 | 4.30 | 65 | 密集 | 不明 | 細粒岩12、硬質細粒状灰岩1、 中粒凝灰岩2、安山岩42、砂岩 3、瓦砾岩22、石英 | 第5石器群32石器ブロ ックと重複。 |
| 102 | 吉岡C区 | B8B2 | B2 | 第5堆存 32壁ブロック | 10.40 | 6.80 | 12 | 散漫 | 不明 | 細粒岩6、硬質中粒凝灰岩2、 安山岩14 | 第5石器群33・34石器 ブロックと重複。 |
| 102 | 吉岡C区 | B8B2 | B2 | 第5堆存 33壁ブロック | 5.00 | 4.50 | 31 | 集中 | 不明 | 細粒岩10、硬質細粒状灰岩1、 中粒凝灰岩22、沈軟岩質凝灰 岩3、安山岩9、Ho2、砂岩23、 瓦砾岩21、瓦砾岩8、瓦砾岩12、 石英4、瓦砾岩1 | 第6石器群35石器ブロ ックと重複。 |
| 102 | 吉岡C区 | B8B2 | B2 | 第5堆存 34壁ブロック | 5.00 | 3.00 | 87 | 密集 | 不明 | 細粒岩4、油紋岩質凝灰岩1、硬 質細粒状灰岩1、火山巣凝灰岩1、 中粒凝灰岩22、沈軟岩質凝灰 岩3、安山岩9、Ho2、砂岩23、 瓦砾岩21、瓦砾岩8、瓦砾岩12、 石英2 | 第6石器群36石器ブロ ックと重複。 |

| 遺跡 No. | 遺跡名 | 確認層位 | 文化層 | 遺構名 | 長軸 (m) | 短軸 (m) | 総面 積合計面積 | 分布 | 種の状態 | 種群石材組成 | 調査者 (共伴遺物等) |
|-----------|------|------------------|-----|---------------------------|-----------|-----------|-------------|----------|--|--|--|
| 103 | 吉岡D区 | B82 | B2 | 第1複数 1層ブロック | 8.00 | 6.00 | 74 | 密集 | 不明 | 縞貫繊維灰岩7、火山巖灰岩 中粒灰岩22、安山岩11、 ホル2、硬質砂岩5、菱形岩12、 輝緑岩11、結晶片22 | 第1石器群1石器プロ トックと重複。 |
| 103 | 吉岡D区 | B82 | B2 | 第2複数 2層ブロック | 7.00 | 4.00 | 3 | 散漫 | 不明 | チャート1、中粒灰岩1、輝 緑岩1 | 第3石器群5石器プロ トックと重複。 |
| 107 | 今田 | B82U | IV | 1号複数 | 1.50 | 1.40 | 54 (50) | 密集 | 赤化：55、スス： 16、タル：2、完 形：33 - 破損：17 | 砂岩16、火鉢岩2、チャート-7、 閃綠岩5、安山岩2、凝灰岩1 等の中から複数2の みが出土。各項目中 の量の数値は複合後 の数値。 | |
| 107 | 今田 | B82U | IV | 2号複数 | 1.20 | 1.20 | 21 (19) | 密集 | 赤化：21、スス： 11、タル：1、完 形：6 - 破損：13 | 砂岩12、チャート2、火鉢岩2 等の中から複数2の みが出土。各項目中 の量の数値は複合後 の数値。 | |
| 109 | 代官山 | B82UL | VI | 難集中1 | - | - | 43 | - | 完形：8 - 破損：35 | | 石器集中Aと重複。 |
| 109 | 代官山 | B82UL | VI | 難集中2 | - | - | 16 | - | 完形：2 - 破損：14 | | 石器集中Bと重複。 |
| 109 | 代官山 | B82UL | VI | 難集中3 | - | - | 18 | - | 完形：3 - 破損：15 | | 石器集中Gと重複。 |
| 109 | 代官山 | B82UL | VI | 難集中4 | - | - | 6 | - | 完形：2 - 破損：4 | | |
| 109 | 代官山 | B82UL | VI | 難集中5 | - | - | 20 | - | 完形：1 - 破損：19 | | |
| 109 | 代官山 | B82UL | VI | 難集中6 | - | - | 8 | - | 完形：0 - 破損：8 | | |
| 109 | 代官山 | B82UL | VI | 難集中7 | - | - | 5 | - | 完形：1 - 破損：4 | | |
| 109 | 代官山 | B82UL | VI | 難集中8 | - | - | 5 | - | 完形：2 - 破損：3 | | |
| 109 | 代官山 | B82UL | VI | 難集中9 | - | - | 32 | - | 完形：4 - 破損：28 | | 石器集中Jと重複。 |
| 109 | 代官山 | B82UL | VI | 難集中10 | - | - | 5 | - | 完形：0 - 破損：5 | | |
| 109 | 代官山 | B82UL | VI | 難集中11 | - | - | 6 | - | 完形：3 - 破損：3 | | |
| 109 | 代官山 | B82UL | VI | 難集中12 | - | - | 12 | - | 完形：2 - 破損：10 | | 石器集中Kと重複。 |
| 109 | 代官山 | B82UL | VI | 難集中13 | - | - | 21 | 散漫 | 完形：11 - 破損： 19 | | 石器集中Mと重複。 |
| 109 | 代官山 | B82UL | VI | 難集中14 | - | - | 12 | - | やや 密集 | 完形：4 - 破損：8 | 石器集中Lと重複。 |
| 109 | 代官山 | B82UL | VI | 難集中15 | - | - | 6 | やや 密集 | 完形：2 - 破損：4 | | |
| 109 | 代官山 | B82UL | VI | 難集中16 | - | - | 47 | 密集 | 完形：7 - 破損：40 | | |
| 109 | 代官山 | B82UL | VI | 難集中17 | - | - | 11 | やや 密集 | 完形：3 - 破損：8 | | 石器集中Nと重複。 |
| 109 | 代官山 | B82UL | VI | 難集中18 | - | - | 13 | 散漫 | 完形：6 - 破損：7 | | |
| 109 | 代官山 | B82UL | VI | 難集中19 | - | - | 4 | 散漫 | 完形：1 - 破損：3 | | 石器集中Oと重複。 |
| 109 | 代官山 | B82UL | VI | 難集中20 | - | - | 19 | 散漫 | 完形：7 - 破損：12 | | 石器集中Pと重複。 |
| 109 | 代官山 | B82UL | VI | 難集中21 | - | - | 36 | 密集 | 完形：15 - 破損： 21 | | |
| 109 | 代官山 | B82UL | VI | 難集中22 | - | - | 44 | 密集 | 完形：20 - 破損： 24 | | 石器集中Qと重複。 |
| 109 | 代官山 | B82UL | VI | 難集中23 | - | - | 11 | やや 密集 | 完形：5 - 破損：6 | | |
| 109 | 代官山 | B82UL | VI | 難集中24 | - | - | 18 | やや 密集 | 完形：4 - 破損：14 | | |
| 109 | 代官山 | B82UL | VI | 難集中25 | - | - | 4 | やや 密集 | 完形：2 - 破損：2 | | |
| 109 | 代官山 | B82UL | VI | 難集中26 | - | - | 25 | - | 完形：4 - 破損：21 | | |
| 109 | 代官山 | B82UL | VI | 難集中27 | - | - | 2 | - | 完形：0 - 破損：2 | | |
| 109 | 代官山 | B82UL | VI | 難集中28 | - | - | 2 | - | 完形：0 - 破損：2 | | |
| 111 | 南殿治山 | L2L ～ B82U | - | 遺物集中部 0591 | 9.50 | 7.50 | 332 (72) | やや 密集 | 赤化：101、スス： 3、タル：8 | 凝灰岩39、砂岩26、安山岩19、 頁岩17、ホルンフェルス11、 輝緑岩7、中粒灰岩2、玄武岩5、四 角岩5、シルト岩2、輝緑凝灰 岩2、流紋岩1 | 赤R1とR2を合わせた 分母範囲は、東北 7.0km、東F3.6km。 |
| 111 | 南殿治山 | B82U | - | 遺物集中部 0593 (E01) | 1.40 | 1.20 | 6 (5) | やや 密集 | 赤化：9、スス： 0、タル：1 | 直岩6、砂岩4、凝灰岩2、玄武 岩1 | 石器類は南寄り。非 本遺跡の位置は不 確定である可能性が 高い(以降)。 |
| 111 | 南殿治山 | B82U | - | 遺物集中部 0593 (E02) | 1.60 | 1.60 | 7 (6) | やや 密集 | | 輝緑岩19、ホルンフェルス2、 輝緑灰岩7、中粒灰岩6、玄武岩5、 輝緑凝灰岩3、直岩3、安山 岩2、火山輝緑灰岩2、泥岩 等。 | 北に 輝緑岩、中央東に 輝緑岩、南西にその他の 石材が分布。 |
| 111 | 南殿治山 | B82U | - | 遺物集中部 0701 | 南北 4.0 | 東西 1.9 | 55 (46) | やや 密集 | 赤化：42、スス： 0、タル：7 | 輝緑岩17、安山玄武岩4、千枚 岩2、ヒン岩1 | 阿比張区内のE2、3 号遺物集中部とは時期 が異なる。接合は本 遺物集中部に固定され、 時間差。分布は、同 遺物区第1号石器集中 部と重複。 |
| 116 | 南葛野 | L2U | II | 第12号被覆区 内 第1号遺 物集中部 | 1.10 | 1.10 | 24 | やや 密集 | 赤化：21、黒色付 着物：12、ほぼ完 形：1 - 破損：23 | 輝灰岩17、安山玄武岩4、千枚 岩2、ヒン岩1 | |

神奈川県における旧石器時代の遺構（その4）

| 遺跡No. | 遺跡名 | 確認層位 | 文化層 | 遺構名 | 長軸 (m) | 短軸 (m) | 面積 面積合計 | 分布 | 発の状態 | 礫群材石組 | 備考 (共伴遺物等) |
|-------|-------|------------------------------|-----|--------------------------|-----------|-----------|------------|------------------------------|--|--|---|
| 116 | 市原野 | L2 ～ BB2U | II | 第12号松原区内 第2号堆积 集中部 | 10.00 | 7.00 | 450 | 密集 | 赤化：287、黑色付 着物：26、定形：26 (14は定形2点を含む) ・破損：424 | 赤岩101、真岩75、安山岩或 岩63、シルト岩53、安山岩44、 砂岩1、玄武岩16、火山灰1、 白化1、泥岩4、泥質灰岩12、 輝緑岩7、閃雲岩6、珪質灰岩5、 火成岩4、火成岩23、輝緑岩4、 輝緑岩14、火成岩13、輝緑岩1、 安山岩1、玄武安山岩1、ナ イト1、玄石岩1 | 分布は、阿波松原区 内5号堆积中部と 1-3号堆积中部と ほぼ重複。接合部は49 cmで確認。同地区区内 の第3号堆积中部とも 接合関係あり。 |
| 116 | 市原野 | L2 ～ BB2U | II | 第12号松原区内 第3号堆积 集中部 | 5.00 | 1.00 | 66 | やや 密集 | 赤化：35、黒色付 着物：38、破損： 59 | 赤岩24、真岩20、支 露安山岩5、頁岩2、シルト岩 1、火成岩1、玄武岩1、 輝緑岩1、泥岩1、珪質灰 岩1、安山岩1、輝緑岩1、 硅質灰岩1、不明：7 | 分布は、阿波松原区 内4号堆积区 内器皿集中部とほぼ 重複。調査区外に分 布あり。接合は同地区 区内の第3号堆积 集中部とも接合関 係あり。 |
| 116 | 市原野 | BB2L (BB2S ～4) | II | 第13号松原区内 第1号堆积 集中部 | 0.37 | 0.21 | 6 | 密集 | 赤化：4、定形：2 | 玄黄安山岩5、安山岩1 | 出土石器と全く 同一で、同地区内 は器皿集中部と外 出地帯を少し、同地区區 内5号堆积集中部と 接合する。 |
| 116 | 市原野 | BB2U ～ BB2M | II | 第13号松原区内 第2号堆积 集中部 | 1.35 | 1.35 | 7 | やや 密集 | 赤化：7、黒色付 着物：2、定形：1、 破損：6 | 安山岩6、砂岩1 | 出土石器と全く 同一で、同地区内 は器皿集中部と外 出地帯を少し、同地区區 内5号堆积集中部と 接合する。 |
| 116 | 市原野 | BB2U ～ BB2M | II | 第13号松原区内 第3号堆积 集中部 | 1.40 | 0.80 | 6 | やや 密集 | 赤化：6、黒色付 着物：5、定形：1、 破損：5 | 安山岩5、凝灰岩1 | 場合は集中地點外 出地帯を少し、同地区區 内5号堆积集中部と出 土資料との間で確認。 |
| 116 | 市原野 | BB2U ～ BB2M | II | 第13号松原区内 第4号堆积 集中部 | 1.40 | 1.35 | 16 | 密集 | 赤化：6、黒色付 着物：3、破損：16 | 安山岩16 | 調査区外に分布が広 がる可能性あり。 |
| 116 | 市原野 | L2LL ～ BB2U (BB2-1) | II | 第15号松原区内 第1号堆积 集中部 | 1.80 | 1.60 | 34? | 密 (本文中 では33.00) | 赤化：20、黒色付 着物：3、定形：3 (14は定形2点を含 む)・破損：31 | 安山岩27、凝灰岩2、頁岩2、 泥岩2、砂岩1 | 場合は集中地點外 出地帯を少し、同地区區 内5号堆积集中部と出 土資料との間で確認。 |
| 116 | 市原野 | L2LL ～ BB2U (BB2-1) | II | 第15号松原区内 第2号堆积 集中部 | 2.40 | 2.40 | 32? | やや 密集 (本文中 では33.00) | 赤化：14、黒色付 着物：18、定形：1 (14は定形2点を含 む)・破損：21 | 安山岩17、玄武安山岩9、凝 灰岩4、頁岩2 | 9点の玉石點群を含 む。玉石點群の出土 位置はB2B2層中部 (BB2-2層)で、時間が が異なる可能性あり。 |
| 118 | 庵原SPC | L2LL | IV | 第1調査区内 第1堆积集中部 | 5.80 | 5.40 | 86 | 密集 | 赤成灰：2、赤化： 8、黒色付着物： 59、定形：6 (14は定形1点を含 む)・破損：80 | 凝灰岩37、硅質泥岩10、安山 岩8、砂岩27、シルト岩4、頁 岩4、砂岩4、泥岩1、火成岩1、 泥灰岩3、硅質頁岩2、斑臘岩1、 綠泥岩1、泥岩1、安山岩1 | 分布は同地区第1石器集 中部と重複。 |
| 118 | 庵原SPC | L2M | IV | 第4調査区内 第1堆积集中部 | 4.60 | 4.60 | 24 | やや 散漫 | 赤成灰：23、赤化： 18、黒色付着物： 21、1は定形 (14は定形2点を含 む)・破損：80 | 凝灰岩15、泥岩25、火山凝灰 岩22、砂岩1、泥岩1 | 部分的に密集する箇 所も存在。 |
| 118 | 庵原SPC | L2LL | IV | 第4調査区内 第2堆积集中部 | 5.00 | 5.00 | 24 | 散漫 | 赤成灰：11、赤化： 3、黒色付着物： 13、定形：6、 種類：24 | 凝灰岩8、泥岩5、砂岩5、安山 岩5、火山凝灰岩1 | 北西部に分布が広 がる可能性あり。同地区 内4号堆积中部と接合 関係あり。 |
| 118 | 庵原SPC | L2LL | IV | 第4調査区内 第3堆积集中部 | 4.40 | 2.20 | 7 | 散漫 | 赤成灰：5、赤化： 1、黒色付着物：5、 定形：7 | 泥岩15、泥岩2、シルト岩2 | 同地区第1石器集 中部と重複。 |
| 118 | 庵原SPC | BB2UU | IV | 第4調査区内 第4堆积集中部 | 4.60 | 4.40 | 46 | やや 密集 | 赤成灰：18、赤化： 2、黒色付着物： 20、定形：1、 種類：45 | 砂岩14、凝灰岩13、火山凝灰 岩10、泥岩4、安山岩2、シ ルト22、閃雲岩1 | 分布は同地区第1石器集 中部と重複。同地区 内2-3号堆积集中部と接 合関係あり。 |
| 118 | 庵原SPC | L2M ～ BB2U | IV | 第5調査区内 第1堆积集中部 | 2.80 | 2.40 | 8 | 密集 | 赤成灰：2、赤化： 1、黒色付着物： 3、定形：0、 破損：8 | 砂岩27、凝灰岩18 | 同地区第4堆积集中部と接 合関係あり。 |
| 118 | 庵原SPC | L2L ～ BB2U | IV | 第5調査区内 第2堆积集中部 | 4.40 | 2.80 | 43 | 密集 | 赤成灰：23、赤化： 5、黒色付着物： 19、定形：3 (14は定形1点を含 む)・破損：40 | 安山岩23、玄武岩質安山岩12、 閃雲岩64、凝灰岩1、火成岩2、 泥岩1、花崗岩16、砂岩1 | 平面分布は東西2箇所に 分離可能。並石器 10点を含む。 |
| 118 | 庵原SPC | L2L ～ BB2U | IV | 第5調査区内 第3堆积集中部 | 2.80 | 2.00 | 3 | 散漫 | 赤成灰：0、赤化： 0、黒色付着物： 0、定形：0、 破損：3 | 安山岩22、砂岩1 | 平面分布は南西部の 集落部と東北部のま とまりに分かれ。 |
| 118 | 庵原SPC | L2L ～ BB2U | IV | 第6調査区内 第1堆积集中部 | 3.00 | 3.00 | 12 | 密集 | 赤成灰：7、赤化： 7、黒色付着物： 2、定形：0、 破損：12 | 安山岩9、泥岩1、砂岩1、 泥岩1 | 平面分布は南西部の 集落部と東北部のま とまりに分かれ。 |

| 通 路 No. | 道 跡 名 | 確 認 場 位 | 文 化 層 | 道 構 名 | 長 軸 (m) | 幅 軸 (m) | 緯 度 帶 合 算 | 分 布 | 地 の 状 態 | 確 認 石 材 組 成 | 備 考 (共伴遺物等) |
|---------------|-------------|--------------------------|-------------|-------------------|---------------|---------------|-----------------------|----------|--|---|---|
| 115 | 鹿鹿SFC | L2L ～ BB2U | IV | 第6調査区内 第5埋集中部 | 4.20 | 3.80 | 27 | やや 密集 | 地表直下：15、赤 色：10、黒色：5、 白色：11、完形：4 (ほぼ完形1点を含 む)・破損：23 | 砂岩10、安山岩7、玄武岩 安山岩6、火山礁凝灰岩2、泥 岩1、砾砂岩1 | 分部は同区間3回調査中と重複。 本部集中部内南側に衝突點あ り。堆積6点を含む。 |
| 116 | 鹿鹿SFC | L2L ～ BB2U | IV | 第6調査区内 第6埋集中部 | 7.20 | 5.00 | 66 | やや 密集 | 地表直下：22、赤 色：8、黒色付着 物：16、完形：5 (ほぼ完形4点を含 む)・破損：40 | 砂岩13、泥岩10、安山岩9、閃 长岩6、玄武岩安山岩5、ホ ルンフェルス2、砾砂岩1 | 分部は同区間4回調査中と重 複する。砂岩と輝石岩の分界には 偏りが見られる。 |
| 117 | 鹿鹿SFC | BB1L L2U | IV | 第6調査区内 第6埋集中部 | 2.20 | 2.00 | 5 | 密集 | 地表直下：0、赤化： 0、黒色付着物： 0、完形： 0 | 泥岩3、砾砂岩1、閃綠岩1 | 東石器1点を含む。 |
| 118 | 鹿鹿SFC | L2L ～ BB2U | IV | 第6調査区内 第6埋集中部 | 5.80 | 4.20 | 48 | やや 散在 | 地表直下：21、赤 色：12、黒色付着 物：16、完形： 9(ほぼ完形5点を含 む)・破損：31 | 砂岩14、安山岩10、泥岩7、砾 砂岩3、玄武岩安山岩4、 泥岩1 | 分部は南北に分かれ る。西側では泥岩と輝 石岩の分界には偏りが 見られる。 |
| 119 | 鹿鹿SFC | BB2U | IV | 第6調査区内 第6埋集中部 | 7.80 | 7.60 | 206 | やや 密集 | 地表直下：95、赤 色：69、黒色付着 物：66、完形： 29(ほぼ完形9点を含 む)・破損：168、 不明2 | 安山岩81、砂岩37、泥岩36、 玄武岩安山岩17、砾砂岩12、 泥岩12、輝石岩10、角閃石安山岩8、 泥岩8、玄武岩2、ホルンフェル ス2、砾砂岩1、閃綠岩質斑雜 岩1、泥岩1 | 分部は同区間第4～8回調 査中と重複する。本部集中部 北側では泥岩と輝石岩の分 界には偏りが見られる。 |
| 120 | 鹿鹿SFC | L2L ～ BB2UL | IV | 第6調査区内 第10埋集中部 | 6.20 | 3.60 | 26 | やや 散在 | 地表直下：14、赤 色：14、黒色付着 物：14、完形：5 (ほぼ完形2点を含 む)・破損：21 | 砂岩19、安山岩7、泥岩4、砾 砂岩1、玄武岩安山岩2、閃綠 岩1、砾砂岩1 | 分部は同区間9回調査中と重 複する。分部は南北に広が る。3回所のまとまりに偏 りがある。東石器2点を含む。 各種データ一覧表は、同 区間3回点分について記 載する。 |
| 121 | 鹿鹿SFC | BB2UL L | IV | 第6調査区内 第11埋集中部 | 2.60 | 2.20 | 4 | やや 密集 | 地表直下：3、赤化： 0、黒色付着物： 2、完形： 0、破損： 4 | 安山岩3、泥岩1 | 同区間13埋集中部と接 合関係あり。 |
| 122 | 鹿鹿SFC | BB2UL L | IV | 第6調査区内 第12埋集中部 | 2.20 | 2.20 | 4 | やや 密集 | 地表直下：3、赤化： 2、黒色付着物： 3、完形： 4 | 安山岩2、砾砂2 | 同区間13埋集中部と接 合関係あり。 |
| 123 | 鹿鹿SFC | BB2UL ～ BB2LU | IV | 第6調査区内 第13埋集中部 | 5.80 | 4.30 | 68 | やや 密集 | 地表直下：55、赤 色：32、黒色付着 物：55、完形： 14(ほぼ完形10点を含 む)・破損：54 | 安山岩21、泥岩13、砾砂岩11、 砂岩6、質41、砾砂岩5、泥岩 32、玄武岩安山岩2、泥 岩12、角閃石安山岩1、 閃綠岩1、砾砂岩1、不明1 | 分部は中央部に黒雲 母を持ち東西に広が る。泥岩2点を含む。 |
| 124 | 鹿鹿SFC | BB2U と BB2L の境界 | IV | 第6調査区内 第14埋集中部 | 3.60 | 2.20 | 5 | 散在 | 地表直下：0、赤化： 0、黒色付着物： 0、完形： 0、破損： 5 | 安山岩2、玄武岩安山岩2、 泥岩1 | 分部は同区間2回調査中と重 複する。本部集中部外の北側出 土石器と接合関係ある。 |
| 125 | 鹿鹿SFC | L2LL | IV | 第6調査区内 第15埋集中部 | 2.20 | 2.20 | 3 | 密集 | 地表直下：2、赤化： 1、黒色付着物： 2、完形： 0、破損： 3 | 砾砂岩3 | 分部は同区間10回調 査中と重複。同区 間16埋集中部と接 合関係あり。 |
| 126 | 鹿鹿SFC | L2L ～ BB2U | IV | 第6調査区内 第16埋集中部 | 4.60 | 3.40 | 10 | 散在 | 地表直下：5、赤化： 5、黒色付着物： 1、完形： 2、破損： 8 | 玄武岩安山岩6、安山岩1、 砾砂岩1、泥岩1、チャート 1 | 分部は同区間10回調 査中と重複。モリ 石7点を含む。同区 間15埋集中部と接 合関係あり。 |
| 127 | 鹿鹿SFC | L2～ BB2L | IV | 第6調査区内 第17埋集中部 | 3.40 | 2.80 | 11 | やや 散在 | 地表直下：8、赤化： 5、黒色付着物： 5、完形： 0、破損： 11 | 砾砂岩3、安山岩3、砾 砂岩2、泥岩1、玄武岩1 | 分部は同区間11回調 査中と重複。モリ 石7点を含む。同区 間10～16埋集中部と接 合関係あり。 |
| 128 | 鹿鹿SFC | L2L ～ BB2U | IV | 第6調査区内 第18埋集中部 | 4.20 | 4.00 | 41 | やや 密集 | 地表直下：19、赤 色：16、黒色付着 物：20、完形： 7(ほぼ完形1点を含 む)・破損：23 | 安山岩10、泥岩9、砂岩6、玄 武岩5、質25、砾砂岩5、 泥岩3、角閃石1、閃綠 岩1、砾砂岩1、玄武岩1 不明1 | 分部は同区間12回調 査中と重複。モリ 石7点を含む。 |
| 129 | 川尻 | BB2U ～ BB2ML | V | 1号堆疊 | 5.90 | 1.80 | 61 | 集中 | 地表：ほとんど ない、チャート： 3、完形： 0、破損： 61 | 輝石量：1370.0 kg、総重量： 16kg、合計点数： 17 | 輝石量：1370.0 kg、総重量： 16kg、合計点数： 17 |
| 130 | 川尻 | BB2UL ～ BLU | V | 2号堆疊 | 5.00 | 5.00 | 63 | 集中 | 地表：ほとんど ない、チャート： 7、完形： 0、破損： 60 | 輝石量：2280.0 kg、総重量： 21kg、合計点数： 23 | 輝石量：2280.0 kg、総重量： 21kg、合計点数： 23 |

神奈川県における旧石器時代の遺構（その4）

| 遺跡 No. | 遺跡名 | 標記 層位 | 文化層 | 通構名 | 長軸 (m) | 短軸 (m) | 種数 含合個数 | 分布 | 様の状態 | 標群石材組成 | 備考 (共伴遺物等) | |
|-----------|-------------|-------------------|------|--------|-----------|-----------|------------|-----------------------|--------------------------------------|--|---|--------------------|
| 120 | 田尻 | BH2ML ~L2L | V | 3号縦群 | 4.20 | 3.00 | 89 | 集中 | 赤化：ほとんど、 スス・タール：11、 完形：6、破損：89 | 中乾燥灰岩80、流紋岩9 | 標の重量：276.1kg 接合部数：18 | |
| 120 | 田尻 | B2UU ~ B2UL | V | 4号縦群 | 2.40 | 2.10 | 7 | 散漫 | - | - | - | |
| 128 | 宮ヶ瀬サザン ケ | B2U2 | VII | P2号縦群 | 1.20 | 0.80 | 41 39 | 集中 | 赤化38・スス26・ ヒビ28、完形：7、 破損：1 | 中乾燥灰岩16、安山岩11、粗 粒凝灰岩10、斑臘岩2、玄武岩1 | P3号縦群と混合關係 をもつ。 | |
| 128 | 宮ヶ瀬サザン ケ | B2U2 | VII | P3号縦群 | 0.80 | 0.60 | 123 34 | 密集 | 赤化33・スス26・ ヒビ28、完形：6、 破損：117 | 中乾燥灰岩10、安山岩12、粗 粒凝灰岩5、尾機岩2、火山標 凝灰岩2、石英閃緑岩1 | 浅い組込みをもち、 洗土を伴う。P2・4、 5号縦群と混合關係 をもつ。 | |
| 128 | 宮ヶ瀬サザン ケ | B2U2 | VII | P4号縦群 | 0.80 | 0.40 | 23 13 | 集中 | 赤化13・スス11・ ヒビ12、完形：3、 破損：20 | 中乾燥灰岩4、安山岩5、粗粒 凝灰岩1、斑臘岩2、火山標 凝灰岩1 | P3号縦群と混合關係 をもつ。 | |
| 128 | 宮ヶ瀬サザン ケ | B2U2 | VII | P5号縦群 | 1.00 | 0.30 | 19 | 9 | 散漫 | 赤化・スス・ヒ ビ3、完形：0、破 損：19 | 中乾燥灰岩3、安山岩3、粗粒 凝灰岩2、石英閃緑岩1 | P3号縦群と混合關係 をもつ。 |
| 171 | 窓口(温泉A) | B2ZLU U | II | 縦集中 | | | 104 | 集中 | 完形：6、破碎9、 不明：7、被熱：74 | 中乾燥灰岩など | ブロック敷設 | |
| 170 | 窓口(本館) | B2Z | II | - | - | - | 4185 | | | | 1~5号縦群含む | |
| 171 | 窓口(本館) | B2Z | II | 1号縦群 | | | 24 | 集中 | 完形：6、破碎9、 不明：9、被熱：6 | 台石：1、磨石：7、 剥片：6、残塊：1 | | |
| 171 | 窓口(本館) | B2Z | II | 2号縦群 | | | 10 | 密集 | 完形：9、破損1、 不明：0 | 安山岩 | 磨石：10 磨り石集積 | |
| 171 | 窓口(本館) | B2Z | II | 3号縦群 | | | 30 | | 完形：8、破碎16、 不明：4、被熱：24 | 安山岩・中乾燥灰岩など | 磨石：2 | |
| 171 | 窓口(本館) | B2Z | II | 4号縦群 | | | 13 | 密集 | 完形：4、破碎5、 不明：0、被熱：8 | 火山標凝灰岩、粗粒標凝灰岩、 安山岩 | 台石：1 | |
| 171 | 窓口(本館) | B2Z | II | 5号縦群 | | | 66 | 集中 | 完形：12、破碎1、 不明：51、不明：3、被 熱：62 | 中乾燥灰岩 | 磨石：1 | |
| 171 | 窓口(温泉C・D) | B2Z | II | 縦集中 | | | 377 | | 完形：19、破碎： 不明：296、不明：308 | 安山岩、斑臘安山岩、粗 粒斑臘安山岩、中乾燥灰岩、 石英閃綠岩 | 7~10号所の集中地點 存在。 | |
| 176 | 朝霧野No.121 | B2U2 | | | | | | | | | B2ZLU20cm下位に供 出 | |
| 185 | 高麗浜羽引地内 | B2ZUL | V | P1号縦群 | 4.60 | 4.00 | 126 | 集中 | 赤化：18%、完形：4 | 不明 | | |
| 185 | 高麗浜羽引地内 | B2ZUL | V | P2号縦群 | 4.00 | 2.50 | 68 | 集中 | 赤化：68、破損：58 | 不明 | | |
| 185 | 高麗浜羽引地内 | B2ZUL | V | P3号縦群 | 3.40 | 1.40 | 48 | 集中 | 赤化：48、破損：48 | 不明 | | |
| 185 | 高麗浜羽引地内 | B2ZUL | V | P4号縦群 | 4.40 | 2.80 | 43 | 集中 | 赤化：43、完形：2 | 不明 | | |
| 185 | 高麗浜羽引地内 | B2ZUL | V | P5号縦群 | 5.00 | 2.10 | 37 | 集中 | 赤化：37、破損：37 | 不明 | | |
| 185 | 高麗浜羽引地内 | B2ZUL | V | P6号縦群 | 3.00 | 2.40 | 34 | 集中 | 赤化：34、破損：34 | 不明 | | |
| 185 | 高麗浜羽引地内 | B2ZUL | V | P7号縦群 | 3.70 | 2.60 | 28 | 散漫 | 赤化：29、破損：28 | 不明 | | |
| 185 | 高麗浜羽引地内 | B2ZUL | V | P8号縦群 | 3.20 | 1.70 | 38 | 散漫 | 赤化：28、破損：28 | 不明 | | |
| 185 | 高麗浜羽引地内 | B2ZUL | V | P9号縦群 | 1.80 | 1.40 | 20 | 集中 | 赤化：20、破損：20 | 不明 | | |
| 185 | 高麗浜羽引地内 | B2ZUL | V | P10号縦群 | 2.80 | 1.40 | 19 | 集中 | 赤化：19、破損：19 | 不明 | | |
| 185 | 高麗浜羽引地内 | B2ZUL | V | P11号縦群 | 2.40 | 1.70 | 20 | 集中 | 赤化：20、破損：20 | 不明 | | |
| 185 | 高麗浜羽引地内 | B2ZUL | V | P12号縦群 | 5.80 | 1.80 | 18 | 散漫 | 赤化：18、破損：18 | 不明 | | |
| 185 | 高麗浜羽引地内 | B2ZUL | V | P13号縦群 | 1.40 | 1.40 | 11 | 散漫 | 赤化：11、破損：11 | 不明 | | |
| 185 | 高麗浜羽引地内 | B2ZUL | V | P14号縦群 | 2.60 | 1.20 | 10 | 散漫 | 赤化：10、破損：10 | 不明 | | |
| 185 | 高麗浜羽引地内 | B2ZUL | V | P15号縦群 | 3.40 | 1.20 | 10 | 散漫 | 赤化：10、破損：10 | 不明 | | |
| 185 | 高麗浜羽引地内 | B2ZUL | V | P16号縦群 | 1.80 | 1.40 | 8 | 散漫 | 赤化：8、破損：8 | 不明 | | |
| 185 | 高麗浜羽引地内 | B2ZUL | V | P17号縦群 | 2.20 | 0.80 | 6 | 散漫 | 赤化：6、破損：6 | 不明 | | |
| 185 | 高麗浜羽引地内 | B2ZUL | V | P18号縦群 | 1.60 | 0.60 | 5 | 散漫 | 赤化：5、破損：5 | 不明 | | |
| 185 | 高麗浜羽引地内 | B2ZUL | V | P19号縦群 | 0.20 | 0.20 | 2 | 散漫 | 赤化：2、破損：2 | 不明 | | |
| 185 | 高麗浜羽引地内 | B2ZUL | V | P21号縦群 | 1.40 | 0.70 | 5 | 散漫 | 赤化：5、破損：5 | 不明 | | |
| 185 | 高麗浜羽引地内 | B2ZUL | V | P22号縦群 | 0.80 | 0.20 | 4 | 散漫 | 赤化：4、破損：4 | 不明 | | |
| 185 | 高麗浜羽引地内 | B2ZUL | V | P23号縦群 | 5.00 | 2.00 | 4 | 散漫 | 赤化：4、破損：4 | 不明 | | |
| 192 | 草柳1丁目 | B2ZLM | 1号縦群 | 1.00 | 1.00 | 92 | 密集 | 赤化：31、完形：不明 付着物：1 | 散漫に石器が分布。 42、付着物：1 | | | |
| 192 | 草柳1丁目 | B2ZLM | 2号縦群 | 1.00 | 0.50 | 35 | 密集 | 赤化：31、完形：不明 付着物：1 | 散漫に石器が分布。 31、付着物：1 | | | |
| 192 | 草柳1丁目 | B2ZLM | 3号縦群 | 0.90 | 0.70 | 81 | 密集 | 赤化：22、完形：不明 付着物：1 | 散漫に石器が分布。 26、付着物：1 | | | |
| 192 | 草柳1丁目 | B2ZLM | 4号縦群 | 1.20 | 0.70 | 55 | 密集 | 赤化：21、完形：不明 付着物：1 | 遺物集中地点と重な る。 | | | |
| 192 | 草柳1丁目 | B2ZLM | 5号縦群 | 0.70 | 0.60 | 11 | 散漫 | 赤化：0、完形：1、不 明付着物：0 | | | | |

| 遺跡 No. | 遺跡名 | 確認層位 | 文化層 | 遺構名 | 長軸 (m) | 短軸 (m) | 面積 面積合計 | 分布 | 構の状態 | 確認石材組成 | 備考 (共伴生物等) | |
|-----------|---------------------|---------------------|-------------|------|-----------|-----------|------------|-------------------------------------|---|---|---|--|
| 205 | 四枚塚 | B1a | C2ニット 複数 | 3.30 | 3.30 | 99 | 散在 | 完形：38・破損：61 | ダイサイト30、砂岩24、ナトート20、輝緑安山岩、珪化岩、輝石安山岩、凝灰質砂岩、輝緑岩、他 | 石部分布と重複。分部の南側に1m×1mの範囲で完形破が集中する。 | | |
| 262 | 上今泉谷 | BB2LU ～ BB2U | 第1複数 | 1.00 | 0.80 | 41 | 密集 | | 近在の河床堆と推定。閃緑岩、ひん岩、火山岩 | 閃緑石製削片：1、他 不明石器：3（第1ブロック）：一部に焼成・剥落あり。選査された複数塊の可能性。 | | |
| 262 | 上今泉谷 | BB2LU ～ BB2U | 第2複数 | 0.70 | 0.35 | 9 | 散在 | | 瑪瑙、結板岩、ひん岩、泥岩 | 配石状に分布。闊広岩製石核：1、カルシフェル製切出形石核：1、無形：1、チート：1、バー：1、黒曜石製スクレイパー：1、鉄削片：1、網片：1、網片：1 | | |
| 262 | 上今泉谷 | BB2LU ～ BB2U | 第3複数 | 0.60 | 0.40 | 22 | 集中 | | 石英ひん岩 | 選査された複数塊の可能性が指摘。不明石器：2 | | |
| 266 | 小瀬前畠 | BB1LU | 複数 | 2.00 | 2.00 | 20数個 | 集中 | 詳細不明 | 詳細不明 | 詳細不明 | ブロックと伴うらしいが、詳細不明。 | |
| 267 | 谷戸田坂（相模野No.44） | BB2LU | 複数 | 不明 | 不明 | 10程 | 集中 | 詳細不明 | 詳細不明 | 詳細不明 | ブロックと伴うらしいが、詳細不明。 | |
| 271 | No.56（相模野No.113） | BB2UU | 複数 | 不明 | 不明 | 不明 | 不明 | 不明 | 不明 | 不明 | | |
| 274 | 地盤板 | BB1UU | II | 複数 | 不明 | 不明 | 不明 | 不明 | 不明 | 不明 | ブロックと伴うらしいが、詳細不明。 | |
| 274 | 地盤板 | BB2LU | III | 複数 | 不明 | 不明 | 不明 | 不明 | 不明 | 不明 | ブロックと伴うらしいが、詳細不明。 | |
| 276 | No.4（相模野No.102） | BB2UU | II | 複数 | 不明 | 不明 | 不明 | 不明 | 不明 | 不明 | | |
| 277 | No.43（相模野No.101・74） | BB2UU | I | 複数 | 不明 | 不明 | 不明 | 不明 | 不明 | 不明 | | |
| 280 | 相模野No.69 | BB2UU | 複数 | | | | | | | | 争大円錐形状が同一レベルより3段土、4段の間隔で2箇所確認。 | |
| 281 | 相模野No.68 | BB2UU | 複数 | | | | | | | | 傾1mにわたり大きな塊が水平に並ぶ。lm離れて人気のある複数個も同一レベルで確認。 | |
| 282 | 相模野No.67 | BB2 | 複数 | | | | | | | | 5～6個の円錐よりなる。 | |
| 283 | 根下 | I L2または BB2UL | 1号複数 | 2.00 | 1.20 | 23 (14) | やや 密集 | 半化：23、スス：6、 タール：1、完形： 1・破損：22 | 安山岩5、砂岩4、火碎岩2、 質泥岩2、チャート1 | 石核の数量は後合後のもの。 | | |
| 283 | 根下 | I L2または BB2UL | 2号複数 | 1.30 | 1.10 | 17 (13) | やや 密集 | 半化：17、スス：5、 タール：9、完形： 4・破損：13 | 安山岩7、砂岩2、チャート2、 火碎岩1、閃緑岩1 | 石材の数量は後合後のもの。 | | |
| 283 | 根下 | I L2または BB2UL | 3号複数 | 2.30 | 2.10 | 27 (24) | やや 密集 | 半化：25、スス：6、 タール：9、完形： 4・破損：13 | 安山岩12、砂岩7、火碎岩1 | 石材の数量は後合後のもの。 | | |
| 283 | 根下 | I L2または BB2UL | 4号複数 | 1.20 | 0.80 | 20 (9) | やや 密集 | 半化：20、スス：6、 タール：1、完形： 0・破損：20 | 安山岩5、砂岩2、閃緑岩2、火 碎岩1、凝灰質泥岩1 | 分布は1号ユニットと重複。石材の数量は後合後のもの。 | | |
| 284 | 相模野No.99 | BB2U | | | | | | | | | 水平に複数個 | |
| 286 | 相模野No.98 | BB2 | | | | | | | | | 草場1丁目道路と同一文獻不明 | |
| 290 | 相模野No.89 | BB2UU | | | | | | | | | | |
| 291 | 大F | BB2U | I | | | | | | | | | |
| 314 | 相模野No.125 | BB2U | M | | | | | | | | | |
| 314 | 相模野No.125 | BB2LU | | | | | | | | | | |
| 335 | 用田馬若前 | BB2L① ～ BB2L② | VI | 複数 | 4.40 | 3.30 | 81 | やや 密集 | 熱熱：81 | 砂岩32、中粒闊広岩31、頁岩9、 粗粒斑层数3、閃緑岩3、火碎岩2、 泥灰岩1 | 分布は石器集中地點と重複。 | |
| 338 | 鷹見塚 | BB2L | V | 複数1 | 3.30 | 2.30 | 32 | 散漫 | 半化：20、スス： 20、完形：1・破 損：31 | 粗粒闊広岩5、中粒闊広岩20、 粗粒闊広岩2岩、砂岩5 | 石器集中1と重複。 | |
| 338 | 鷹見塚 | BB2L | V | 複数2 | 1.10 | 0.40 | 7 | 散漫 | 半化：3、スス：3、 火碎岩2、破損：7 | 中粒闊広岩2、粗粒闊広岩3、 砂岩2 | 石器集中2と重複。 | |
| 336 | 葛原澗谷 | BB2L③ | VI | 複数 | 0.80 | 0.60 | 10 | 密集 | 半化：10、破損： 10 | 中粒闊広岩5、砂岩5 | | |

神奈川県における旧石器時代の遺構（その4）

| 遺跡 No. | 遺跡名 | 埋蔵層位 | 文化層 | 遺構名 | 長軸 (m) | 短軸 (m) | 標数 個体数 | 分布 | 発の状態 | 埋群石材組成 | 備考 (共伴遺物等) |
|-----------|-----------|---------------------|-----|------------------|-----------|-----------|-----------|------|---|---|--------------------------------------|
| 339 | 相田大洞内 | B82L① | VI | 第1石器集中地点 | 5.50 | 4.10 | 70 | やや散漫 | 被熱痕: 70 | 絆質細粒灰岩15、ホルンブリス14、中空茎灰岩14、流紋岩灰岩25、絆質灰岩41、薄板岩1 | 縫合外の出土資料は開群1点のみ。 |
| 339 | 相田大洞内 | B82L① | VI | 第2石器集中地点 | 3.20 | 2.20 | 48 | やや密集 | 被熱痕: 48 | 砂岩12、カルシンチャコス8、縫質細粒灰岩27、粗粒灰岩26、中空茎灰岩6、細粒凝灰岩3、海綿岩3、ナゲー11、粗粒凝灰岩11、薄板岩1、流紋岩1 | |
| 339 | 相田大洞内 | B82U ② | VI | 第5石器集中地点(内壁1号縫合) | 1.40 | 0.80 | 12 | やや密集 | 被熱痕: 12 | 縫合縫灰岩を主体とする。 | |
| 339 | 相田大洞内 | B82U ② | VI | 第5石器集中地点(内壁2号縫合) | 1.20 | 0.50 | 11 | やや散漫 | 被熱痕: 11 | 中粒被熱岩17、細粒被熱岩1、底盤岩1 | |
| 339 | 相田大洞内 | B82U ② | VI | 第6石器集中地点(内壁1号縫合) | 1.50 | 2.10 | 19 | やや散漫 | 被熱痕: 19 | 中粒被熱岩17、細粒被熱岩1、底盤岩1 | 縫合外の出土資料は法器・滑片各2点のみ。 |
| 339 | 相田大洞内 | B82U ② | VI | 第6石器集中地点(内壁1号縫合) | 1.30 | 0.90 | 10 | 散漫 | 被熱痕: 10 | 縫質細粒被熱岩1、ホルンブリス1、多孔質安山岩1、珪質岩1など | |
| 339 | 相田大洞内 | B82U ② | VI | 第6石器集中地点(内壁2号縫合) | 1.10 | 0.80 | 18 | やや密集 | 被熱痕: 18 | いわゆる被熱細粒被熱岩が生じ、その他のホルンブリス1、ガラス質青色安山岩1、安山岩1、閃綠岩1、斑積岩1が少量採る。 | いずれも石器の分布と重複。 |
| 339 | 相田大洞内 | B82U ② | VI | 第6石器集中地点(内壁3号縫合) | 1.00 | 0.80 | 16 | やや散漫 | 被熱痕: 16 | | |
| 340 | 相田南原 | B82U ～B82L ① | VI | 第6石器集中地点内壁縫合 | 4.50 | 3.20 | 349 | 密集 | 被熱痕: 345 | 砂岩121、中空茎灰岩110、縫質細粒被熱岩12、縫質粗粒被熱岩12、底盤岩20、ホルンブリス15、海綿岩11、粗粒被熱岩12、内凹岩7、細粒安山岩4、ナゲー13、縫隙凝灰岩1(玄武岩起源)2、細粒被熱岩1、薄板岩1、不規則2 | 分布は第1石器集中地點と重複。 |
| 341 | 蓮華山崎 | B82UL ～ B82LU | - | 1号埋群 | 2.40 | 1.00 | 34 | 密集 | 赤化: 100%、スス: 79%、タール: 14%、完形に近い: 38 (接合後52%、破損度が高い: 53%、接合後65%) | 主要石材は砂岩(10点)、礫岩(8点)、閃綠岩(7点)の3石材 | 3号ブロックの底下より検出された。 |
| 341 | 蓮華山崎 | B82UL ～ B82LU | - | 2号埋群 | 4.50 | 3.80 | 33 | 散漫 | 赤化: 100%、スス: 74%、タール: 9%、破損度が高い: 75 (接合後68%) | 主要石材は砂岩(16点) | 3号ブロックの底下より検出された。北西面に0.5×0.5mの審査部あり。 |
| 342 | 諏訪山 | B82LU U | I | 1号埋群 | 0.70 | 0.60 | 84 | 密集 | 赤化: 100%、黒色付着物: 25%、完形(完形に近い物を含む): 7% | 主要石材は砂岩(55点) | 2号ユニットの北東に位置する。 |
| 342 | 諏訪山 | B82LU U | I | 2号埋群 | 1.20 | 1.10 | 51 | 密集 | 赤化: 100%、黒色付着物: 約1割、完形(完形に近い物を含む): 7% | 主要石材は砂岩(29点) | 3号ユニットの北東に位置する。 |
| 342 | 諏訪山 | B82LU U | I | 3号埋群 | 1.00 | 0.70 | 60 | 密集 | 赤化: 100%、黒色付着物: 約1割、完形(完形に近い物を含む): 6% | 主要石材は砂岩(37点) | 2号埋群の北東に位置する。 |
| 342 | 諏訪山 | B82LU II | II | 1号埋群 | 1.30 | 1.10 | 137 | 密集 | 赤化: ほぼ全点、黒色付着物: 2割以下、完形(完形に近い物を含む): 65% | 主要石材は砂岩(12点) | |
| 342 | 諏訪山 | B82LU II | II | 2号埋群 | 1.70 | 0.80 | 47 | 密集 | 赤化: 100%、黒色付着物: 約1割、完形(完形に近い物を含む): 55% | 主要石材は砂岩(37点) | 1号ユニットの西に位置する。 |
| 343 | 吉岡BE(2次) | B82U ～ B82L | V | 埋群1 | 2.00 | 0.80 | 5 | 散漫 | 赤化: 13、スス: 3、建設: 5 | 中粒被熱岩1、砂岩3、頁岩1 | |
| 343 | 吉岡BE(2次) | B82U ～ B82L | V | 埋群2 | 2.00 | 0.80 | 8 | 散漫 | 赤化: 6、スス: 2、建設: 6 | 埋群岩3、閃綠岩2、細粒被熱岩1、石英斑岩1、砂岩1 | |
| 343 | 吉岡BE(2次) | B82U ～ B82L | V | 埋群3 | 3.50 | 2.50 | 76 | 密集 | 赤化: 70、スス: 4、建設: 72 | 安山岩1、輝緑岩3、粗粒被熱岩70、完形: 2、破損: 6 | 石器集中4と重複。 |
| 344 | 相模野No.138 | B82LU U | | | | | | | | | 埋群2基 |

第2表 磨石状礫集積

| 遺跡 No. | 遺跡名 | 堆積層位 | 文化層 | 遺構名 | 長軸 (m) | 短軸 (m) | 緯数 (接合接数) | 分有 | 礫の状態 | 堆積石材組成 | 備考 (共伴遺物等) |
|-----------|--------|-----------------------|-----|----------------------------|-----------|-----------|--------------|----|--|------------------|---|
| 74 | 柏ヶ谷長ツサ | BB2LM | IX | 配石26 | 0.45 | 0.35 | 5 | 密集 | 完形:5、破損:0、赤化:0、重さ:g:計5940g(1615g・1844g・995g・1135g・1151g) | 多孔質安山岩:5 | 8号ブロックと赤鉄、磨石:2。 |
| 74 | 柏ヶ谷長オサ | BB2LM | IX | 配石32 | 0.60 | 0.30 | 3 | 密集 | 完形:3、破損:0、赤化:0、重さ:g:計23850g(738g・950g・694g) | 多孔質安山岩:3 | 11号ブロックと重複。 |
| 74 | 柏ヶ谷長オサ | BB2LM | IX | 配石34 | 0.60 | 0.25 | 3 | 密集 | 完形:3、赤化なし、重さ:g:計3613g(1349g・1014g・1250g) | 多孔質安山岩:3 | 15号ブロックおよび、疊群と重複。 |
| 99 | 早川天寿森 | BB2 | VI | 設定無し | - | - | 5 | 密 | 磨石2点と素材1点はまとめて出土。1点は埋蔵。 | 安山岩(多孔質) 記述では玄武岩 | 第2ブロックの南面に位置する。 |
| 102 | 吉岡C区 | BB2 | B2 | 19ブロック 磨石状石器ユニットNo1 | 0.60 | 3 (1) | 3 | 密集 | | 安山岩 | 19ブロック内、磨石片3点が接合。 |
| 102 | 吉岡C区 | BB2 | B2 | 19ブロック 磨石状石器ユニットNo2 | 0.60 | | 4 | 密集 | | 安山岩 | 19ブロック内。 |
| 102 | 吉岡C区 | BB2 | B2 | 19ブロック 磨石状石器ユニットNo3 | 0.50 | | 3 | 密集 | | 安山岩 | 19ブロック内、ブロック内3点・ブロック外1点(27B)接合。 |
| 102 | 吉岡C区 | BB2 | B2 | 20ブロック | 2.50 | 1.90 | 14 | 集中 | | 安山岩 | 20ブロック内。 |
| 102 | 吉岡C区 | BB2 | B2 | 22ブロック | 1.20 | 0.50 | 16 | 密集 | | 安山岩 | 22ブロック内、ブロック外1点(27B)接合。 |
| 102 | 吉岡C区 | BB2 | B2 | 24ブロック | 0.60 | | 17 | 密集 | | 安山岩 | 24ブロック内。 |
| 102 | 吉岡C区 | BB2 | B2 | 27ブロック 磨石状石器ユニットNo1 | 0.70 | | 7 | 集中 | | 安山岩 | 27ブロック内、ブロック内3点・ブロック外2点(24B)接合。 |
| 102 | 吉岡C区 | BB2 | B2 | 28ブロック 磨石状石器ユニットNo1 | 1.20 | 0.90 | 7 | 集中 | | 安山岩 | 28ブロック内、ブロック内1点(No.2)と接合。砂67、石62、石51、砾26。 |
| 102 | 吉岡C区 | BB2 | B2 | 28ブロック 磨石状石器ユニットNo2 | 0.90 | 0.50 | 5 | 散漫 | | 安山岩 | 28ブロック内、ブロック内1点(No.1)と接合。 |
| 102 | 吉岡C区 | BB2 | B2 | 30ブロック | 0.80 | 0.70 | 5 | 集中 | | 安山岩 | 30ブロック内、1.5m離れて1点有り。石頭1。 |
| 102 | 吉岡C区 | BB2 | B2 | 31ブロック | | | 9 | 延散 | | 安山岩 | |
| 102 | 吉岡C区 | BB2 | B2 | 32ブロック 磨石状石器ユニットNo1 | 0.70 | 0.60 | 16 | 密集 | | 安山岩 | 32ブロック内、石頭4、磨石1、磨石1。 |
| 102 | 吉岡C区 | BB2 | B2 | 32ブロック 磨石状石器ユニットNo2 | 0.90 | 0.70 | 24 (1) | 密集 | | 安山岩 | 32ブロック内、石62、磨石22? |
| 102 | 吉岡C区 | BB2 | B2 | 32ブロック 磨石状石器ユニットNo3 | 0.90 | 0.60 | 4 (3) | 集中 | | 安山岩 | 32ブロック内、石61、磨石33。 |
| 102 | 吉岡C区 | BB2 | B2 | 32ブロック 磨石状石器ユニットNo4 | 0.70 | 0.60 | 8 | 集中 | | 安山岩 | 32ブロック内、石頭1、磨石7。 |
| 104 | 吉岡E区 | BB2 | B2 | 磨り石状羅の 集積遺構 | 0.50 | 0.31 | 8 | 集中 | ほぼ似通ったサイズの羅を用いる。磨り、敲打痕なし。 | 安山岩(多孔質) | 黒曜石薄片1点、削り込み無し、8点中1点は、集中地點から1.6m離れた場所から出土。 |
| 116 | 南葛野 | BB2L (BB2.3 ~4) | II | 第12号張掘 内 第1号縦 集中部 | 0.37 | 0.21 | 6 | 密集 | 完形:4・横幅:2 | 玄武質安山岩:5、安山岩1 | 出土石器は全て「磨石器」として分類されている。場合は集中地點外に出土遺物を介し、同部位第3号縦集中部出土資料との間で確認。 |

神奈川県における旧石器時代の遺構（その4）

| 遺跡 No. | 遺跡名 | 確認 層位 | 文化 層 | 遺構名 | 長軸 (m) | 短軸 (m) | 面積 (m ²) | 面積 分布 | 構の状態 | 導入 石材組成 | 備考 (共伴遺物等) |
|-----------|--------|-----------------------------|---------|---------------------------|-----------|-----------|-------------------------|----------|--|----------------------------|--|
| 116 | 南葛野 | B2L1～ B2L2 (B2- 1) | II | 第15号試掘区 内 第2号縦 坑集中部 | 3.40 | 2.40 | 32.7 (本文中 133.6) | やや 密集 | 赤化：14、黒色 岩：18、完形： 11(ほぼ完2点を 含む)・破損：21 | 安山岩17、玄武岩安山岩9、凝灰 岩4、頁岩2 | 9点の重石部群を含む。重石部群の出土 層位はB2B2層(中部 (B2-3層))より出土 のため、他とは時間 が異なる可能性あり。 |
| 120 | 川尻 | B2L1L ～ B2L2L | V | 磨石群 | 0.45 | 0.29 | 9 | 密集 | | 多孔質・灰色の玄武岩質磨石 | |
| 171 | 原口(本館) | B2堆 積 | II | 1号縦坑 | | | 24 | 集中 | 完形：6、破形：9、 不明：9、被熱：6 | 安山岩、中粒凝灰岩など | 台石：1、磨石：7、 削片：6、残核：1 |
| 171 | 原口(本館) | B2堆 積 | II | 2号縦坑 | 0.65 | 0.35 | 10 | 密集 | | 安山岩 | 磨石：10 |
| 337 | 山ノ持 | B2L | V | 磨石散石集中 | 0.20 | 0.10 | 2 | | | | 磨石2と磨石1が10、 程度離れ出土。 |

第3表 配石

| 遺跡 No. | 遺跡名 | 確認 層位 | 文化 層 | 遺構名 | 長軸 (m) | 短軸 (m) | 面積 (m ²) | 面積 分布 | 構の状態 | 石材組成 | 備考 (共伴遺物等) |
|-----------|-------|----------|---------|-----|-----------|-----------|-------------------------|----------|--------------------|------|---------------|
| 343 | 吉岡B2次 | B2U | V | 磨石 | 0.3 | 0.1 | 2 | | 赤化：2、スス：2、 完形：2 | | |
| | | B2L | | | | | | | | | |

第4表 炭化物集中

| 遺跡 No. | 遺跡名 | 確認 層位 | 文化 層 | 遺構名 | 長軸 (m) | 短軸 (m) | 面積 (m ²) | 面積 分布 | 備考 (共伴遺物等) | |
|-----------|-------|----------------------|---------|------------------------------------|-----------|-----------|-------------------------|--|--------------------------------|--|
| 99 | 早川天神森 | B2LUU | V1 | II地区K・L- Z1-2B8区 炭化物集中地 点 | 3.00 | 3.00 | 9.00 | 後2~3段程度の炭化物片が密着して分布。C14で20,490±450BP。他に2箇所検出しているが 詳細記述無し。 | | |
| 101 | 吉岡B区 | B2U | B2 | 炭化物集中 | 1.62 | 0.85 | 1.36 | 後5mm程度の炭化物が散乱に分布 | | |
| 103 | 吉岡D区 | B2LUU | B2 | 炭化物集中地 点No.1 | 2.30 | 1.20 | 2.76 | 斜面地に北から南に向け傾斜して分布 (No.1~3同様) | | |
| 103 | 吉岡D区 | B2LUU | B2 | 炭化物集中地 点No.2 | 2.50 | 1.20 | 3.00 | No.2のみ分布層位が40~50、下位。地盤のズレか、報告には特に記載無し。 | | |
| 103 | 吉岡D区 | B2LUU | B2 | 炭化物集中地 点No.3 | 3.00 | 1.50 | 4.50 | 集中は絶3mだが、東及び西に散在に広がる斜面に北から南に向け傾斜して分布 | | |
| 103 | 吉岡D区 | B2LUU | B2 | 27-41区炭化 物集中 | 3.00 | 3.00 | 9.00 | 集中は絶3mだが、東及び西に散在に広がる斜面に北から南に向け傾斜して分布 | | |
| 111 | 南殿治山 | L2L ～ B2U | — | 炭化物集中 (遺物集中部 0601内) | 南北 | 東西 | 6.30 (?) | 石器・焼造より約3m南に離れ、58点の炭化物が出土。埋などにより若干低い位置に分布。 分佈範囲は、頂と数箇所にやや焼けが認められるようであり複数。 | | |
| 111 | 南殿治山 | B2U | — | 炭化物集中 (遺物集中部 0601内) | 南北 | 南北 | 1.40 | 1.00 | 焼造集中より5m西側より検出。埋などよりやや高い位置に分布。 | |
| 116 | 南葛野 | B2H1L ～ B2M | II | 第11号試掘区 内 | 3.50 | 2.80 | 10.00 | 同拡張区内第1石器集中部と分布が重なる。但し、石器分布の主体部からは外れている。 | | |
| 266 | 小間前塚 | B2LUU | — | | | | | ブロックを取り回しように本状況が分布していた。 | | |
| 340 | 用田南原 | B2U ～ B2L ① | V1 | 第1炭化物集中 地点 | 3.60 | 2.60 | 9.60 | 分布は第1石器集中地点(焼跡を含む)と重複。 | | |
| 340 | 用田南原 | B2U ～ B2L ① | V1 | 第2炭化物集中 地点 | 3.40 | 2.60 | 8.96 | 分布は第2石器集中地点と重複。 | | |

第5表 炉址

| 遺跡 No. | 遺跡名 | 確認 層位 | 文化 層 | 遺構名 | 長軸 (m) | 短軸 (m) | 面積 (m ²) | 面積 分布 | 構の状態 | 石材組成 | 備考 |
|-----------|-------|----------|---------|------------------------|-----------|-----------|-------------------------|----------|----------|--------|-----------------------------------|
| 340 | 用田大河内 | B2L1① | V1 | 第7石器集中 地点内 第1号炉址 | 0.68 | 0.50 | 0.34 (約 0.25m) | 60 | やや 密集 | 被熱度：69 | 中粒凝灰岩・砂岩を主体とする。 石器、炭化物粒や焼造を含む。 |

第6表 補遺（縦群）

| 遺跡No. | 遺跡名 | 確認層位 | 文化層 | 遺構名 | 長軸(m) | 短軸(m) | 屢数 複合屨数 | 分布 | 縦の状態 | 縦群石材組成 | 備考 (共伴遺物等) |
|-------|------|------|--------------|-----|-------|-------|------------|--------------|-------------------------------------|--|---------------|
| 31 | 先見山 | LIHL | III | 縦群 | 290 | 240 | 132 | 集中 | 定形：51・破損：81 | 砂岩64、珪質砂岩46、灰質安山岩49、チャート3、ひん2、鐵石部分と重複。 | |
| 209 | 川和向原 | LHLL | D3.ニット 埋群 | 430 | 430 | 57 | 散乱 | 定形：4・破損：53 | 砂岩26、チャート15、凝灰岩12、灰質安山岩3、安山岩3、他。 | 石群分布と重複。 | |
| 209 | 川和向原 | LIHL | D3.ニット 縦群 | 530 | 410 | 157 | 散乱 | 定形：11・破損：146 | 砂岩64、輝石安山岩33、ナウト30、ダイサイト13、輝石岩12、他。 | 石群分布と重複。縦の分布域に径1~2mの濃縮中間部あり。 | |
| 326 | 梅田原 | LIHL | II | 縦群 | | | | | | | 2枚以上。石群分布と重複。 |

第7表 補遺（炭化物集中）

| 遺跡No. | 遺跡名 | 確認層位 | 文化層 | 遺構名 | 長軸(m) | 短軸(m) | 備考 (共伴遺物等) |
|-------|-----|------|-----|---------|-------|-------|---|
| 33 | 二ノ丸 | LIHL | | 炭化物集中地點 | | | 13m×1mの範囲に4箇所の炭化物集中が直線状に分布する。これらの北側10~15mから4箇所の石器集中地點が分布している。 |

参考・引用文献

- 相田 黒 1968.3 「第4章第4節第V文化層」『福井札ノ辻遺跡』大和市文化財調査報告書第31集 大和市教育委員会pp.37-62
 麻生順司 1987.12 「第6節第VI文化層（B2L上部）」『長尾南遺跡発掘調査報告書』大和市教育委員会第28集 大和市教育委員会pp.198-208
 麻生順司・戸田哲也 1987.3 「第Ⅱ章第1節I文化層（L2またはB2 U1）」『藤沢市立下遺跡発掘調査報告書』川谷文化財研究所pp.10-19
 麻生順司・戸田哲也 1992.3 「第Ⅲ章第4節第VII文化層（B2）」『神奈川県藤沢市今田遺跡発掘調査報告書』今田遺跡発掘調査pp.79-85
 麻生順司・中村哲也 1999.8 「第1回石器日誌」『神奈川県藤沢市竜致山遺跡発掘調査報告書』竜致山遺跡発掘調査pp.6-16
 小野正敬・鈴木大輔・矢島国雄也 1973.11 「IV遺跡の記述」『先人時代道路分布調査』相模考古学研究会pp.51-52
 織笠 昭・織笠洋子・解島島 正 1995.8 「海老名市今泉谷遺跡の再検討－先土器時代相模原第Ⅲ期後業の特異な様相を肉眼と顕微鏡で見る－」『さくらの歴史 海老名市史研究』第7号 海老名市史編纂委員会pp.53-78
 笠井洋介・白石浩之 1999. 3 「古石器時代B2層」『吉岡遺跡群Ⅳ』かながわ考古学財团調査報告21(財) かながわ考古学財团pp.6-426
 萩原伸好他 2002.3 「第V章第5節（6）第VI文化層」『用田鳥居前遺跡』かながわ考古学財团調査報告128(財) かながわ考古学財团pp.470-514
 萩原伸好他 2004.3 「第V章第5節（3）第VI文化層」『用田大河内遺跡』かながわ考古学財团調査報告167(財) かながわ考古学財团pp.298-461
 萩原伸好他 2004.3 「第V章第5節（3）第VI文化層」『用田南原遺跡』かながわ考古学財团調査報告168(財) かながわ考古学財团pp.319-358
 小池 啓他 1987.10 「第Ⅲ章第1節先土器時代5、第V文化層」『かしわ台駅前遺跡』相模考古学研究所調査報告第3集相模考古学研究所pp.56-73
 小池 啓 1995.9 「第6節第V文化層」『県営高座渋谷谷地内遺跡』県営高座渋谷谷地内遺跡発掘調査pp.84-146
 鈴木鉄次郎 1983.3 「第6節第VI文化層」『早川天神森遺跡』神奈川県立埋蔵文化財調査報告2「神奈川県立埋蔵文化財センター」pp.361-376
 鈴木鉄次郎・小野正敬 1972.3 「Ⅳ遺跡の遺存状態」『小国谷遺跡調査』相模原市立埋蔵文化財調査報告第一集 神奈川県立相模原教育委員会pp.16-18
 砂田佳弘 1986.7 「第V章第6節第V文化層」『代官山遺跡』神奈川県立埋蔵文化財調査報告11 神奈川県立埋蔵文化財センターpp.230-284
 関根雅巳 1996.3 「第Ⅳ章第1節第2章第1文化層」『吉岡遺跡群』吉岡遺跡群発掘調査pp.17-18
 関根雅巳 2005.8 「第V章第5節」『吉岡遺跡群』吉岡遺跡群発掘調査pp.17-18
 関根雅巳・五十嵐 彰能 1992.8 「第Ⅴ章第V文化層（L2・B2 U2）」『湘南藤沢キャンパス内遺跡』第2巻岩宿時代縄文時代I部 延慶義
 郡pp.233-350
 関根雅巳・桙井幸一・須田英一 1995.3 「第Ⅴ章第2節第Ⅱ文化層」『南葛野遺跡』南葛野遺跡発掘調査pp.140-273
 堀 隆・調訪問 縦群 1997.8 「第VII文化層」『柏ヶ谷長ツサ遺跡』柏ヶ谷長ツサ遺跡調査pp.56-68
 堀 隆・調訪問 縦群 1997.8 「第VII文化層」『柏ヶ谷長ツサ遺跡』柏ヶ谷長ツサ遺跡調査pp.69-90
 堀 隆・調訪問 縦群 1997.8 「9番櫛文化層」『柏ヶ谷長ツサ遺跡』柏ヶ谷長ツサ遺跡調査pp.91-139
 堀 隆・調訪問 縦群 1997.8 「10番櫛文化層」『柏ヶ谷長ツサ遺跡』柏ヶ谷長ツサ遺跡調査pp.140-309
 堀 隆・調訪問 縦群 1997.8 「11番櫛文化層」『柏ヶ谷長ツサ遺跡』柏ヶ谷長ツサ遺跡調査pp.310-334
 戸田哲也・麻生順司 2003.3 「第Ⅲ章第2節後期石器時代の遺構と遺物」『神奈川県藤沢市辻山崎、遠藤広谷遺跡発掘調査報告書』玉川文化財研究所pp.6-13
 島中俊明・亀田直美 2002.3 「第Ⅳ章第2節第Ⅱ文化層（B2層相当）の調査」『原口遺跡IV』かながわ考古学財团調査報告135(財) かながわ考古学財团pp.557-560
 島中俊明他 2003.3 「第V章第5節（5）第VI文化層」『葛原流谷遺跡・葛原下瀬谷戸遺跡』かながわ考古学財团調査報告151(財) かながわ考古学財团pp.131-145
 砂田佳弘・仲田大久 1997.3 「第I章田石器時代B2層～L2層」『吉岡遺跡群Ⅲ』かながわ考古学財团調査報告20(財) かながわ考古学財团pp.7-56
 中村喜代重 1979.3 「第V章第1節先土器時代」『上和田城山』大和市文化財調査報告書第2集大和市教育委員会pp.15-23
 服部隆博・中村喜代重 1984.3 「第V章第5節第II文化層」『一般国道246号（大和・厚木バイパス）地域内遺跡発掘調査報告Ⅱ』大和市教育委員会第15集pp.151-217
 保坂康夫 1997.8 「柏ヶ谷長ツサ遺跡における縦群と配石」『柏ヶ谷長ツサ遺跡』柏ヶ谷長ツサ遺跡調査pp.390-410
 篠童義正 1992. 3 「第V章 第1節 第V文化層」『川尻遺跡』神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告23
 神奈川県立埋蔵文化財センターpp.59~81
 村田良介・坂入民子 1979.9 「VI縦群と炭化物」『大和市柳原一丁目遺跡』草柳一丁目遺跡調査会pp.23~27
 望月 労 1996.3 「第5章第1節発見された遺構」『南霞ヶ治山遺跡発掘調査報告書』第3章先土器時代 藤沢市教育委員会pp.91-107
 矢島国雄 1996.3 「第5章第1節市内の先土器時代道路6・蓼科北城の先土器時代遺跡」『藤沢市史別巻考古』185-195
 吉田行政 2003.3 「第V章第4節第Ⅲ期石器時代遺物群Ⅴ」『吉岡遺跡群Ⅲ（第一分帶縄文時代初期～田石器時代、自然科学編）』かながわ考古学財团調査報告153(財) かながわ考古学財团pp.128-130
 吉田行政 2004. 3 「第3章第6石器時代の遺構と遺物」『山ノ神遺跡・裏見塚遺跡』かながわ考古学財团調査報告171(財) かながわ考古学財团
 渡辺 熊鶴 1971.3 「第4章 配石遺構」『先土器配石遺構を持つ海老名町今泉谷遺跡調査概要』海老名町教育委員会pp.11-12

神奈川県における縄文時代文化の変遷VII

－中期後葉期 加曽利E式土器文化期の様相 その5 文化的様相(3)－

縄文時代研究プロジェクトチーム

I. はじめに

今回の検討は、平成12年度から開始した中期後葉期・加曽利E式土器文化期の様相をめぐる研究の5年次目にあたる。これまでに、「主要遺跡の集成及び重複・一括出土事例」の検討、「土器編年案」を提示し、堅穴住居址・柄鏡形(敷石)住居址の分析、住居以外の遺物について分析を行い、どのような特徴及び傾向が把握できるのかを検討してきた。平成16年度は、これまでの研究に引き続き、集落構造・遺跡分布及び土器以外の遺物に関する研究・検討を行った。その結果どのような傾向が把握できるのか、以下各項目にしたがってその内容について提示していきたい。

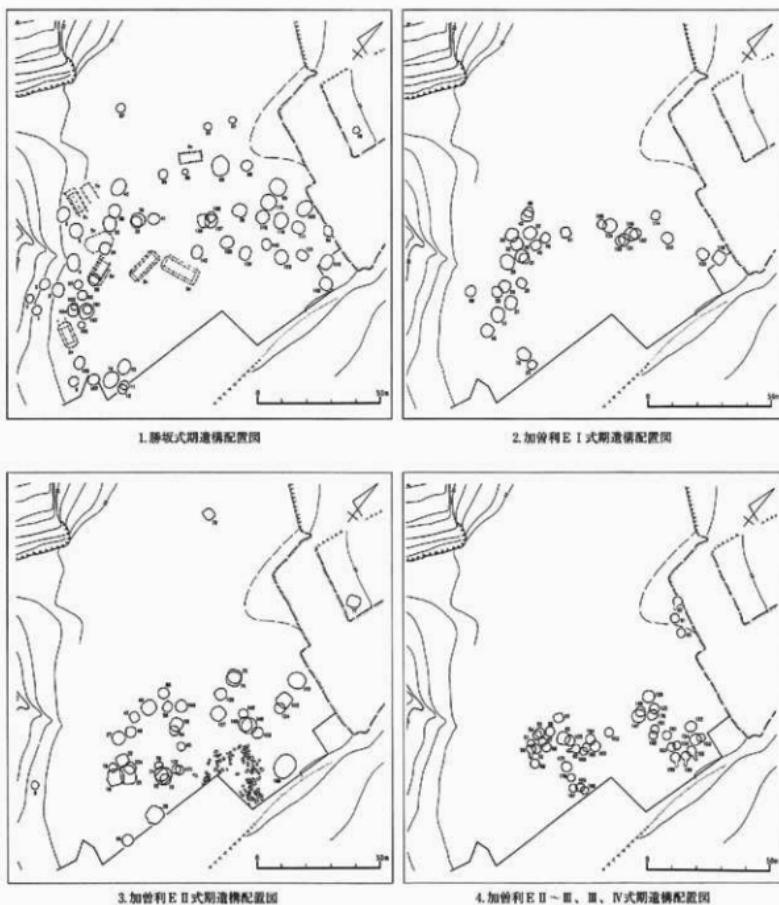
II. 集落構造

縄文時代中期は集落が最も発達した時期にあたる。これまでに縄文時代研究プロジェクトチームで集成してきたデータに基づいて、神奈川県内における住居件数の推移を見ていきたい。中期初頭五領ヶ台式期の遺構が発見された遺跡は129遺跡(井澤 1997)・住居55基(加藤 1997)であったが、中期中葉勝板式期では153遺跡(小川 1998)・住居1439基(井辻 2000)を数え、今回集成を行った中期後葉加曽利E式期では、187遺跡・住居3035基(小川 2003)を数えた。この様に中期後葉期には住居件数が3000基を越えるまでに増えピークを迎えている事が把握できる。

ここでは中期後葉期の集落構造について着目し、その様相を探ってみたい。しかしながら集落構造の把握には、ある程度遺跡全体の調査を行えたもの、さらに遺構などの遺存状態が良好で、帰属時期を明瞭にする出土遺物に恵まれていることなど条件的に制約があり、実際のところ現時点では困難な部分も多い。したがって膨大な集成資料のうち条件的にある程度遺跡の全体または主体的な部分が把握・概観できたと考えられる事例を任意で選択した。今回は、県東部の横浜市都筑区所在の大熊仲町遺跡、県央部の厚木市所在の恩名沖原遺跡、県北部の相模原市所在の山王平遺跡、城山町所在の川尻中村遺跡について概観したい。

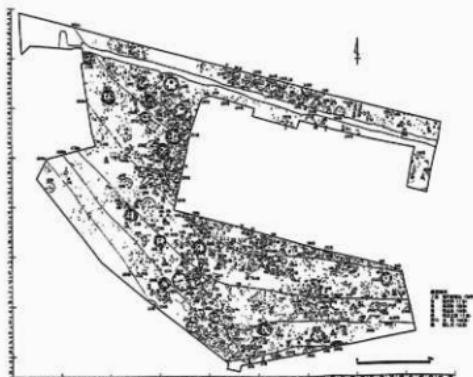
大熊仲町遺跡(坂上 他 2000) 中期中葉～後葉の集落で、住居171基・掘建柱建物10棟・土坑135基・集石19基・埋甕3基・焼土1基・ピット群が発見されている。住居は標高43mの台地に円を描くよう分布し、内側に墓坑群が構築されている。集落の東側は調査区外であるため全体は明かでない。環状を呈する集落の西側部分が明らかになり、報告では加曽利E式期では各段階毎の具体的な変遷が示されている。土坑墓93基は加曽利E II式期の所産として捉えられ、住居群内側に環状を呈するよう分布することから、特定の時期に濃密に構築されていることは注目できる。

恩名沖原遺跡(追 他 2000) 中期中葉～後葉の集落で、住居71基・集石23基・焼土址16基・埋設土器2基・柱穴列2基・土坑193基が発見されている。中期は7期の変遷が捉えられ、加曽利E式期は第6期・第7期にあたる。当該する16基の住居は、標高49mの台地に弧を描くよう分布し、勝坂式期住居よりも標高の高い部分に構築されている。集落の南側は比較的急峻な崖線を有し、集落のほぼ限界を示していると考えられる。土坑群は、第7期の住居群周囲に分布していることが特徴である。

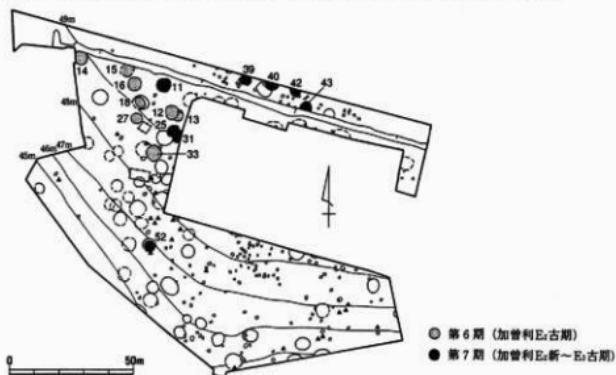


第1図 横浜市 大熊町遺跡 遺構分布図（板上 他 2000「大熊町遺跡」を一部改変）

山王平遺跡（戸田 他 1998） 加曾利E式期の堅穴住居57基・掘建柱建物5棟・集石6基・埋設土器3基・土坑109基が発見されている。集落は、5期の変遷が捉えられ、中期後葉段階のみの具体的な変遷が捉えられている。住居は、標高112mの台地に径90mの円を描くよう分布し、その内側に土坑群・掘建柱建物・ピット群などが構築されている。集落の北東側は比較的急峻な崖線を有し集落の限界をほぼ示していると考えられるが、集落の約半分が展開していると想定できる南東部などは調査区外で限界は明かでない。報告では特に第4期の住居を取り上げ、平面的にまとまった住居の単位（グループ）に着目し、集落構造分析のモデルとして提示し、具体的なデータで集団の動きを捉えていく可能性を示している。



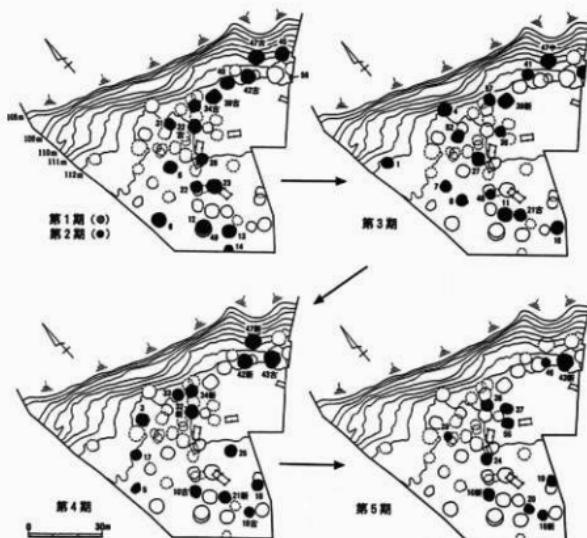
第2図 厚木市 恩名沖原遺跡 遺構全体図（追 他 2000「恩名沖原遺跡」を縮尺改変）



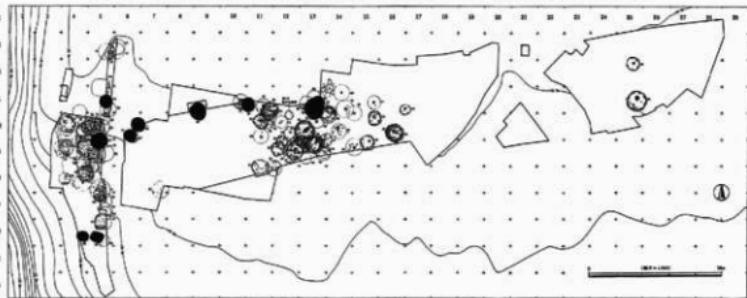
第3図 厚木市 恩名沖原遺跡 縄文時代集落変遷図（追 他 2000「恩名沖原遺跡」を一部改変）



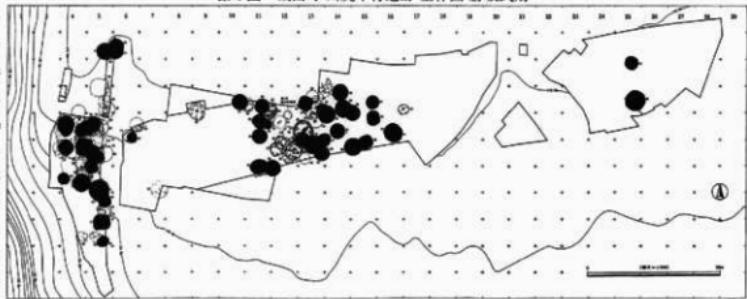
第4図 相模原市 山王平遺跡 遺構全体図（戸田 他 1998「山王平遺跡」を縮尺改変）



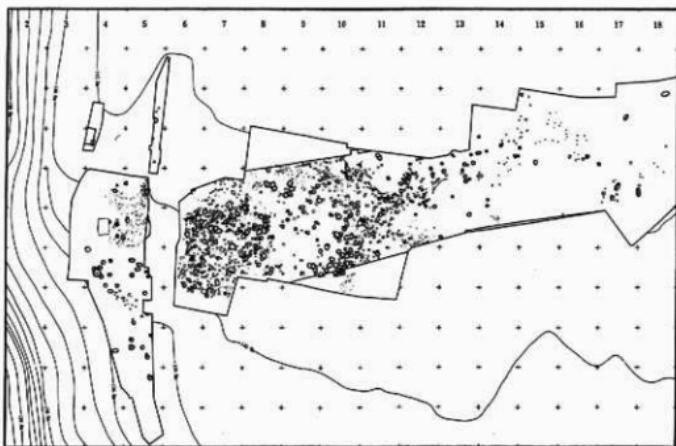
第5図 相模原市 山王平遺跡 集落変遷図（戸田 他 1998「山王平遺跡」を縮尺改変）



第6図 城山町 川尻中村遺跡 全体図 勝坂式期



第7図 城山町 川尻中村遺跡 全体図 加曾利E式・曾利式期（第Ⅲ段階～第Ⅳ段階・帰属時期不明なものは除く）



第8図 城山町 川尻中村遺跡 全体図 列石・配石・土坑・ピット

川尻中村遺跡（天野 他 2002） 中期中葉～後葉の集落で、住居91基・堅穴状遺構1基・列石1基・集石10基・焼土跡3基・埋設土器10基・土坑310基・ピット854基である。住居は標高140mの台地に円を描くよう分布する、いわゆる環状集落である。住居の時期は勝坂式期11基、帰属時期の決定が困難なものは28基で、52基が中期後葉期の所産である。時期不明住居も中期後葉期の所産に帰属するものが多いと考えられ、現状で70基以上、未調査区を含めると150基程度の広がりを有すると推察できる。勝坂式期住居は一部例外も認められるが、原則として約10～20m程度間隔をあけて点在する傾向が認められる。また加曾利E式期と同様に中央部には住居の構築されない空間が存在する。加曾利E式期では、環状集落中央部に径50m程度の住居の構築されない空間があり、その外側に50m程度の幅を持ちながら住居群が取り巻いている。住居の平面的な分布を見ると、大きく分けて①数基が著しく重複する住居群、②かなり近接してはいるもの隣接する住居と重複しない住居群、③環状集落から東側へ約90m以上離れて分布する住居の3種が認められる。住居群の内側には土坑墓と捉えられる土坑群が構築され、住居群と同様に径30m程度の円を描くよう環状に分布する。これら土坑墓群は均一的に分布するのではなく、南東部及びその対角線上にあたる北西部に著しく重複して集中する分布傾向が認められる。また住居群と土坑墓群の境界を示すよう列石が配されていることが本集落の最大の特徴となっている。以上のように代表的な集落を概観したが、中期集落は一般に勝坂式期から継続して営まれるものが多く、今回のように中期後半期に限定して捉えていくことは避けなければならない。また全体的に集落が極端に縮小していく傾向がある加曾利E式終末期では、後続する後期の様相を捉えた上で検討していくことが必要であり、加曾利E式の前後との関係や集落の具体的な変遷過程については今後の課題としたい。また、今回は各遺跡を単独で取り上げたが、川尻中村遺跡は原東遺跡・川尻遺跡との関係が深く、大熊町遺跡では港北ニュータウン地域での集落の在り方が提示（坂上 他 2000）されている。いずれも周辺及び地域に所在する遺跡との相互の深い関係が想定でき、総合的な視点からの検討が必要である。

(天野賢一)

III. 遺跡分布

ここでは、神奈川県内における中期後葉の主要な集落遺跡の分布を概観する。

第9図は、「研究紀要6・10」に掲載した「主要遺跡地名表」、「主要遺跡地名表（補遺）」をもとに、該期の主だった集落址を、40万分の1の地形区分図にプロットしたものである。掲載した該期の遺跡は、207遺跡を数える。市町村別の遺跡数は、横浜市に所在する遺跡が96遺跡と卓越し、以下、川崎市所在21遺跡、相模原市所在14遺跡、厚木市所在13遺跡、伊勢原市所在12遺跡、平塚市所在8遺跡、城山町所在5遺跡とつづく。

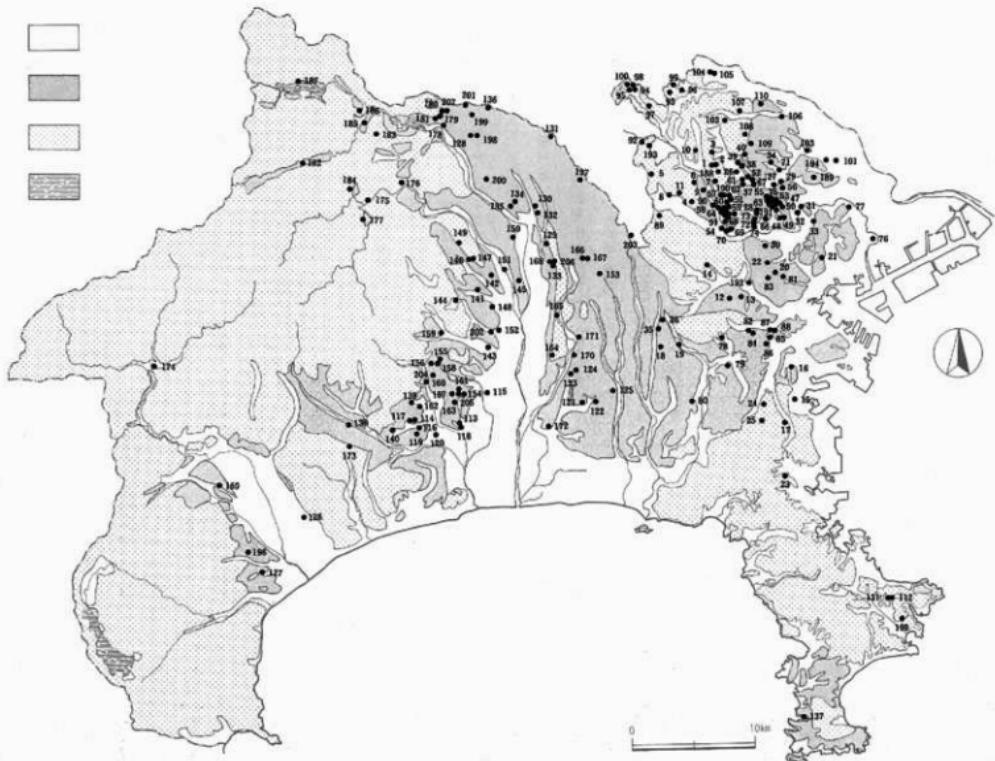
多摩川・鶴見川水系に接続された区域には、多摩丘陵とその南東縁に派生した下末吉台地が展開している。かかる地域の遺跡密度は極めて高く、100ヶ所以上の集落遺跡が確認され、確実なものだけでも1,000軒以上の堅穴住居址が検出されている。また、都筑区所在の大熊町遺跡（50）、神隱丸山遺跡（55）、三の丸遺跡（64）、二ノ丸遺跡（73）等、大規模な環状集落が多数存在することも特筆に値し、該期においても県東部における中核的な地域といえよう。雑子川・大岡川流域、境川・柏尾川流域では、微増ではあるが遺跡数の増加が認められる。前者は下末吉台地南縁、後者は相模野台地東縁に相当する地域で、旭区所在の上白根おもて遺跡（14）、瀬谷区所在の阿久和宮腰遺跡（36）等、中期中葉期から継続する大規模集落の存在が知られているが、旭区所在の市ノ沢团地遺跡（13）、泉区所在の泉警察遺跡（18）等、各々の地域で、該期に至り現出する大規模集落も散見される。

相模川水系周辺では、相模原市所在の上中丸遺跡（130）、当麻遺跡（134）、寒川町所在の岡田遺跡（172）等、左岸域に展開する相模野台地上に立地する大規模集落を中心に安定的な遺跡分布が認められ、中葉期から引き続き、県央域における中核地となっている。また、城山・津久井町を中心とした上流域の段丘上に立地する集落遺跡の大規模化が顕著となり、城山町所在の川尻中村遺跡（179）、津久井町所在の大寺戸遺跡（182）、寺原遺跡（185）等、中流左岸域の大規模集落に匹敵する集落遺跡も現出する。県央域におけるあらたな中核地として認識されよう。

平塚市・秦野市・伊勢原市を中心とする金目川水系周辺域では、平塚市所在の原口遺跡（119）、伊勢原市所在の神成松遺跡（158）等、中期初頭段階から集落遺跡が散見されるが、中期中葉後半段階から集落遺跡の増加と集落の大規模化が顕著化し、該期に至り、大磯丘陵北東部とその縁辺に派生した台上地、伊勢原台地とその北西縁に展開する上白根扇状地上を中心に、その周辺部にまで集落遺跡の分布域が広がりをみせる。酒匂川水系周辺域は集落遺跡の数が少なく、現状では広範な分布の空白地が広がっているが、一方で、南足柄市所在の塚田遺跡（169）、山北町所在の尾崎遺跡（174）、小田原市所在の久野一本松遺跡（196）等、数十軒の住居で構成される大規模集落が存在していることも事実であり、箱根山地東縁に展開する丘陵を中心とする一帯が、県西部における中核地のひとつになる可能性も十分にあろう。

上述のごとく、該期の集落遺跡の分布状況は、多摩川・鶴見川水系流域を中心とした県北東部、および、相模川中流域を中心とした県央部における集中的な分布が看取され、概ね中期中葉期の遺跡分布状況を踏襲したものとなっているが、「研究紀要3」で小川の指摘した、「中期中葉期における遺跡数の増加、集落遺跡の大規模化」という傾向は、該期に至っても県内各地域で確実な伸展をみせている。特に、雑子川・大岡川流域の丘陵・台上地、境川・柏尾川水系流域の台上地、相模川水系上流域の段丘上、金目川水系周辺の丘陵・台上地等、中期中葉期の中核ともいえる地域の縁辺部において集落遺跡の増加が顕著であり、それに伴ってか、県内各地域で、集落遺跡の分布域が広範化する様相がみてとれる。

（井辺一徳）



IV. 遺物

1. 土製品（第10図・第11図・第1表） 本項では土器片錐、土器片円盤、土偶、土製耳飾、ミニチュア土器及びその他の土製品について、非常に簡単であるが、その概要を記した。項目に挙げた土製品の多くは土偶を除いて属性に乏しく、以前本誌で設定した各段階（I～IV）への比定が困難なものも多い。よって今回も勝坂式期と同様に当該期の遺構内から出土した土製品に限って取扱い、時期の特定については遺構内出土土器に拠った。ただし、これまでの研究成果などから明らかにこの時期のものではないものは除外した他、勝坂式期同様に土偶のようにある程度時期が特定し得るものについては遺構外資料も一部提示した。

土器片錐（1～5） 加曾利E式、曾利式両土器片とも使用されている。その形態は楕円形や長方形の土器片の長軸方向に浅い切れ目を加えているものが多い。稀に短軸に切れ目を入れるものや、長・短両辺の四箇所に切れ目を入れているものもある。土器片の使用部位や使用破片の縦横と取り方に顕著な傾向は見られない。また、土器片同士が接合する例もあり、横浜市道2号線No6地点103号住居址では一個体の口縁部片14点が錐に転用しているものもある（1.2）。時期については出土遺構から、Ⅱ段階・Ⅲ段階に多く、Ⅰ段階・Ⅳ段階には少ないという傾向が認められる。分布では当該期の遺跡が多い県北東部と西南部とで大きく異なり、前者に多く後者に少ないという傾向が窺える。なお、本期は勝坂式期と同様、石錐も存在している。

土器片円盤（6～11） 当該期の遺構から出土しているものは1364点に及ぶ。これら円盤の中には勝坂式土器を用いたものや無文で時期比定が難しいもの等もあり、勝坂式期か加曾利E・曾利式期のどちらの時期に製作されたものかの判断は難しいものもあるが、勝坂式期と比較するとその数は明らかに増加している。形状はそのほとんどが円形・不整円形を呈し、その大きさは個々まちまちである。出土遺構から時期を見てみると遺構数の多寡とその傾向は一致し、Ⅱ段階・Ⅲ段階が多く、Ⅰ段階・Ⅳ段階は非常に少ない。

土偶（12～18） 当該期の遺構内出土土偶でも明らかに他の時期の所産されるもの（そのほとんどが勝坂式期）は除外し、遺構外でも当該期のものとされているものについては集計に加えた。その数は勝坂式期から大きく増加するが、遺跡規模に関わらず地域差や遺跡間の差が大きい。例えば橋本遺跡、上中丸遺跡、川尻中村遺跡等の県北西部の遺跡では数十点に及ぶ土偶が出土しているのに対して、港北ニュータウンに位置する大形集落である大熊仲町遺跡では一点も出土していない等、県東部における出土数は少ない。県内で出土した土偶は腕のみや胴部の一部等、全身の状態が不明なものを除くと、頭の表現が比較的明瞭で、どっしりと構えた脚部を有するもの（12、13）と頭部の作りが簡素で脚部が簡略化され、やや小振りなもの（14～17）に大別される。量的には後者が多い。製作時期については、その指標となりうる土器と文様構成が大きく異なるものが多く、細かい段階毎に比定することは難しいが、遺構出土の土偶から考えるとⅢ段階に多く、統いてⅡ段階が多い。Ⅳ段階のものは極めて少ないが、新戸遺跡では当該期の敷石住居址から頭の表現も胴部文様も失ったものが見つかっている（18）。

土製耳飾（19～29） 数量的には前時期より微増しているが遺跡・遺構增加数から考える増加しているとは言い切れない。形状は、また臼形を呈し中央に穴を穿ったもの（19～22）と、鼓形もしくはスタンプ形を呈し、両面ないし片面に細かい刺突文を有するもの（24～27）が多い。また後者と同一形態を有するが文様を持たないもの（23）や片面に刺突文を、もう一面に沈線による渦巻文様の外周に刺突文を施したもの（29）も認められる。貫通孔を有するものは勝坂式期から認められ、同時期のものが混在している可能性もあるが、出土した遺構の時期はⅡ段階からⅢ段階にかけてであり、遺構の構築時期に拠る限り、同形状の耳飾りは継続して作られたとも考えられる。後者については勝坂式期に類する資料はなく、時期的にはⅡ～Ⅲ段階に多

く認められる。他の形態では、梢円柱状の形態を持ち、片方の平坦面に隆起線文による渦巻文を横並び2つ描かれているもの(28)がある。なお、IV段階の発見例は見られない。分布は厚木市・相模原市・津久井郡の相模川中流域に多く、資料26点中24点が同地域から出土している。

ミニチュア土器(29~41) ここではいわゆる手捏土器・袖珍土器を含めた器高や最大径が約10cm程度の大きさの小形土器を取り扱うこととする。これらは手捏で作成された粗雑且つ無文または単純な文様をもつものと小さいながらも丁寧に文様が施されているものの二種に大別される。時期的にはII・III段階に多く認められ、IV段階にも出土が認められるが一部(40)を除いて、そのほとんどは無文で、赤彩されている例もある(41)。形態もバラエティーに富んでおり、深鉢形や鉢形、高台のつくものなど様々である。段階毎の特徴は見受けられない。分布は橋本遺跡が極めて多く出土しているのをはじめ、圧倒的に県北地域に多い。

その他の土製品(42~49) 上記以外の土製品として遺構内からの出土に限って列挙しておく。土鈴は上白根おもて遺跡、上中丸遺跡、橋本遺跡、川尻中村遺跡(45他1点)の計5点、土製匙(42~44)、葉積台遺跡)が4点、動物形土製品(46)、石皿形土製品(47)、猿形土製品の長軸に孔が穿たれている「有孔土製品」(48)、三角柱形土製品(49)、四角柱を呈する「立体土製品」(西之谷大谷遺跡)、土玉(上中丸遺跡)などが各1点見つかっている。なお、これらは形状を呈する土製品は神奈川県域の勝坂式期では発見されていない。

(井澤 純)

第1表 中期後葉期遺構内出土土製品一覧

| 遺構No. | 南町村 | 遺構名 | 縦 | 横 | 土器 | 耳鉢 | 口縁 | 寸法 | その他 | 遺構No. | 南町村 | 遺構名 | 縦 | 横 | 土器 | 耳鉢 | 口縁 | 寸法 | その他 | |
|-------|------|------------|-----|-----|----|----|----|----|-----|-------|------|-------------|-----|--------|------|----|----|----|-----|---|
| 5 | 相模原市 | 美濃代だいやま | (2) | 1 | | | | | | 125 | 相模原市 | 大庭上ノ原 | 21 | | | | | | | |
| 9 | 相模原市 | 中庭 | | 1 | | | | | | 129 | 相模原市 | 袖珍 | 24 | 18(8) | 6 | 21 | | | | 3 |
| 11 | 相模原市 | 佐野山 | 1 | (4) | | | | | | 130 | 相模原市 | 上ノ丸 | 2 | 18 | | | | | | |
| 13 | 相模原市 | 佐野山遺跡 | 8 | 146 | 1 | 1 | | | | 131 | 相模原市 | 下ノ丸 | 2 | 18 | | 1 | 15 | | | |
| 14 | 相模原市 | 上白根おもて | 107 | 1 | 4 | 1 | | | | 132 | 相模原市 | 下庭 | 2 | 8 | (1) | 1 | 3 | | | |
| 15 | 相模原市 | 高麗留 | 10 | 33 | 1 | 1 | | | | 133 | 相模原市 | 前戸 | 1 | 44 | 2(1) | 2 | 3 | | | |
| 22 | 相模原市 | 御代大遺 | 2 | | | | 2 | | | 134 | 相模原市 | 山田 | 57 | 2 | 4 | 11 | | | | |
| 31 | 相模原市 | 高麗留の上 | 6 | 13 | | | | | | 135 | 相模原市 | 高麗留 | 43 | 18(8) | 1 | 82 | | | | |
| 34 | 相模原市 | 御代大遺 | 2 | 1 | | | | | | 209 | 相模原市 | 八幡前 | 3 | | | 2 | | | | |
| 50 | 相模原市 | 大庭上ノ原 | 191 | 161 | | | | | | 128 | 相模原市 | 今宿日出地区 | | | | | | | | 1 |
| 56 | 相模原市 | 北川井原塚 | 10 | 1 | 1 | | | | | 139 | 相模原市 | 野原上ノ原 | 18 | | | | | | | |
| 73 | 相模原市 | 二ノ丸 | | (4) | 3 | | | | | 145 | 相模原市 | 下野原 | 29 | | | | | | | |
| 76 | 相模原市 | 御代大遺 | 12 | | | | | | | 146 | 相模原市 | 中野野原木道20-D区 | 26 | | | | | | | |
| 81 | 相模原市 | 佐野山遺跡 | | | | | 1 | | | 147 | 相模原市 | 中野野原木道20-E区 | 7 | | | | | | | |
| 88 | 相模原市 | 堀内大遺跡2号地点 | 64 | 19 | | | | | | 150 | 厚木市 | 奥森日影坂 | 1 | 9 | (1) | 1 | 1 | | | |
| 89 | 相模原市 | 五輪山 | 1 | | | 1 | | | | 202 | 厚木市 | 吉毛中津 | 19 | (1) | | | | | | |
| 90 | 相模原市 | 西之谷大谷(4) | | | | | | | | 156 | 伊勢原市 | 御伊勢森 | 9 | | | | | | | |
| 189 | 相模原市 | 下田西 | 5 | | | | | | | 157 | 伊勢原市 | 山之上森 | 2 | | | | | | | |
| 193 | 相模原市 | 高麗留 | 1 | 3 | | | | | | 158 | 伊勢原市 | 御伊勢森 | 3 | | | | | | | |
| 192 | 相模原市 | 高麗留 | | | | | | | | 159 | 伊勢原市 | 下北原 | 1 | | | | | | | |
| 93 | 相模原市 | 金程内原 | 1 | | | | | | | 160 | 伊勢原市 | 坪ノ原・井ヶ屋 | 3 | | | | | | | |
| 97 | 相模原市 | 東横合 | | | | | 1 | | | 165 | 海老名市 | 志賀 | 2 | | | | | | | |
| 98 | 相模原市 | 東横合 | 2 | 1 | 1 | | | | | 174 | 山北町 | 鬼見 | 15 | | | | | | | 1 |
| 99 | 相模原市 | 東横合 | | | | | | | | 175 | 山北町 | 御門 | 40 | (12) | 1 | 9 | | | | |
| 101 | 川崎市 | 東横合地区調整地内 | 1 | | | | | | | 179 | 川崎市 | 川崎中村 | 205 | 24(15) | 3 | 23 | | | | |
| 107 | 川崎市 | 東横合 | 2 | | | | | | | 181 | 川崎市 | 原賣 | 1 | 23 | 1 | 3 | 2 | | | |
| 194 | 川崎市 | 高麗上・4第2号地点 | 8 | | | | | | | 207 | 川崎市 | 向原中村・向原下村 | 2 | 169 | | | | | | |
| 119 | 平塚市 | 原口 | 19 | 11 | 1 | 5 | | | | 182 | 津久井町 | 大庭原 | 5 | | | | | | | |
| 122 | 藤沢市 | 御代大遺跡 | 1 | 4 | | | | | | 185 | 津久井町 | 三木 | 1 | | | | | | | |
| 124 | 藤沢市 | 御代大遺跡 | | | | 1 | | | | 355 | 藤沢市 | 御代大遺跡 | 355 | 354 | | | | | | |
| 196 | 小田原市 | 久野一幸船 | 12 | 14 | 1 | 12 | | | | | | | | | | | | | | |

注: (9)の遺構出土土器類は出土位置が複数であるものを示す。土器の括弧は遺構内分布を示す。

| | | | | | | | | | | |
|----------|-----|----------------|---|------------|---|---------|---|---------|----|-----------|
| 土器片 錐 | | | | | | | | | | |
| | 1-2 | 横浜市造2号罐366103住 | 3 | 京豐原(2次)12住 | 4 | 大庭神町26住 | 5 | 大庭神町29住 | | |
| 土器片円盤 | 6 | 恩名津原12住 | 7 | 壇地2住 | 8 | 川尻17住 | 9 | 大庭上ノ原2住 | 10 | 大庭開戸18住 |
| | | | | | | | | | | 11 京豐原5号住 |

第10図 加曾利E式・曾利式期の土製品(1)



第11図 加曾利E式期の土製品（2）

2. 石器（第12図）

ここでは加曾利E式期・曾利式期の石器について述べる。第12図は代表的石器資料である。掲載にあたっては、時期的に各段階（I～IV段階）単純時期と考えられる遺構出土資料から構成されるようにした。またI・III段階は神奈川県東部の資料、II・IV段階は同中部・西部の資料を配置した。各遺跡または各遺構出土石器資料にみる石器各器種の存在比率は提示する必要があったが、各資料毎でばらつきが大きいと思われたため、今回は提示しなかった。

石鏃（1～4） 各段階を通じて基本的に凹基無茎鏃（2～4）がほとんどである。全体形は二等辺三角形をなすもの・正三角形に近いものなどがあり、エッジ部分も直線的なもの、やや膨らむもの（4）、軽く凹むものの（3）などがある。平基無茎鏃は少量。1は柳葉形（菱形）をなすものであるが、稀な例であろう。有茎鏃はまだ一般化していないようである。石材は黒曜石が圧倒的に多く、他はチャート等が少量ある程度である。出土量を見ると各遺跡・遺構で比較的多く出土する。遺構によっては石鏃を多出する例（上中丸遺跡41号住居址・大地戸門遺跡J18号住居址）があり、石鏃の集中管理も行われていたことが推測される。

石錐（5～7） 石錐は扁平・梢円形の礫を素材とし、その縁に、対角線上に、紐掛け用の打ち欠きを施したもの。打ち欠きは2個のものが普通で、4個のものは少ない。礫自体の凹みを利用し、打ち欠きを一部省略したものもある。打ち欠きが2個のものでは打ち欠きを礫の長軸に施したもの（6・7）と、短軸に施したもの（5）がある。出土量は多くはなく、出土しない遺跡の方が多いほどである。出土遺跡を見ると海浜部の遺跡も内陸部・山間部の遺跡もある。用途については漁網錐と編み物石という両説があるが、漁網錐とすれば、海のみならず、川での使用もあったと考えることができる。また漁労具に関しては、他に軽石製の浮子が少量出土している。

敲石・磨石・凹石（8～11） 河川や海浜に存在するような円礫のうち、片手で握れる程度の大きさの礫を用い、その表面に人為的な敲打痕をもつものを敲き石、磨耗痕をもつものを磨石（9）と呼ぶが、両者をあわせてもつ資料（8）も多数存在する。素材の礫は長梢円形（8）、扁平梢円形（9・10）、円形などがあるが、磨石では使用のため縁が直線状に変形し、著しいものでは石鍔状になったものもある。敲石では棒状礫の先端に敲打痕をもつものも多い。また円形や梢円形の礫の中央が敲打により深く凹んだものは凹石と言う。出土量を見ると各遺跡・遺構で多く出土し、本時期の代表的器種の一つと言うことができる。用途は植物質食料の加工が考えられる。また尾崎遺跡などではハンマーストーンや砥石と報告されたものがあり、同報告書ではこれらを磨製石斧の製作工具として積極的に評価している。

台石・石皿（12～15） 大形で扁平な石を素材としたものに台石・石皿がある。表面に使用による摩耗痕が明瞭なものを石皿（12～15）、明瞭でないものを台石と言う。石皿で磨耗が著しいものは、器体中央が皿状に凹んだりする（14・15）。表面には敲打による凹みをもつものがあり（13）、その凹みが多いものは多孔石に分類されることがある。石材は安山岩・凝灰岩・閃綠岩などがある。出土量を見ると各遺跡・遺構でしばしば出土するが、特に石皿はIV段階に、その破損したものが敷石住居址の敷石や縁石に再利用されることがよくある。用途は植物質食料の加工が考えられるが、磨耗痕の顕著でない台石はそれ以外の多様な用途も考えられる。多孔石は発火具との説もある。

打製石斧（16～25） 片手で持てる程度の大きさの扁平な石器素材に剥離加工を施して作った、平面形が縱長で（柄への装着が可能で）、尖った刃部をもつ石器。素材に着目すると、礫から剥ぎ取った扁平な剥片を素材としたものと、扁平な礫そのものを素材としたものがある。剥片を用いたものは数多く存在し、側縁・

刃部ともに入念に加工が施されるのが普通である。しかし剥片の縁自体が刃として利用可能なものでは刃部より側縁加工が入念に行われることがある（18・24）。一方扁平な縁を用いたものは縁斧とも呼ばれ、縁器に含めて報告されることもある。平行する側縁をもつ縁を素材としたものでは、側縁加工はさほど施す必要がなく、刃部加工を行っただけで石器となったものがある。本時期の打製石斧は断面形が扁平気味のものが多く、平面形を見ると、側縁が末広がりに開くもの（22～25）、側縁が弧状のもの、その中間的なものなどがある。基部の形状も直線的なもの、丸味を帯びたり鈍く角ばるもの、細く尖るものなどがあり、側縁が平行で基部も直線的なものは短圓形（17）をなす。また側縁が開くもので基部が直線的なものは撥形（23）、基部が尖るものは三角形（トランシェ形）（25）をなす。刃部は弧状をなすものが多い（16～22・24・25）が、直線的なもの（23）もある。側縁は柄への装着のため、えぐりの入れられたものも多い。18・22のような浅いえぐりのものは多くのものに見られ、中には20・24のようにえぐりのやや深いものがある。このえぐりのやや深めのものは分銅形打製石斧の出現の母体と考えられ、えぐりが深く、かつえぐりをはさんで上下に対称的な大きさの器体をもつように作出されれば、分銅形打製石斧（21）が完成する。本県では分銅形打製石斧の安定的出現はⅣ段階からと考えられる。石材はホルンフェルス・凝灰岩・砂岩が多い。出土量を見ると、出土石器中で最多量を占める場合多く、磨石と共に、本時期最も多く製作された石器と言うことができる。用途は土掘り具・伐採具と考えられる。この他、平面形からして柄への装着は難しいが、縁や縁素材剥片の周縁に剥離加工を施した縁器もわずかながら存在する。

磨製石斧（26～32） 本時期の磨製石斧は器厚が厚手のものと、薄手のものに分けられる。厚手のものでは断面形が円形・梢円形をなす乳房状磨製石斧（26～29）が典型的で量も多い。乳房状磨製石斧は入念に研磨されたもの（26・28）もあるが、側縁や器表裏面に剥離加工や敲打痕をもつもの（29）がある。中には研磨痕の下地に剥離加工や敲打痕が残るものもあることから、乳房状磨製石斧は研磨以前に剥離・敲打調整という製作工程をとることが想定され、尾崎遺跡などでは未製品と考えられるものも出土している。また剥離により器体を成形し、刃部のみ研磨した局部磨製石斧もある。一方薄手のものでは扁平な縁や剥片を素材とし、剥離と研磨によって石斧を作ったもの（30）が多いが、敲打を伴うものもある。また研磨を全面的に施し、側縁を平坦に面取りした定角式磨製石斧もしばしば見られる。磨製石斧の石材は凝灰岩・輝緑岩・蛇紋岩・はんれい岩などが多い。出土量は打製石斧ほどは多くはないが各遺跡で一定量は存在する。磨製石斧の中では乳房状磨製石斧が全段階を通じて量的に多い。定角式磨製石斧は乳房状磨製石斧ほど量は多くはないが本県の場合、Ⅲ・Ⅳ段階に量的増加が見られるようである。用途は木材の伐採具と考えられる。

石匙・スクレイバー（33・34・36・37） 剥片を素材とし、抉りを入れてつまみ部を作出した石匙は、本時期では横形のものがほとんどである（36・37）。大きさは小形のものと大形のものがある。小形のものは剥離が細かく、石材はたいてい黒曜石を使用する。一方大形のものは剥離がやや粗雑で、石材は黒曜石以外のものも多い（36）。またこの他各種スクレイバー（33・34）も存在する。これらの石器は各遺跡でしばしば出土するが、量的には多くはない。

石錐（35） 剥片の先端に剥離を加え、尖った先端部を作出したもの。長細い先端部と膨らんだつまみ部をもつもの、不定形な剥片の一角に先端部を作出したもの（35）、細い棒状のものなどでさまざまなバリエーションが存在する。石材は小形のものでは黒曜石が多い。

楔形石器・石核 上記の器種の他に、楔形石器や石核などが存在する。

（松田光太郎）

| 狩猟具 | | 漁労具 | | 植物加工具 | | 土掘り・伐採具 | | 伐採具 | | 加工具 | |
|-------|--------------------------|-----|--|--------------------|---------------------|-------------------|-------------------|-----------------|-----------------|-------------------|--|
| 石鏃 | 石錐 | | | 磨石・敲石・凹石・石皿類 | | 打製石斧 | | 磨製石斧 | | 石匙・石錐他 | |
| I段階 | 1 大熊町 11住 | | | 5 下田西J 1住 | 8 山田大澤 1住 | 12 山田大澤 1住 | 16 山田大澤 1住 | 22 宮原五七住 | 26 宮原王7住 | 33 大熊仲町113住 | |
| | AII 2 大地園戸 14住 | | | 6 黒口J 14住 | 9 大地園戸 14住 | 13 大地園戸 14住 | 17 大地園戸 14住 | 23 大地園戸J 4住 | 27 原東19住 | 34 大熊仲町113住 | |
| | AII 3 市ノ沢園地 C5住 | | | 10 市ノ沢園地 C5住 | 14 市ノ沢園地 B13住 | | 18 市ノ沢園地B13住 | 20 市ノ沢園地B13住 | 24 市ノ沢園地B13住 | 35 大地園戸 14住 | |
| | 4 尾崎11住 | | | 7 尾崎11住 | 11 尾崎11住 | 15 尾崎11住 | 19 尾崎11住 | 21 新戸J 4數石 | 25 尾崎11住 | 36 船上原 | |
| II段階 | | | | | | | | | | 37 大熊仲町J 16住 | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| III段階 | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| IV段階 | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

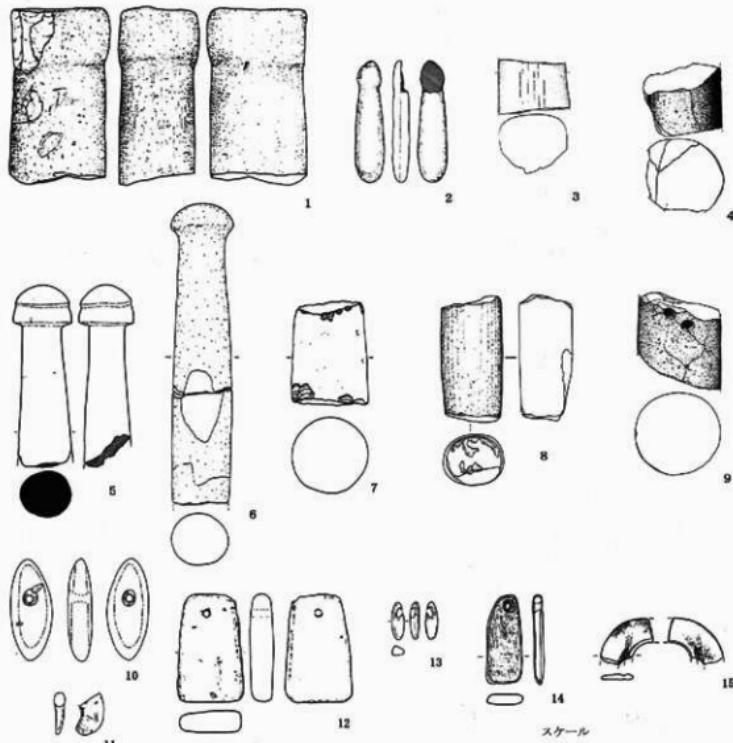
第12図 加曾利E式・曾利式期の石器 (1/5)

3. 石製品（第13図）

本項では、加曾利E式・曾利式期の石製品について非常に簡単にではあるが概要を記した。当該期の石製品には、石棒、垂飾などの装身具が挙げられるが、それぞれ属性に乏しく、編年案の各段階（I～IV）への設定が困難なため、遺構外出土の遺物は除外し、当該期の遺構から出土した石製品のみを取り扱うこととした。また、編年案の各段階への比定は遺構内から出土した土器を基準にした。

石棒 当該期の石棒は、横浜市道2号線No6遺跡11号住居址（1）、上白根おもて遺跡11号住居址（2）、岡上-4遺跡第2地点J-6号住居址（3）、羽沢大道遺跡4号住居址（4）、福ヶ原遺跡A地点B-1号住居址（5）、新戸遺跡J-9号敷石住居址（6）、青野原バイパス関連遺跡大地開戸遺跡J24号配石（7）、井田中原遺跡B地点J T-1、高山遺跡18号住居址（8）、二ノ丸遺跡J66号住居址、同遺跡J96号住居址（9）等から出土している。時期は、遺構からの出土土器からII～IV段階に比定される。特に、IV段階にかけて出土例が増加する傾向が認められる。

装身具 当該期の垂飾は、市ノ沢团地遺跡D地区第14号竪穴住居址（10）、下原遺跡第17号住居址（11）、宮



第13図 加曾利E式・曾利式期の石製品

1／8 : 1～9 1／4 : 10～15

添遺跡D-29号住居址（12）、相原八幡前遺跡第5地点第1号住居址（13）、二ノ丸遺跡J70号住居址（14）、同遺跡J92号住居址（15）等から出土している。時期は、Ⅱ～Ⅲ段階に比定される。下原遺跡第17号住居址と二ノ丸遺跡J92号住居址出土の遺物は、块状耳飾りの欠損品で、その他の遺物は、大珠などである。

以上のように石棒、装身具について概要を記したが、これらの遺物出土例の多くが遺構外からの出土であることなどから、当該期に属している石製品の多くを見落としている可能性は高いと考えられる。（岡 稔）

神奈川県内 中期後葉土器出土主要遺跡地名表（補遺）

- (1) この表は平成13年度刊行した「神奈川県における縄文文化の変遷Ⅰ～中期後葉 加曾利式土器の様相 その1」(2001 研究紀要6) に掲載できなかった遺跡文献のうち、今回の論論に関わるもののみを抽出して掲載したものである。
- (2) 掲載基準および様式は前回を踏襲している。
- (3) 作成にあたってはプロジェクトメンバーが分担して集めし、データベース化した。なお、表の編集は小川が担当した。

| 遺跡No. | 遺跡名 | 住居数 | 所在地 | 文献No. |
|---------------|-----------|-----|----------|-------|
| 横浜市都筑区 | | | | |
| 73 | 二の丸遺跡 | 73 | 池辺町665 | 204 |
| 74 | 南高山西道跡 | 1 | 池辺町390外 | 186 |
| 平塚市 | | | | |
| 116 | 真田・北金目遺跡群 | 1 | 真田・北金目 | 188 |
| 119 | 原口遺跡 | 39 | 上吉沢1617外 | 196 |
| 藤沢市 | | | | |
| 123 | 用田島居古遺跡 | 2 | 用田647地 | 197 |

| 遺跡No. | 遺跡名 | 住居数 | 所在地 | 文献No. |
|-------------|--------|-----|-------------|---------|
| 小田原市 | | | | |
| 126 | 千代東町遺跡 | 1 | 千代東町209-2他 | 198 |
| 相模原市 | | | | |
| 129 | 藤坂遺跡 | 6 | 磯形字藤坂 | 178 |
| 136 | 備本遺跡 | 1 | 横本 | 179 |
| 城山町 | | | | |
| 178 | 川尻遺跡 | (2) | 川尻字谷ヶ原769-1 | 184・185 |
| 179 | 川尻中村遺跡 | 80 | 川尻字向原1269他 | 203 |

| 遺跡No. | 遺跡名 | 住居数 | 所在地 | 文献No. |
|-----------------|------------|-----|------------|-------------|
| 横浜市青葉区 | | | | |
| 188 | 寺下遺跡 | 1 | 大場町103-1 | 203 |
| 横浜市港北区 | | | | |
| 189 | 下田西遺跡 | 2 | 下田町2-848-1 | 191 |
| 横浜市都筑区 | | | | |
| 190 | 高山遺跡 | 12 | 高山4 | 207 |
| 191 | 上台の山(大野)遺跡 | 3 | 神町台3-12 | 192 |
| 横浜市保土ヶ谷区 | | | | |
| 192 | 南原遺跡 | 3 | 川島町973地 | 193・194・195 |
| 川崎市麻生区 | | | | |
| 193 | 岡上-4遺跡 | 13 | 岡上字堀留793 | 187 |
| 川崎市中原区 | | | | |
| 194 | 舟田中原遺跡 | 1 | 舟田1485-1地 | 205 |
| 横須賀市 | | | | |
| 195 | 江戸坂貝塚 | - | 久比里2-392他 | 174・175 |
| 小田原市 | | | | |
| 196 | 久野一本松遺跡 | 30 | 久野1282地 | 199 |

| 遺跡No. | 遺跡名 | 住居数 | 所在地 | 文献No. |
|-------------|--------------|-----|--------------|---------|
| 相模原市 | | | | |
| 197 | 相模原市No.76遺跡 | | 古潤4 | 176 |
| 198 | 相模原市No.69遺跡 | 2 | 大島字下台983-1 | 177 |
| 199 | 相模森ノ上遺跡 | 1 | 相原5-486-1他 | 189 |
| 200 | 田名塩川遺跡群 | 1 | 田名字向原1082地 | 190 |
| 201 | 相模八幡前遺跡 | 2 | 相原4-190地 | 200・201 |
| 厚木市 | | | | |
| 202 | 恩名冲原遺跡 | 19 | 恩名冲原 | 180 |
| 大和市 | | | | |
| 203 | 大和市No.1遺跡 | 1 | 下経間1-37-1他 | 181 |
| 伊勢原市 | | | | |
| 204 | 三ノ宮・下谷ノ遺跡 | 11 | 三ノ宮字下谷1100地 | 182 |
| 205 | 池端・柳山遺跡 | 5 | 池端242地 | 208 |
| 座間市 | | | | |
| 206 | 米軍キャンプ座間地内遺跡 | 2 | 米軍キャンプ座間地内 | 183 |
| 城山町 | | | | |
| 207 | 向原中村遺跡 | 1 | 川尻字向原1267-1地 | 206 |

文献一覧（表中文献と一致）

- 174 1998 横須賀市人文博物館 「考古資料図録XⅡ」 横須賀市人文博物館
- 175 1999 横須賀市人文博物館 「考古資料図録XⅢ」 横須賀市人文博物館
- 176 1999 年 勝仁 「相模原市No.7626跡 - (板谷寺古墳所在)遺物事業に伴う調査-」 相模原市遺跡調査会調査報告1 相模原市遺跡調査会
- 177 2000 春村祐一 「相模原市No.6938跡」 横須賀市歴史文化財調査報告 2
- 178 2000 山田不二郎 「横坂遺跡54次調査-市道磯部47号改良工事に伴う発掘調査-」 相模原市遺跡調査会調査報告2 相模原市遺跡調査会
- 179 2000 河本雅人 「横浜文化財発掘調査報告集-横木遺跡8次調査-」 相模原市文化財調査報告 24
- 180 2000 戸田哲也ほか 「神奈川県厚木市恩名沖原道路改修調査報告書」 恩名沖原道路改修調査委員会
- 181 2000 相原俊夫 「大和市No.1遺跡第2次調査 調査報告書」 大和市文化財調査報告書 第74集 大和市教育委員会
- 182 2000 戸田信悟ほか 「三ノ宮・下谷戸遺跡(No.14) 第一東名自動車道(東名高速道路)厚木・大和松田間拡幅工事に伴う調査報告17-伊勢原市内-」 かながわ考古学財団調査報告 76 (財) かながわ考古学財団
- 183 2000 戸田哲也ほか 「相模原市南原地区市木原キャンプ施設地内遺跡発掘調査報告書」 米軍キャンプ周囲地内遺跡発掘調査団
- 184 2000 加藤勝彦ほか 「相模原遺跡Ⅰ号・Ⅱ号・Ⅲ号地内遺跡に伴う発掘調査-」 かながわ考古学財団調査報告 69 (財) かながわ考古学財団
- 185 2000 山本尊久ほか 「横須賀市歴史文化財調査報告書」 神奈川県教育委員会・城山町教育委員会・(財) かながわ考古学財団
- 186 2001 石井 寛 「新高山遺跡(前高山北遺跡) 湘北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告29」 (財) 横浜市ふるさと歴史財団・横浜市教育委員会
- 187 2001 野島英夫ほか 「開上-4遺跡第2地点 先塚調査報告書」 同上-4遺跡先塚調査団
- 188 2001 若林勝司ほか 「相模原市真田・北金日遺跡改修事業に伴う調査報告書」 (財) まちづくり相模原市
- 189 2001 春村祐一 「神奈川県相模原市相模霧ノ上遺跡」 相模原市相模原地区遺跡調査団・相模原市相模原5丁目土地区画整理事業
- 190 2001 田名塩田遺跡群II発掘調査報告書 田名塩田遺跡群発掘調査団
- 191 2002 吉田浩明 「下田西遺跡発掘調査報告書」 下田西遺跡発掘調査団
- 192 2002 堀川克弘 「古の山遺跡」 (財) 横浜ふるさと歴史財团埋蔵文化財センター
- 193 2002 戸田哲也ほか 「横浜市南ヶ丘区谷原遺跡発掘調査報告書」 番谷南原地区内遺跡発掘調査団
- 194 2002 小山昌好ほか 「南原遺跡発掘調査報告書」 かながわ考古学財団調査報告 129 (財) かながわ考古学財団
- 195 2002 桐生昌幸ほか 「南原遺跡改修事業に伴う発掘調査報告書」 南原遺跡改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告-横浜市道路局・財團法人横浜市ふるさと歴史財団
- 196 2002 長岡文紀 「原町遺跡 横文時代-農業結合研究所建設に伴う発掘調査-」 かながわ考古学財団調査報告134 (財) かながわ考古学財団
- 197 2002 吉原伸好ほか 「用田鳥居前遺跡-県道22号(横浜伊勢原線)道路改良事業(用田バイパス建設)に伴う発掘調査-」 かながわ考古学財団調査報告 126 (財) かながわ考古学財団
- 198 2002 調査顧問ほか 「平成9年度小田原市緊急調査報告書5 平成9年度範囲確認調査」 小田原市文化財調査報告書 第81集
- 199 2002 戸田哲也ほか 「久野遺跡/久野跡群」 久野一本松・久野天野森・久野坂下遺跡「市道0038号道路改修工事に伴う埋蔵文化財調査 小田原市文化財調査報告書 第101集 小田原市教育委員会
- 200 2002 土井水好ほか 「久野八幡遺跡第5施設」 相模原市埋蔵文化財報告 第29集 相模原市教育委員会
- 201 2002 香村祐一 「秦川県相模原市相模八幡前遺跡」 相模原市相模原地区道路調査団
- 202 2002 天野賢一ほか 「山尻中村遺跡-県道510号(長竹川左岸)新小倉新設事業に伴う調査報告2-」 かながわ考古学財団調査報告 133 (財) かながわ考古学財団
- 203 2003 渡辺義 「横浜市青葉区寺内遺跡」 日本宮史研究会報告 第60号 日本国史研究会
- 204 2003 小宮恒徳ほか 「二ノ丸遺跡」 湘北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告 34 (財) 横浜ふるさと歴史財团埋蔵文化財センター
- 205 2003 北原實徳ほか 「井田中原遺跡B地」 井田中原遺跡B地点発掘調査団
- 206 2003 山田仁和ほか 「井田中原遺跡-向原下村遺跡-城山町川尻向原土地整理事業地内道路の発掘調査-」 城山町川尻向原土地整理事業地内道路発掘調査団
- 207 2004 石井 寛 「高山遺跡」 湘北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告 (財) 横浜ふるさと歴史財团埋蔵文化財センター
- 208 2004 井道一雄ほか 「海塩・柿山遺跡緊急地方道路整備事業(主要地方道路横浜・伊勢原線)に伴う発掘調査 かながわ考古学財団調査報告 165 (財) かながわ考古学財団

宮ノ台式土器の研究（4）

弥生時代研究プロジェクトチーム

はじめに—編年基準資料の一括性の再検討

昨年度に引き続き宮ノ台式土器の研究を行う上で、今回は編年基準となっている資料について、出土状況を再検討して一括性を確認する。従来の基準資料の中で、複数個体や複数器種の共伴関係が確実な事例はどれだけあるだろうか。基準資料の見直しと新資料の蓄積状況の確認によって当プロジェクトによる一連の研究に関する総括を行い、今後の研究の方向性と先行きについて検索することを試みたい。実際の作業については一昨年度より出土状態の確認できる事例を集成し、また新たに基礎資料に加えられる事例の蓄積を行った。なお資料集成はプロジェクトメンバーで分担して行い、集成図の縮尺は一部の例外を除き造構を1/120、土器は実測図1/12・拓影図1/6に統一した。執筆分担と文責は各文末に記した。
（池田・渡辺）

1. 宮ノ台式土器の編年基準資料における出土状況

本節では造構出土の土器とその出土状況図（出土微細図及び出土分布図）を用いて、時間軸に沿った資料の提示と分析を行う。従来の編年観に沿って各時期の標式的な一括資料を提示することで、現時点での資料評価の限界と可能性とを覗むにていきたい。

（1）宮ノ台式直前段階及びⅠ段階（第1図）

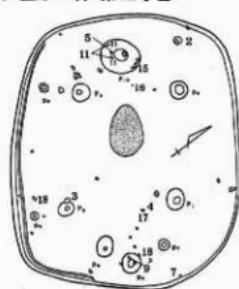
I段階は宮ノ台式土器の成立段階とされる。壺形土器（以下「壺」と呼称）には前段階の要素が強く残る中、東海地方の影響により櫛描文が定着し、壺形土器（以下「壺」と呼称）は横羽状の条痕・櫛描文が主体となる他、口縁内面に櫛目鉢状文が施される。この段階の資料は県内でも非常に僅少であり、厚木市戸室子ノ神遺跡の第12号址及び第68号址出土資料を標式とする。同じ遺跡で検出されている第32号址、第84号址はその直前段階に位置付けられる（安藤1990・1991、大島2000）。第1図にはそれらの資料のうち、出土状況が明確で、一括性を保証出来る例を抜き出して提示した。

戸室子ノ神 第32号址 土器は床面及び柱穴等から、器形を復原できる程度の大型破片数点の他、10点程度の破片が出土している。壺は条痕施文のみのもの（2）と、磨消繩文による結縫状もしくは弧状のモチーフ（3）や王字文（15）を持つ。壺は条痕施文のものが多く、口縁下縦位（7）や横羽状（1・11・17）のものが認められる。また複数段の横羽状沈線を描かれる例（9）や、横方向の波状文を縦に数段重ねたモチーフを櫛齒状の原体で描いている例（18）など、壺には他地域からの影響や、他地域との交流を示唆する例を含んでいる（註1）。

戸室子ノ神 第84号址 床面上から壺、壺が複数個体潰れた状態で出土した。壺は中期中葉の所謂須和田式土器における新しい様相を示すものが殆どで、磨消繩文によるX字状のモチーフを持つもの（1）が伴う。壺は口縁下に縦位（18・20）又は横羽状（2・3・19）の条痕を施されている。

戸室子ノ神 第12号址 床面上から壺一個体（1）と破片数点が出土した。1の壺は重四角文の下位に横方向の繩文を三段にわたって施し、境に振幅の浅い波状沈線をひき、間をヘラナデにより磨消している。文様要素と器面調整、器形も含めて該期の資料としては特徴的である。壺は沈線や条痕による羽状文（4・5）がみ

戸室子ノ神 第32号址



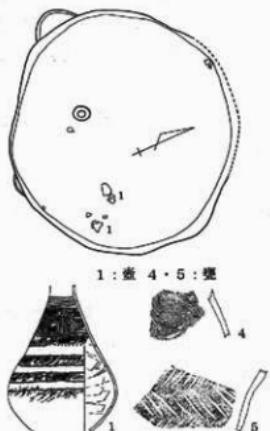
2・3・15：壺
1・7・9・11・17・18：甕

戸室子ノ神 第84号址



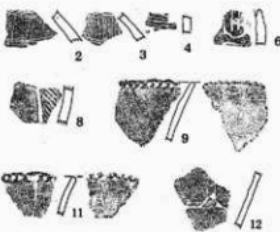
1・4～7・8・9・13～17：壺
2・3・10～12・18～20：甕

戸室子ノ神 第12号址



1：壺
4・5：甕

戸室子ノ神 第68号址



2～4・6・8：壺
9・11・12：甕

られる。

戸室子ノ神 第68号址 住居址掘り方から土器の破片が出土している。壺は刷毛目整形されるもの（2・3）や舌状に垂下する沈線文（6）、帶縄文により何らかのモチーフを描かれるもの（8）がある。壺は櫛齒状工具により斜行もしくは横羽状の条痕を残し、口縁内面に櫛目鏡状文を持つもの（9・11）がみられる。

I段階及び直前段階の土器を改めて概観すると、壺は中期中葉の新しい様相を持つ例の中に、戸室子ノ神第84号址1や同第12号址1のような、器形・文様帶構成・調整等で特異な要素を持つ個体が含まれている。壺は直前段階の例では従来の条痕文を主体とする。I段階では外面に竈や櫛齒状工具による横羽状文を施し、口縁内面へ櫛目鏡状文を加えるものが認められる。これらの事例を見ると、従来の編年観における櫛描文やハケ目調整等の要素が波及した段階に該当することは間違いない。しかしこれらの資料は非常に断片的であり、宮ノ台式成立段階としての評価が妥当なものかという点については今だに論点となっている（註2）。

（2）Ⅱ段階（第2図）

II段階は櫛描文の本格的な導入期として捉えられる時期であり、東遠江地域の白岩式古段階のような「西方の土器群の要素が本格的に展開し始める段階」として評価される。この段階では、鎌倉市手広八反目遺跡第15号住居址や小田原市山神下遺跡第3号方形周溝墓出土土器などが標式的な資料として認められる。I段階と同様に、この段階に比定される資料自体があまり多くない。また断片的で、より新しい段階に帰属する遺構の覆土等から出土する事例が多い。

手広八反目 第15号住居址 本址は床面西北部が一段高くなつた「ベッド状遺構」を有し、壺と壺の破片が合計14個体出土した。段差の境目とピットP3・P5に挟まれた場所には壺一個体（7）が倒立して出土したほか、床面上から壺の大型破片数個体と台付壺の脚部（11）も認められる。壺はハケ整形が主体となり、帶縄文による結紐状モチーフを持つもの（28b）、櫛齒状工具による擬流文（16・18）や波状文（17・26）を施されるもののがみられる。また多段の櫛描直線文に、同原体による縱方向の短線を加えるような東海系の例（20）も併存する。壺はハケ整形後にナデ消しているもの（1～3）、櫛描による横羽状（4）、細めの竈捲沈線が斜行するものの（5）や横羽状となるもの（6）の他、全体に刷毛目を施されるもの（7・9・10）がみられる。

山神下 第3号方形周溝墓 本址は他時期の遺構に各所を分断されているが、東溝中央付近の覆土中から壺2個体が出土した。ハケ整形を地に櫛描波状文を密に施される例（1）と、擬流文の下に垂下する三つ又の島の足状とも言うべき沈線文を横方向に重ねる例（2）がある。

II段階の土器を見ると、壺は擬流文、波長の細かい波状文など櫛描文が盛行する。また結紐文などの帶縄文を用いた例も確認される。壺ではハケ目調整だけのものと、櫛描や一本書き沈線による横位羽状文のもの、ハケ整形後に緻密なナデを加えるものがある（註3）。口唇部の装飾は工具による刻み目が多く、櫛目鏡状文も盛行している。器形は腹部が僅かに張り、頸部から口縁にかけて急激に外反するものが多い。宮ノ台式土器の前半における要素が揃うのはこの段階に入つてからのことで、土器の出土分布上も前段階との間にある種の隔絶が認められることは前回指摘した通りである。

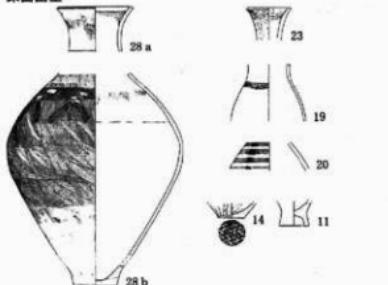
（3）Ⅲ段階（第3・4図）

III段階は壺では櫛描文が盛行し、文様帶が縮小化する傾向をもつ。壺は横羽状文が僅かに残り、ハケ壺が多くなる。土器における地域色が強まるのがIII段階の特徴とされ、前段階の様相が残る前半と、IV段階の様相の萌芽が認められる後半期に細分される。前半は鎌倉市大倉南御門遺跡A地点1号住居址出土土器が、後半は横浜市折本西原遺跡（市調委分）Y49号住居址、秦野市砂田台遺跡26号住居址及び104号住居址の出土土

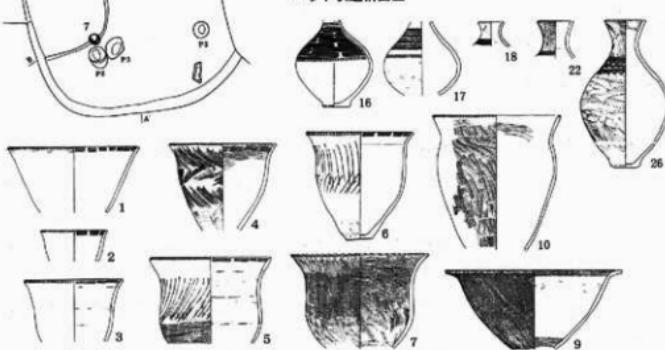
手広八反目 第15号住居址



床面出土



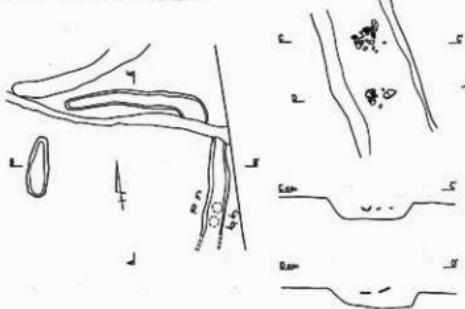
ベッド状造構出土



14・16~20・22・23・26・28: 瓢

1~10: 瓢 11: 台付甌

山神下 第3号方形周溝墓



第2図 第II段階

器などが標式的な資料である。

大倉南御門A地点 1号住居址 南東側が他の住居と重複して検出されているが、床面上の各所と壁際から壺と壺3個体ずつが出土した。壺は帶縄文で工字状モチーフを施すもの(1)、帶縄文で横帯と結縄文を施し、横帯の中に沈線による波状文を加えるもの(2)、全体ヘラミガキで無文のもの(3)など多様である。壺はナデ壺(4)の他、ハケ壺で口縁内面が折り返し状を呈するもの(5・6)がある。

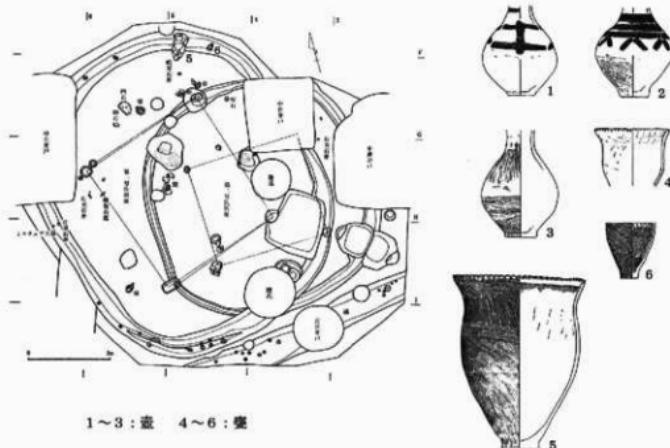
折本西原(横浜市調査) Y49号住居址 遺構の中央やや南寄りを環濠に分断されているが、両側の床面上から壺10個体、壺13個体が出土した。壺は櫛齒状工具による横線や沈線による鋸齒文・波状文を不規則に加えるもの(1)、頸部に櫛描波状文(2)や刺突列(4)、二個一対の瘤状貼付を胴部に持つもの(5)、縄文の横帯のみを複数段重ねるもの(7)が見られ、その他はハケ調整かヘラナデのみの無文の例が多い。壺はハケ壺がほとんどである。器形も張りの弱い胴部から、口縁にかけてのくびれと外反が強くないものが多い。

砂田台 第26号住居址 北東側を擾乱され、中央を環濠に分断されている。両側の床面と壁際から壺・壺・高坏の破片が出土した。壺はハケ調整後にヘラナデを加えた無文の例(5・7)である。壺はハケ壺(1・2)の他、台付窓脚部(4)がみられる。高坏は脚部を欠き、口縁は水平に開き端部に縄文が施される(8)。

砂田台 第104号住居址 住居床面及び直上層から、散乱した状態で壺・壺破片が出土した。壺は櫛描きの波状文と横線を持つ例(11)の他、ハケやヘラナデのみで無文のものが多い。壺はハケ壺がみられる。

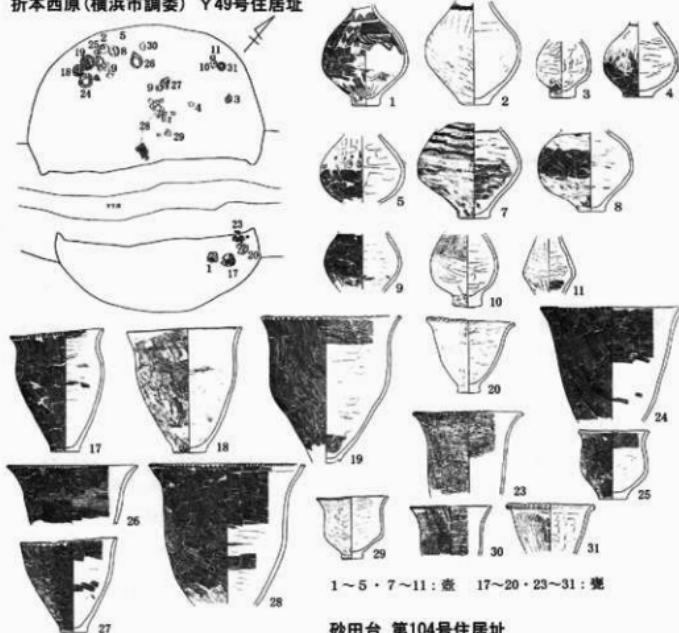
確かにⅢ段階の資料では壺の文様帶縮小化が進み、壺はハケ目調整だけのものが組成している。しかし今回分析の対象とした資料を見る限りでは、壺は前半から後半に移るにつれ無文化傾向が強まり、櫛描文自体も激減しているといってよい。また各地域毎の独自な様相が強まるというのが従来の評価であるが、壺はこの段階の当初からハケ壺が盛行し、横浜地域から相模地域にかけて、むしろ齊一性は強まっている。ただし遺跡数が増加していること、Ⅱ段階からⅢ段階にかけて土器様相が激変することは歴然たる事実である。宮

大倉南御門A地点 第1号住居址

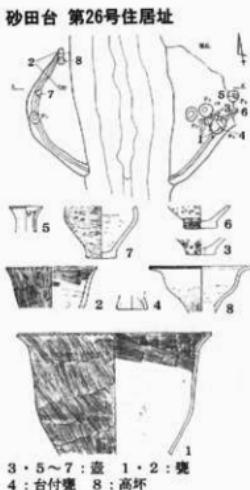


第3図 第Ⅲ段階前半

折本西原(横浜市調査) Y49号住居址



砂田台 第104号住居址



第4図 第III段階後半

ノ台式土器の形式組列全体を考える上で、この段階が大きな変換点となっていることは間違いない。

（4）IV段階（第5図）

IV段階は、壺は帯縄文を多用しモチーフが画一化、文様帶が頭部付近に集中する。壺は引き継ぎハケ壺が主体である。標式的な資料には、折本西原Y5号住居址、茅ヶ崎市下寺尾西方A遺跡Y1号住居址、砂田台遺跡10号住居址の出土土器が挙げられる。

折本西原（横浜市調査委）Y5号住居址 調査区の端で確認された為、方形の住居址の西側半分程度しか検出できていない。床面上で壺1個体と壺3個体が漬れた状態で見つかった他、壺・壺両方の破片が出土している。壺は全体をハケ整形され、頭部下端に粘土の貼付による突帶を持つ例（1）のほか、小型壺下半の無文部分がみられる。壺は全てハケ壺である。

下寺尾西方A Y1号住居址 遺構はトレンチ状の調査区に北東部分がかかる形で検出された。床面上と周溝壁際で壺・壺・鉢・広口壺等が見つかっている。壺は胴部上半に2段の帯縄文による横帶をもつもの（1）、全面ハケ整形だけのもの（2）がみられ、壺はハケ壺とナデ壺である（7・8）。鉢も壺と同様の器面調整が施され（3・5）、広口壺は胴部上半に2段の縄文帯を持つが、沈線による区画を持たない（6）。

砂田台 第10号住居址 南側を方形周溝墓の溝の一辺に切られているが、本址は焼失住居であり、床面及び直上層から壺・壺両方の破片が大量に出土している。壺は、口縁部や口唇端にのみ縄文を施すもの（11・16）や縄文地文に二本一組の沈線で緩い弧状の横線を書き連ねていく例（18）、2段の羽状縄文を横帶としてもつもの（19）、頭部に撚捲波状文を施すもの（17）の他、全体的にミガキと赤彩が器面の大部分を占める例が多い。壺はハケ壺もしくはナデ壺（1～3・5）ばかりで、台付壺（9）も同様の器面調整を施される。

IV期の資料を見ると、III段階で既に認められた文様の簡素化傾向を更に引き継いでおり、壺では部分的に羽状縄文や帯縄文を用いた施文例も見られるようになる。もはや定型化したハケ壺とナデ壺の他、広口壺や鉢が確実に共伴するようになるのも、この段階の土器様相の特徴と言えよう。

（5）V段階（第6～8図）

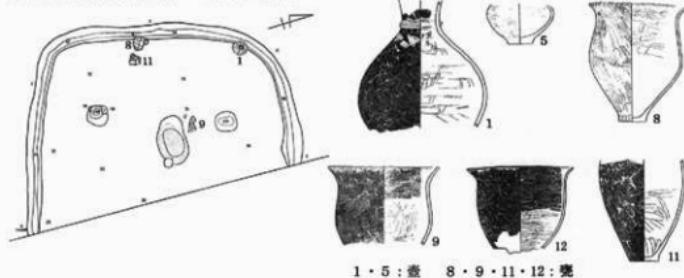
V段階は無文化が進行し、文様そのものの単純化・文様帶の縮小化が進む段階として評価されている。壺は沈線区画のない縄文帯や、内部を斜行沈線により充填される鋸歯文が盛行する。赤彩を施すものが増え、器形は最大径位が胴下半に移行し、口縁は強く外反する。壺はIV期と同様にハケ壺が主体となるが、ナデ壺とヘラミガキで磨り消す例が増加する。器形は胴部の張りが全体的に強まることが指摘される。

V段階は更に土器の様相により、壺の文様帶が縮小して鋸歯文が盛行し、ハケ壺の器形が定型化する前半段階と、壺の文様そのものが更に簡略化し器形が定型化する後半段階に分かれる。V段階前半の標式的な資料には砂田台遺跡第30号住居址、小田原市羽根尾塚ノ上遺跡20号住居址の出土土器が挙げられる。

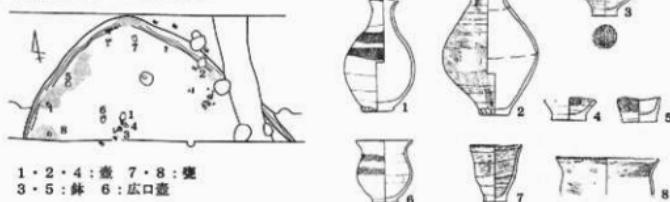
砂田台 第30号住居址 本址は焼失住居で、南側に湾曲して延びる溝を伴うものと考えられている。床面からは焼土・炭化材と共に土器の破片が多量に出土した。壺は羽状縄文の横帶を頭部に持ち、器面をハケ目整形後にヘラミガキを加え、赤彩されている。羽状縄文を頭部だけでなく胴部上半にも加え、極めて急激に外反する口縁を持つ例（9）も存在する。壺は台付壺の脚部（36）以外わからない。鉢はハケ目調整を加えられる。

羽根尾塚ノ上 第20号住居址 本址は他時期の遺構等に寸断されているが、南西側の床面上に集中して、18個体分の土器が漬れた状態で出土した。壺は胴中位～下位に最大径位を持ち、短めの頭部から極めて急激に外反し、口縁部が受口状を呈するもの（1・2・18・19）と、外反してはいるが比較的緩やかに立ち上がるもの

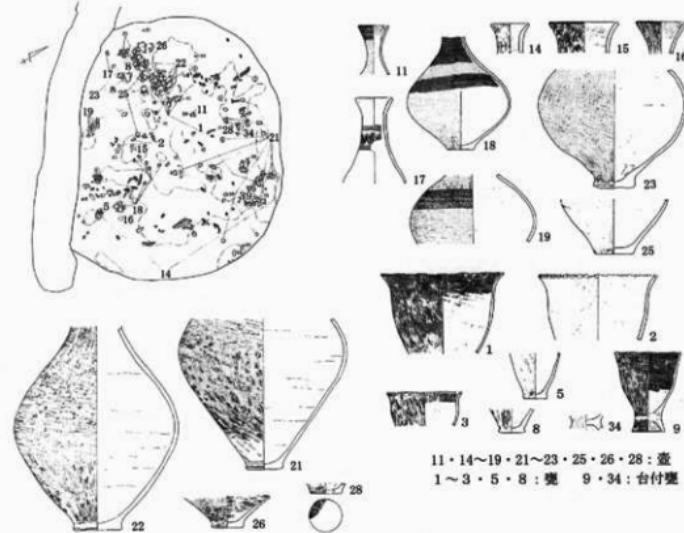
折本西原(横浜市調委) Y5号住居址



下寺尾西方A Y1号住居址

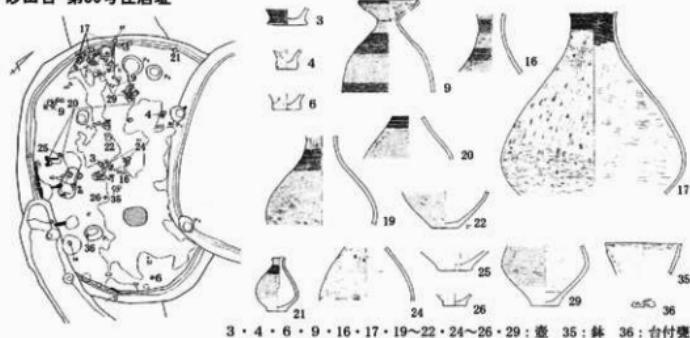


砂田台 第10号住居址

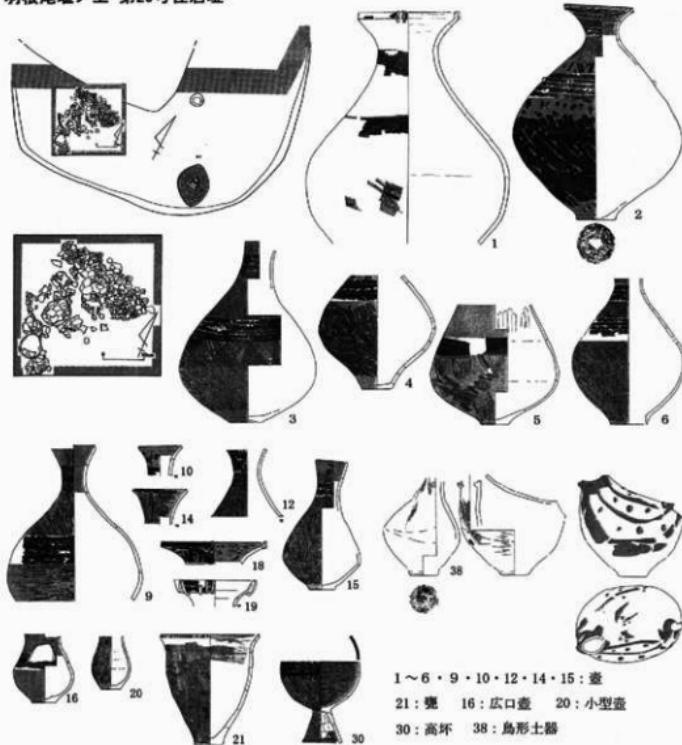


第5図 第四段階

砂田台 第30号住居址

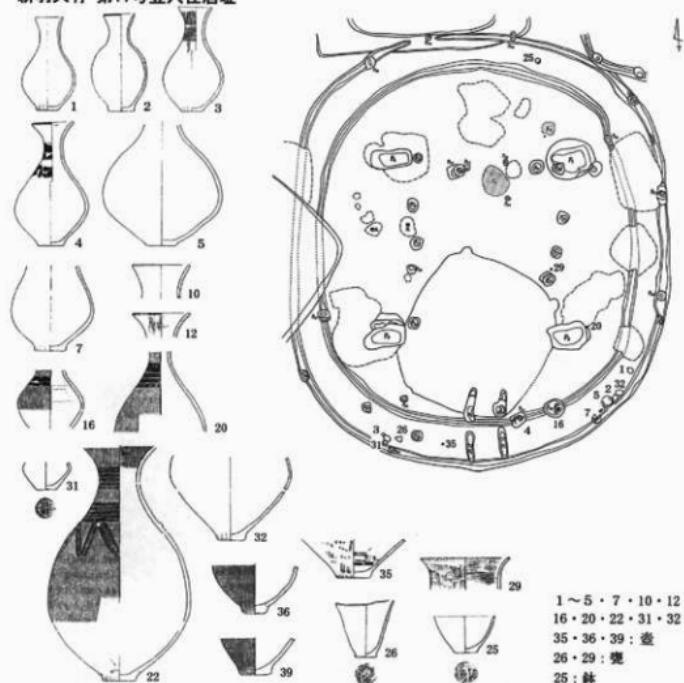


羽根尾塙ノ上 第20号住居址

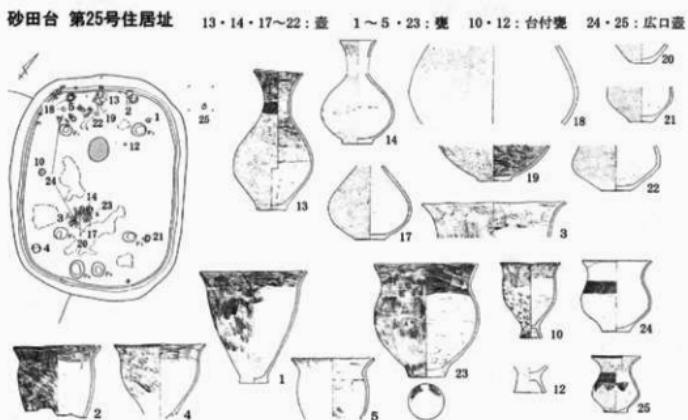


第6図 第V段階前半

新羽大竹 第17号竪穴住居址



砂田台 第25号住居址



第7図 第V段階後半(1)

(9・10・14・15)に分かれる。文様は胴部上半に羽状縄文の横帯を持ち、下位に鋸歯文を加える例(3・5)も存在する。器面はハケの後にミガキを加え、赤彩される。壺はハケ壺が1点だけ出土した。広口壺は胴上半に羽状縄文の横帯を持ち、壺と同様に器面を赤彩される(16)。この他に小型壺(20)、高壺(30)、鳥形土器(38)などが出土しているが、宮ノ台式土器全体を通じても類例の乏しく、珍しい資料である。

また宮ノ台式土器の最終段階であるV段階後半の標式的な資料には、横浜市新羽大竹遺跡第17号竪穴住居址、砂田台遺跡第3号・7号・25号住居址の出土土器が挙げられる。

新羽大竹 第17号竪穴住居址 本址は大型住居址で1回の拡張を経ている。床面上及び周溝壁際から壺・壺十数個体分の破片が出土している。壺は細身でやや短頸のもの(1~4・22)が多く、頸部と胴上半に羽状縄文による横帯を持つ例(3・4・20)や、下位に結紐文を更に加えたもの(22)がみられる。器面全体にヘラミガキが加えられ、16・20・22は赤彩される。壺はハケ壺(29)とナデ壺(26)が1個体ずつ認められる。鉢はハケ整形後、粗めのヘラナデで調整されている(25)。

砂田台 第25号住居址 本址の床面及び周溝壁際から壺・壺・台付壺・広口壺が潰れた状態で出土した。壺は頸部に羽状縄文の横帯が巡り、器面全体にミガキを施す。壺と台付壺はどちらもハケ壺で、底部から口縁まで比較的緩やかに立ち上がるものの(1)と、胴部が僅かに張るもの(23)がある。広口壺は胴が張り、頸部で急激にくびれて口縁が強く外反する。胴最大径位は下方にあるため、下膨れした器形に見える。器面はヘラミガキされ、胴部上半に1段の羽状縄文帯を持つもの(24)と、下位に鋸歯文を持つもの(25)がみられる。

砂田台 第3号住居址 本址の床面からは、北西側に偏って壺・壺・台付壺・広口壺など30個体程度が出土した。壺は下半に最大径位を持ち、短頸で口縁が急激に外反する器形が多いが、小ぶりで細身のもの(19)も見られる。器面にミガキを施し、無文か羽状縄文帯を頸部に巡らすもの(11・13)や口縁に施すもの(14)のほか、頸部に羽状縄文帯を巡らし、胴部上半には縄文帯と鋸歯文を加える例(15)もある。壺と台付壺はハケ壺がほとんどであるが、1点のみミガキを施す(10)。広口壺は全面ミガキで、口唇端部のみ縄文を加える。

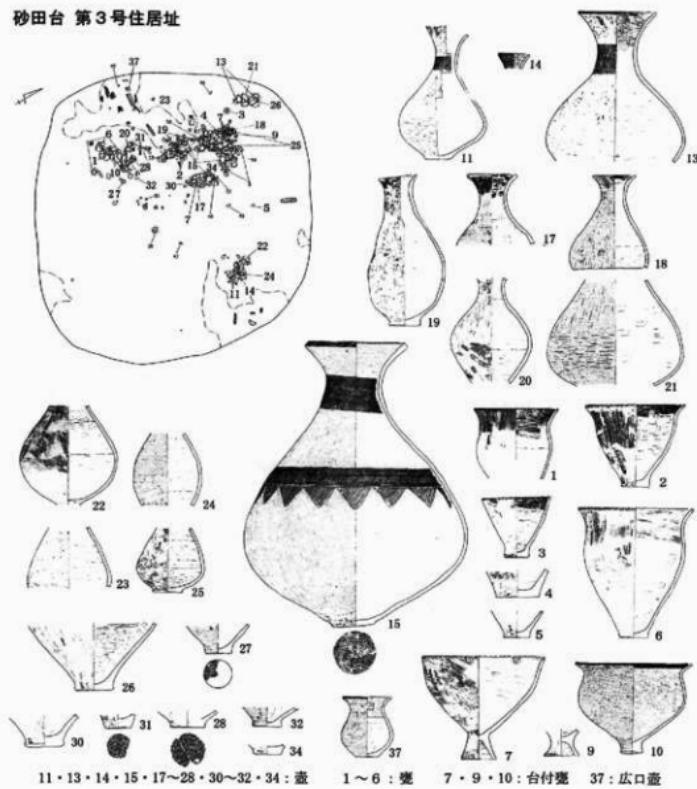
砂田台 第7号住居址 本址は北側の一部を搅乱されるが、その他の部分の床面上から、やや南側へ偏って散らばった状態で壺・壺・鉢・広口壺数個体が出土した。壺は細頸で頸部に羽状縄文帯を持ち、口唇にも縄文を加えるもの(2)と、小ぶりで短頸、無文のもの(4)がある。壺は僅かに胴が張り、口縁は緩やかに外反する。器面全体にミガキが施され、赤彩される(1)。広口壺は器面全体にミガキが施され、頸部のくびれが強い(5)。鉢は体部から口縁まで緩やかに立ち上がり、ミガキ後に赤彩されている(5・11)。

(6) 宮ノ台式直後段階(第9図)

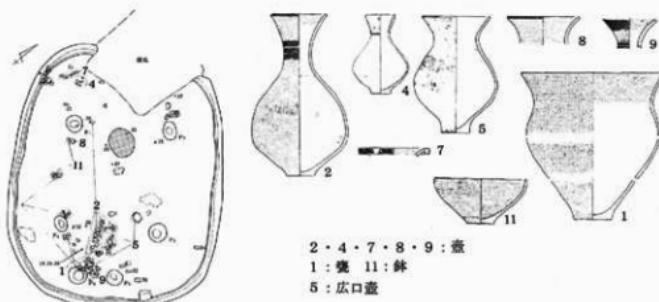
従来、弥生時代中期後葉に編年される宮ノ台式土器と、後期初頭の土器の様相には大きな隔たりがあり、遺跡の様相と絡めて該期の社会変動とも言うべき大きな変化が想定されてきた。しかし本県の遺跡の中には、宮ノ台式直後段階と思しき様相を示す資料を含んだものが幾つか存在する。第9図にはその宮ノ台式直後段階の土器と、そうした要素を一部に含んだ資料とを提示した。県域東部では手広八反目遺跡第42号住居址が、西部では平塚市真田・北金目遺跡群19区のS I 004・005・006の出土土器が該当する。

手広八反目 第42号住居址 本址は東側を搅乱で失い、南側約1/3程度を第33号及び36号住居址に掘られている。床面西側の周溝近くで壺1個体、鉢3個体が出土した。壺は短頸で胴下半に最大径位を持つ寸詰まりの器形である(6)。口縁は緩く外反し、頸部に至るまで縄文を施す。鉢は底部から直線的に立ち上がるものの(1)、途中から屈折して立ち上がるものの(2)、上端に粘土帯を貼り付けて折返し状の口縁を呈するもの(4)がある。体部下半に縦方向のミガキを、次いで口縁～体部中位に単節のL R及びR L縄文を上から交互に施し、

砂田台 第3号住居址



砂田台 第7号住居址



第8図 第V段階後半(2)

羽状縄文帯を作出している。同遺跡ではこの他に第21号・52号住居址で同様の資料が出土している。

真田・北金目19区 SI004 本址は東端の一部が方形周溝墓の溝と重複している他は、ほぼ完存している。床面上の南側に集中して、壺2個体と甕6個体分の破片が出土した。壺は短頸で僅かに胴の張る器形で、折返し状の口縁と胴上半に羽状縄文が巡るもの(2)、細身で胴下半に最大径位を持ち、全体にハケとミガキを施すもの(4)がある。甕はヘラナデ又はナデにより整形されるものが多く、張りのある胴部からくびれて急激に口縁が外反するもの(7)、胴部から僅かにくびれて強く外反し、口縁が折返し状を呈する例(6・8・11)がある。また頭部以上の輪積痕を残しているもの(12)も見られる。

真田・北金目19区 SI005 本址は西端を方形周溝墓の溝に切られ、南東約1/3程度が調査範囲外に含まれております、その全体像は不明である。また本址は焼失住居で、検出された範囲の床面上から、焼土や炭化物と共に壺・甕数個体分の破片が出土している。壺は胴下半に最大径位を持ち、ミガキ後に上半へ横帯と山形状の縄文帯を施すもの(4)がみられる。また短頸球形胴で、強く外反した所謂複合口縁を呈するもの(6)も存在し、頭部には継、胴部には横方向のミガキの後、羽状縄文を胴上半に3段、口縁内面に1段巡らし、口縁外面には縄文地に縱方向の棒状浮文を加える。甕は、直線的に立ち上がり口縁近くで外反し、折返し状口縁を呈するもの(2)、張りのある胴部からくびれて口縁が強く外反、全体にハケを施すもの(10)、頭部から直線的に立ち上がり、僅かに内傾した口縁に櫛描波状文を3段、頭部に簾状文を施すもの(13)が見られる。

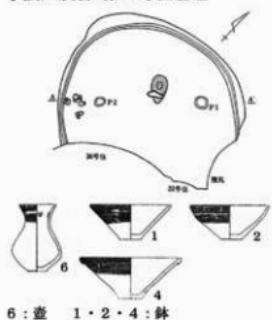
真田・北金目19区 SI006 本址は方形周溝墓の溝に中央と北東部分を斜めに掘り抜かれており、残存部分の床面及び直上層から壺・甕数点分の破片が出土した。壺は球形胴で強く張り、頭部は緩やかに立ち上がるものの(1)が見られる。頭部は継、胴上半は横方向にミガキ後、頭部に縄文帯を巡らしている。2も同様の壺頭部の破片。甕は緩い張りを持つ胴部にミガキを施し、口縁は上端近くで外反してから折返し状を呈する(3)。

これらの資料を概観すると、鎌倉市滑川流域に位置する手広八反目遺跡では、宮ノ台式に後続する要素を持つ壺と口縁羽状縄文帯の鉢とが複数造構で出土し、安定した組成として認められる。それに対し平塚市金目川流域の真田・北金目遺跡では、出土状況における同時性を示す資料の中で、19区SI004では宮ノ台式直後段階の壺と所謂久ヶ原式系の輪積痕を残す甕が組成する。更に後続する段階のSI005では、宮ノ台式の器形の系譜をひく壺と、駿東系の壺や中部高地系の櫛描波状文甕が組成している。こうした資料の蓄積は、これ迄不鮮明であった中期末～後期初頭という移行期の様相に僅かな光を与えると共に、想定されていた以上に地域毎の特質が複雑なものであることを示している。

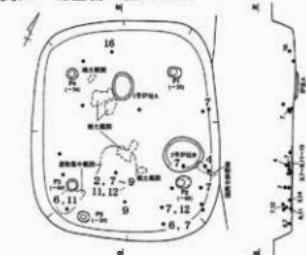
2. まとめ一括資料からみた宮ノ台式土器全体の変遷

これまでの宮ノ台式土器研究では、全体を大別5段階・細別7段階に細分し、I段階を宮ノ台式の成立段階、II段階を櫛描文と刷毛目調整を主体的な文様要素とする段階と規定し、III段階以降は羽状縄文帯を多用し地域差が強まるものとしてきた(弥生時代研究プロジェクトチーム2002~2004)。昨年度はI・II段階の資料を中心に分析を行い、各段階の間に遺物としての様相のほか、遺跡相としての差が存在していること、後半の段階にみられる地域相の下地となる要素はII～III段階への移行に伴い形成されたと想定した。しかし今回の分析対象に出来た資料の中ではII段階とIII段階の間にも大きな隔たりが見られ、III段階の土器群の場合、前段階の要素を一部で引き継ぎながらもハケ調整のみを主体とする例が急激に増加している。特にIII段階後半からIV段階にかけて壺では土器毎の個性・個体差が目立つ代わりに、調整技法や文様要素等における

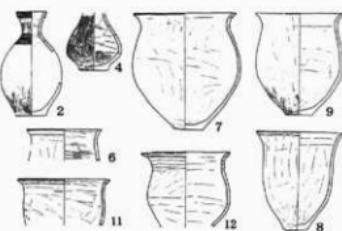
手広八反目 第42号住居址



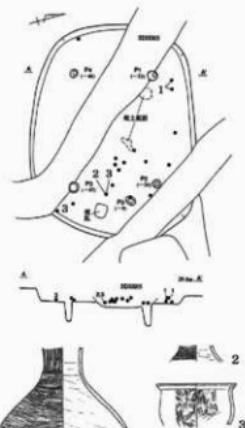
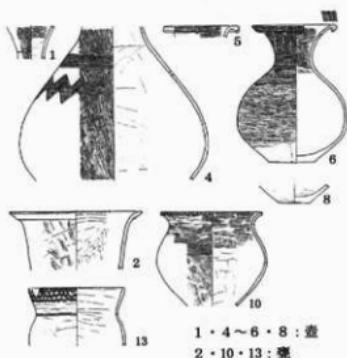
真田・北金目19区 S1004



真田・北金目19区 S1005



真田・北金目19区 S1006



第9図 宮ノ台直後段階以降

土器様相全体の齊一性は強まり、器種の上でもそれまで断片的でしかなかった台付壺と鉢が僅かに組成し始める。

続くV段階では、壺の個体毎における法量差が強まり、羽状繩文を用いた文様帶が盛行する。壺と台付壺はハケ壺が盛行し、広口壺や鉢も増加する。今回の分析対象には直後段階も含めたが、宮ノ台式最終段階の資料からの変遷は未だ不明なままであり、器形・器面調整・文様要素と施文技法の選択等、土器自体の諸要素だけでなく組成等も併せた広域的な比較・検討が求められる。

おわりに

今回の集成と分析作業を通じて、土器の編年研究において出土状況が明確であることと、その中の一括性の適切な把握が重要な前提条件となることが改めて確認できた。実際の研究動向の中では、遺存率が高く文様構成が特徴的な個体の分析に偏重する傾向が認められるが、そうした認識は資料提示と分析における客観性の保証を阻害するものであろう。ここでは、遺跡における出土遺物から一括資料を選別し、型式組列との比較検討・整合を図る場合に考えられる問題点を提示して、本稿の結びに代えたい。

(1)どこまでの範囲を一括遺物と考えるのか。検出した住居床面上の遺物だけを認定する場合と、床面からある程度の高さまでの範囲で出土した遺物を含む場合がある。例えば層厚3~4cm程度の床面上直層に含まれるものと一括遺物とする場合は後者に該当するが、焼失住居においては廃絶時の焼土・炭化物層が実際に数cm程堆積している場合がある。また周溝内や炉・柱穴等の付帯施設内から出土した遺物をどのように扱うかという問題があるが、住居の構造や廃絶過程を含めた検討をする。

(2)住居間で接合、又は遺構間つまり住居と土坑、住居と環濠など複数の遺構から出土した破片同士で接合している場合、その出土状況をどのように捉えるか。どちらの遺構に帰属する(又は帰属しない)ものとして取り扱うか。床面・覆土のどのレベルでどのように出土したかにより、その評価もまた変化する。

(3)一括遺物として認定した遺物の残存率について考慮に入れるかどうか。基本的に編年研究を視野において遺物を取り扱う場合、最初に着目する点は出土状況における一括性であって、土器の完形率や出土部位ではない。しかし出土状況による同時性を示す一群の資料の中で、残存率等その他の要素に大きなばらつきが認められるということは、最終的な埋没過程の中でどのような状況下にあったのか、つまり我々が発掘調査において見ることの出来る出土状況とは、一体何を示しているのかという重要な事実を反映しているのであり、決して看過すべき事柄ではない。

(渡辺)

註

- 1) この段階の土器は完形個体やそれに準ずるもののが著しく少なく、そうした資料的な限界のために断片的な事例から属性を抽出して分析せざるを得ないという制約がある。よって全体の器形や文様構成は推定の域を出ないが、子ノ神第32号址9などは山梨県都留市牛石遺跡に見られる壺の様相と類似する。
- 2) 戸室子ノ神遺跡における弥生時代中期の資料の評価については、その一部を宮ノ台式最古段階とする見解も多いが、独自の型式として捉える説もあり、今後再検討を必要とする資料の一つであろう。
- 3) 本稿では以降、器面全体に刷毛目を施されたものを「ハケ壺」、更に微密なヘラナデを加えて器面調整を施したものを「ナデ壺」と呼称する。

参考文献

- 安藤広道1990 「神奈川県下末吉台地における宮ノ台式土器の細分－遺跡群研究のためのタイムスケールの整理－」
(上)(下) 『古代文化』42・6・7 (財)古代学協会
- 1991 「相模湾沿岸地域における宮ノ台式土器の細分』『唐古』(藤田三郎さん・中間紅さん結婚記念) 田原本
唐古整理室O B会
- 石川日出志はか2004「南関東の弥生土器 予稿集」シンポジウム南関東の弥生土器実行委員会
- 大島慎一2000 「第IV章第1節 出土遺物の分析」『王子ノ台遺跡』第Ⅲ巻弥生・古墳時代編 東海大学校地内遺跡調査団
- 河野真知郎1980「雪ノ下南御門遺跡の第Ⅱ期調査」『鎌倉考古』No.4 鎌倉考古学研究所
- 宍戸信悟1992 「南関東における宮ノ台期弥生文化の発展－特に西相模を中心として－」『神奈川考古』第28号 神奈川考
古同人会
- 弥生時代研究プロジェクトチーム2002「宮ノ台式土器の研究(1)」「研究紀要7 かながわの考古学』かながわ考古学財団
- 2003「宮ノ台式土器の研究(2)」「研究紀要8 かながわの考古学』かながわ考古学財団
- 2004「宮ノ台式土器の研究(3)」「研究紀要9 かながわの考古学』かながわ考古学財団

挿図の引用文献

- 戸室子ノ神 望月幹夫・山田不二郎はか 1978『子ノ神－厚木市戸室所在子ノ神遺跡の調査』厚木市教育委員会
1983『子ノ神(Ⅱ)』厚木市教育委員会
- 手広八反目 水井正憲はか 1984『手広八反目遺跡発掘調査報告書』手広遺跡発掘調査団
- 山神下 滝澤 亮はか 1989『山神下遺跡』山神下遺跡発掘調査団
- 大金南御門A地点 河野真知郎1981「鎌倉市雪ノ下・南御門遺跡」『第5回神奈川県遺跡調査・研究発表会 発表要旨』
同発表会準備委員会
及川良彦1987「弥生土器の移動と地域性－鎌倉出土の弥生土器を中心として－」『青山考古』第5
号 青山考古学会
- 折本西原 石井 寛・倉沢和子 1980『折本西原遺跡』横浜市埋蔵文化財調査委員会
- 砂田台 宮戸信悟・上本進二 1989『砂田台遺跡Ⅰ』神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告20
宍戸信悟・谷口 肇 1991『砂田台遺跡Ⅱ』神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告20
- 下寺尾西方A 大村浩司 1988『下寺尾西方A遺跡』茅ヶ崎市埋蔵文化財調査報告1 茅ヶ崎市埋蔵文化財調査会
- 羽根尾壁ノ上 杉山幾一はか 1986『羽根尾壁ノ上遺跡』小田原市文化財調査報告書第19集
- 新羽大竹 上田 薫・岡本孝之 1980『新羽大竹遺跡』神奈川県埋蔵文化財調査報告17 神奈川県教育委員会
- 真田・北金目19区 河合英夫はか 2003『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書4』平塚市真田・北金目遺跡調査会

奈良・平安時代の宮ヶ瀬遺跡群の研究Ⅲ

奈良・平安時代研究プロジェクトチーム

(5) 宮ヶ瀬遺跡群の仏堂と周辺地域の仏教文化

はじめに

古代の宮ヶ瀬集落の一角には仏堂と推定される礎石建物が発見された。その内容を概説し、集落との関わりと県西北部の周辺地域の仏教文化の影響などを考察したい。

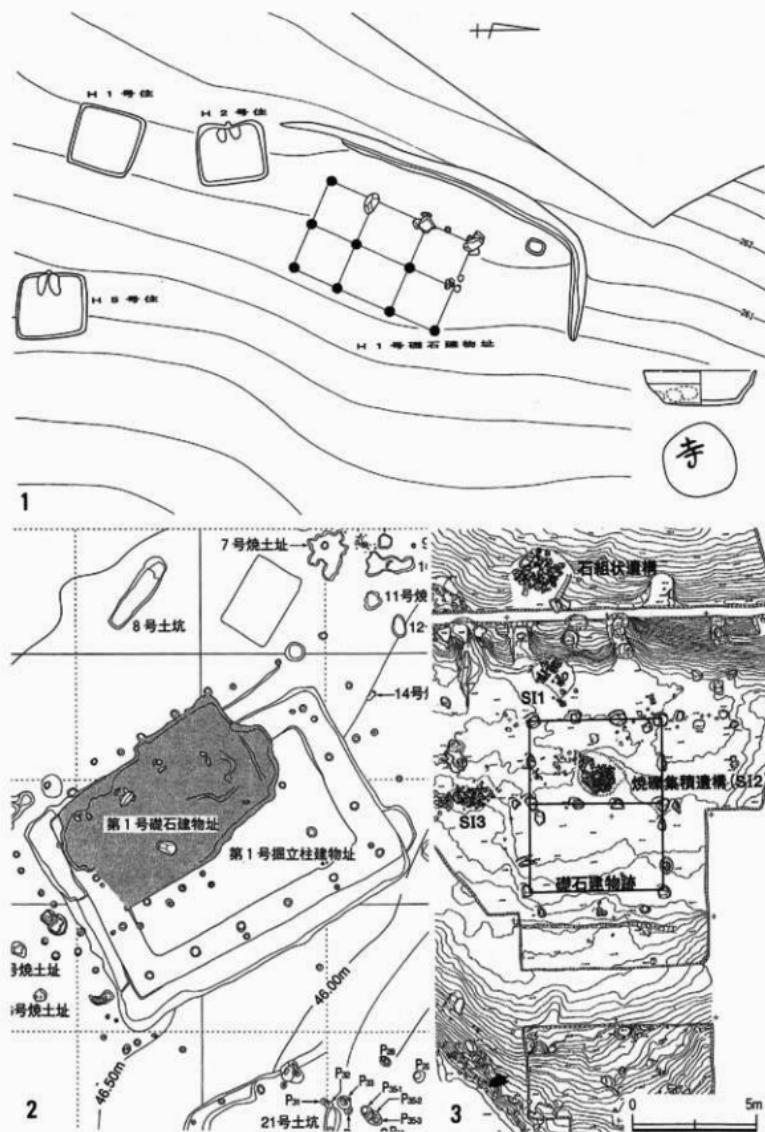
礎石建物と宮ヶ瀬遺跡群の集落

礎石建物が検出されたのは宮ヶ瀬の最大の台地で古代集落の中心がある馬場・北原地区の南西端である。山裾が台地に変わりつつある傾斜地に位置し、傾斜地をカットして小さな平坦地をつくり（以下平坦地を段切りと称する）、その上に構築している（第1図）。

礎石建物のある段切りは残存部で南北約12m×東西5mの小さなもので、東側に古代集落を見下ろすやや小高い立地になる。集落との比高差は5~15mほどである。北側と西側は約1mのほどの高さの切り落とした段で、段下には排水溝が巡っている。東側は本来なら段切り平坦地からゆるやかに傾斜したはずだが、江戸時代に大きくカットされて現況では垂直に近い段となっている。礎石建物と段切り平坦地は江戸時代の造成で半分近く失われたと考えられる。段切りは堅穴住居と同じような覆土で埋没していた。礎石建物は遺存は良くないが、それでも3基の礎石と1基の根石群があり、小さな石なのに動かなかったのは早くから段切りが埋没したせいだろう。基壇はなく、地山直上に近い。礎石はいずれも西列の礎石で2基は根石の上に据えられている。礎石は50~80cmの大きさで、段切り地山上に厚さ10cm程度、客土を入れて整地しているが、根石はその土で固定されたと推定される。ただし、客土は版築のように固められた形跡はあまりなかった。遺物は建物周囲の地山近くで大型の釘5本と灯明皿転用の土師器壺が出土した。釘は長いもので16cmを越え、宮ヶ瀬遺跡群ではほとんど例のない製品である。土師器壺は平坦地北東炭隅のビット状の土坑または墓壇のすぐ近くで完形で見つかり、段切りの地山の直上だった。土師器壺は九世紀中頃のものである。礎石建物は現況では2間×1間しかわからないが、段切りの大きさから南北3間×東西2間に復元されている。宮ヶ瀬遺跡群で古代の礎石建物は本例だけである。

調査当初はなぜ礎石建物があるのか、造構の性格に首を傾げたが、近隣の堅穴住居と土坑から「寺」墨書き土器二点が出土し、周辺遺構に灯明皿転用の土師器・須恵器が極端に多いこと、転用硯が南隣のH1号堅穴住居から出土したことなどから仏堂と判断した。また段切り南の斜面に堅穴住居があるが、ほぼ同時期の堅穴住居であり、H1号堅穴住居からは前述のとおり転用硯が床直に、H5号堅穴住居からは「寺」墨書きの土師器壺がカマド崩壊土から発見された。少し下れば台地が広がっているのにわざわざ仏堂と同じ斜面を占地していることから、この二軒の堅穴住居は寺の関連施設の可能性がある。これらの出土品の年代から仏堂は九世紀前半に成立し、九世紀後半から末頃廃絶したと推定される。

この仏堂は景観の点から集落よりやや高い位置に建てられたと考えられ、同時期の古代集落を見下ろし、村の守りとして集落構成員を安心させる意味があったのだろう。また神聖なものを高く置くという意味もあっただろう。同時期の集落（馬場・北原地区のみ）については8章の「集落の特性」で示されたように3~

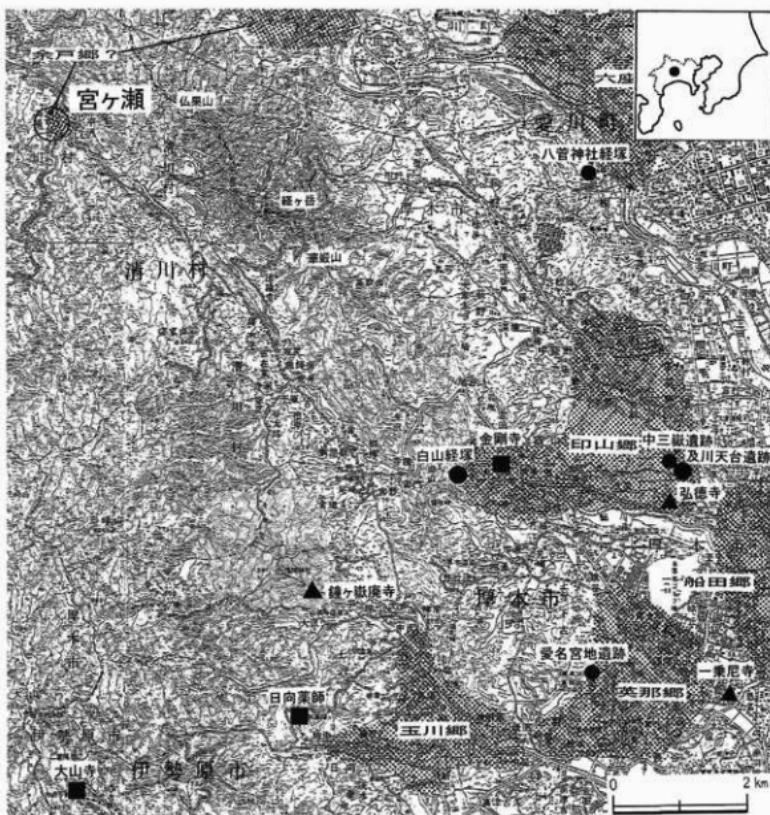


第1図 宮ヶ瀬遺跡群仏堂施設復元図（1）と厚木市愛名宮地遺跡の仏堂（2）、岐阜県藤橋村寺屋敷遺跡仏堂（3）
※いずれも縮尺1/200 遺物は1/4

6軒の堅穴住居で変遷しており、集落としては規模が小さい。

九世紀の東国集落の中で、仏堂施設が一般的だとは言えず、むしろ少ない事例だろう。このような東国集落内の仏堂施設は、千葉県に多く検出され、「村落内寺院」と称して、二十年ほど前に研究が始まった（須田勉1985、房総風土記の丘1991）。その後、笠生衛氏らによりさらに類型化されて、ムラの中の比較的大きな寺、小さな堂、修行場、山林寺院など性格差があることが指摘されている。関東の他地域についても須田亜紀氏らや須田勉氏、富永樹之、大坪宣雄氏、橋本澄朗氏、田中広明氏、宮滝文二氏らにより集成・考察が行われているが、一般的にこれらの仏堂施設は、①本格的寺院と異なり、本格的伽藍配置や寺域を画する大構などをもたず、瓦屋根は皆無または部分的で、掘立柱建物のケースが多い②千葉県に多く集中し、郷内にも複数の仏堂施設が建つほどであるが、他県に関してはそんなには発見されない③ほとんどの例が9世紀～10世紀前半に建立・維持が確認されるが、それ以降は、廃絶する場合が多い、とまとめられる。礎石建物については類例が少ないと、確認されており、礎石は本格的な古代寺院と比較してかなり小さいといえる。岐阜県藤橋村の寺屋敷遺跡には山村の斜面の平場に礎石建物があり（第1図）、立地、形態共に宮ヶ瀬例とよく似ている。仏像の螺髮や多口瓶、多数の大型釘などが出土しており、仏堂であることは間違いない。

宮ヶ瀬周辺地域には古代の仏教関連の遺跡、史跡、寺院はかなり多い。特に宮ヶ瀬遺跡群から南の厚木市、伊勢原市、愛川町に多く、北の津久井町にはほとんどない。第2図にまとめたが、■は現在も存続の寺院、▲は古代瓦散布地（廃寺）、●は仏教関連遺跡（仏堂施設、經塚など）とした。宮ヶ瀬の南、約10キロの伊勢原市にあるのは阿夫利神社の別当寺の大山寺である。『吾妻鏡』にも記載があり、平安時代末期の經塚も確認されている。阿夫利神社は『延喜式』に記載があり、大山寺も平安時代前期まではさかのぼると考えられる。同じく伊勢原市の日向にある宝城坊は日向薬師として知られた山岳寺院である。平安時代中期の歌人相模の歌に日向薬師のことが歌われており、平安時代の仏像も4体残している。厚木市の七沢には鐘ヶ嶽廃寺が存在する。標高561mの鐘ヶ嶽は丹沢山地の東側に当たり、その中腹、標高350mあたりの平場で多量の平安時代の瓦が採集されており、軒丸瓦や角釘も含まれている。これも密教や山岳信仰に関わる山岳寺院と推定され、さらには登った山頂部には、磐座も存在する。この山は、現在も修験道の巡礼道にあたる。宮ヶ瀬の南東の厚木市飯山には、金剛寺がある。平安時代の本尊をもち、「吾妻鏡」に記述がある。すぐ近くの白山からは平安時代末期の經塚が発見されている。飯山の隣の及川では布目瓦の散布地である弘徳寺境内があり、すぐ北の及川天台遺跡からは堅穴住居出土の9世紀代の土師器壺に「寺」墨書きが確認されている。さらにやや北の中三嶽遺跡からは堅穴住居床から灯明皿に転用した20点近くの土師器・須恵器壺が完形で出土した。厚木市愛名の宮地遺跡では布堀りの大型建物が当初作られた後、基壇の礎石建物に作り替えられており、共に仏堂施設と推定されている。瓦塔が數十点、仏鉢形土器、多数の灯明皿、「寺」墨書き土器などが出土し、8世紀後半から9世紀後半までの存続が予想される。谷戸の平坦地に立地し、周間に集落も確認されておらず、修行場的な性格もありうる。また厚木市尼寺原の台地では布目瓦や軒丸瓦を出土した地点があり、かつては礎石も確認されたという。現在は完全に工場建設により消滅したが一乘尼庵寺と仮称される。宮ヶ瀬から東の愛川町には修験道の拠点であり、境内の經塚群から大量の平安時代末期の經塚壺が出土した八管神社がある。また宮ヶ瀬の東には「仏果山」「経ヶ岳」「華嚴山」などの山が連なるが、これらの仏教に関わる山名は修験道の巡礼ルートに因る。この付近の修験道の道のりは様々だが、これらの峰と共に先ほどから触れた八管神社や厚木市の白山、鐘ヶ嶽、伊勢原の日向薬師、大山寺は通過点であったことは知られている。宮ヶ瀬もそのルートにのっている可能性があり、それがもし古代にさかのぼるのなら、多くの修行者が立ち寄



第2図 宮ヶ瀬遺跡群周辺の古代佛教関連遺跡・史跡（トーンは古代の都推定範囲）

ったはずである。

このように周辺の古代佛教関連の史跡・遺跡を見てみると、半数以上が山岳信仰に関わるものである。つまり平安時代に丹沢の南西部は山岳信仰や修驗道に関連して佛教・密教が盛んな地域だったといえる。宮ヶ瀬のようなあまり人口も少ない山村になぜ仏堂施設があったかこのことが深く関わっていると推定される。すなわち、修行者や私度僧の影響で宮ヶ瀬のムラの人々は早くから佛教を信仰し、村人の信仰の場と修業者の立ち寄りの場として仏堂を建立したと推定される。その建立には教団・修行者やその庇護者の協力・援助もあった可能性がある。同じ頃、相模の平野部の集落ではまだ仏堂を持つ例はまれである。それは集落の規模に左右されるわけではなく、むしろ教団や修行者の影響が少なかったせいであろう。千葉県に他地域と比較して異常に仏堂施設の多いのも佛教教団や私度僧、修行者の活動が盛んで、権力者の庇護も強かつたのであろう。

※紙面の都合上参考文献はカットさせていただいた。

(富永樹之)

(6) 宮ヶ瀬遺跡群検出遺構について

はじめに

宮ヶ瀬遺跡群における古代の遺構分布密度は決して高いとはいえない。山間地であることがその大きな理由の1つであろうと容易に想像がつく。当遺跡群から検出された遺構は堅穴住居址、掘立柱建物址、礎石建物址、堅穴状遺構、焼土址、溝状遺構、土坑である。ここでは竈を持ちながら炉を設ける堅穴住居址について触れてみたい。

炉址の概観と位置づけ

宮ヶ瀬遺跡群からは奈良・平安時代に属する堅穴住居址が62軒検出されている。そのうち竈を持ちながら炉を設ける堅穴住居址が13軒あることが判明している。発掘当初からその存在が注視され、用途あるいは機能について考察されている。昭和60年から調査が開始された落合地区のナラサス遺跡では6軒の堅穴住居址の内、3軒から炉址が検出されている。H3号住居址からは床面中央とやや東よりに8cm程掘り込んだ70×40cm、40×35cmの楕円形を呈する2基、H5号住居址中央部から66×43cm、47×32cmの大小2つの炉址が検出された。H6号住居址からは35×20cmの浅い掘り込みが検出されている。報告では炉址について「宮ヶ瀬は現在でも冬場においては寒さの厳しい地域として知られており、住居址内の暖をとるための施設として機能していたととらえる」としている。宮ヶ瀬地区の馬場(No.3)遺跡では比較的大型のH3号堅穴住居址から4基検出されている。近世や平安時代の土坑に壊されていない2基のうち炉址1は68×46cm、深さ10cm、炉址3は80×53cm、深さは13cmの楕円形である。他の2基も同程度の規模であろう。その用途は「寒冷地のため、保温暖和目的とした遺構」としている。しかしながらそれだけでは62軒中13軒が炉を持ち、それ以外の多くの住居址に炉がないことが説明されないのでないだろうか。簡単に構築できる炉を設げず、寒さに耐えていた証はあるまい。

また、宮ヶ瀬地区馬場(No.6)遺跡ではH3号住居址の床面中央部から炉址が検出されている。宮ヶ瀬遺跡群の他遺跡において見発された事例と比較して「かかる炉の構築が時期的な偏りを見せるものではなく、かなり長期にわたってその存在が意識され続けていたものと理解される」と報告している。そして「その保有の差異が果たして何に起因するかは問題を残すところである」ことも指摘している。北原(No.10)遺跡でも7軒中6軒の住居址で炉址が検出されている。H1号堅穴住居址の炉は床面ほぼ中央に42×25cm、深さ6cmの楕円形を呈する。H2号堅穴住居址では中央やや南西寄りに89×49cm、深さ14cmの楕円形、H3号堅穴住居址では南東部に50×40cm深さ4~7cmの不整形の炉址が検出された。H5号堅穴住居址の炉址は中央部に設置されているが北側を中・近世の長方形土坑に壊されている。長軸が152cm、短軸は推定で100cm前後の楕円形で深さは25cmある。純焼土も13cmの厚さで堆積している。H6号堅穴住居址では床面中央や北西寄りに86×75cm、深さ3~7cmの楕円形の炉が検出された。H7号堅穴住居址は床面が上・中・下位の3面あり、炉址はそのうち上位の床面で検出された。57×15cmの不整形楕円形を呈し深さは2~3cmである。9世紀前半のH6号堅穴住居址を含むことから「炉の設置に時間的隔たりのない」ことを指摘している。実際に炉址が検出した宮ヶ瀬遺跡群の堅穴住居址の時期は出土遺物から9世紀前半から11世紀前半までとなり長期にわたっている。これにより単に一時的な流行ではなかったことが証明されている。

このほか表の屋敷(No.8)遺跡でもH11号堅穴住居址から炉址が検出されている。炉址は上端部で82×71cm、深さ16cmと大型で不整の長方形もしくは楕円形を呈している。南面には比較的大きな礎を横向きに立てた状態で埋設していた。遺跡群の他遺跡から検出された炉址との形状比較と、搅乱が多く竈が検出され

ていないのは構築されなかった可能性があるとし「むしろ囲炉裏に近い様態を示す」と考え、類例の増加を待ちたいとしている。

炉を必要とする生産活動

これら暖をとる施設や構築時期の問題について中田英氏は中津川下流域の愛川町半原にある半原屈中原遺跡との関係に視点を置いて言及している。それは宮ヶ瀬遺跡群の人々が「嚴冬期には半原屈中原遺跡へ下りて暮らす」とする考え方である（中田2000）。この場合あまり使い込まれていない炉や、少数の住居址のみ炉を使用していることも納得できるとしている。つまり炉の機能を「暖をとるための施設」として捉えて、嚴冬期の移動までの間に臨時に使用したとするものである。しかし嚴冬期に半原地区に移動したという明確な証拠が見つかっているわけではない。可能性がないと断言はできないが、ほかにも何らかの炉を必要とする理由があったのではないかと考えてみたい。

この時代の炉を設ける竪穴住居（建物）址に鍛冶関連の遺構があることは広く知られている。しかしそれらの遺構には鉄滓など間違遺物が出土する。また、工房址として独立し、窯を持たない場合も多い。宮ヶ瀬遺跡群から検出された竪穴住居址の場合は「窯+炉」である。鍛冶関連遺物に関しては遺跡群全体をみても極めて少ない。その点で鍛冶関連遺構ではないと判断せざるを得ない。では「窯+炉」はなんであろうか。表の屋敷（No.8）遺跡で指摘された囲炉裏の可能性も否定できないが、この時代の一般的な調理施設は窯である。炉の機能を「暖をとるための施設」以外で調理と切り離して考えた場合は、別の何らかの手工業生産と関連すると考えるのが妥当ではないだろうか。深澤靖幸氏は「武藏国府における手工業生産」のなかで鍛冶炉について考察する中で、鍛冶以外にも炉を必要とする手工業生産があったことを想定している（深澤2003）。深澤氏は熱処理技術に伴う冷間鍛造技術（いわゆる鍛金）や、膠の採取、漆の精製、金属製品への漆の固着などが想定されるとしている。膠や漆について言えば当時の生活に寄着していた消費財であろう。膠は動物や魚類の皮・骨などに含まれるコラーゲンを加工したもので、原始的な接着剤である。漆も接着剤や装飾用として古くから使用してきた。このほかにも草本類から纖維を取り出す事が行われたかもしれない。繭から糸を織る作業も想定できよう。

まとめ

律令に調を調達するため各戸に漆と桑を植えることが奨励されていた。漆製品・生漆・絹織物・糸・真綿などの生産技術が山間地にも及んでいた可能性はある。実際に原料となる樹木も、生産された絹や綿も遺跡から発見されることは大変難しい。もちろん宮ヶ瀬遺跡群から出土しているわけではない。しかしこれらが実際に集落の中で生産されていた可能性は高いと考えられる。痕跡が残りにくいこれら手工業生産作業の、唯一の痕跡が、この炉址ではないだろうか。使い込まれていないのは季節労働的な要素のため、複数の炉が検出されたのは違う時期（年）に新たに構築し直しているためと理解することも可能であろう。また、租税だけでなく日々の衣食住、特に衣料に関する事、接着剤などの道具類の生産に関わる生活に寄着した遺構の可能性はないだろうか。山間集落における生産活動を考える上では、周囲の自然環境が与える影響が大きいのは確かである。それらを生かした生産活動を想定するには、この窯を持ちながら炉を設ける竪穴住居址が果たす役割が鍵になると考えたい。また今後、類似事例が調査された場合はその裏付けとなる遺物の検出に細心の注意を払うと共に、炉・窯堆積物の土壤分析による対比なども解明の一助となるであろう。

（加藤久美）



第3図 「道+路」の竪穴住居址 (1/60)



第4図 炉址 (1/40)

参考・引用文献

- 中田 英 2000 「炉を設けた竈をもつ堅穴住居址について」『山梨県考古学協会誌』第11号
 深澤靖幸 2003 「武藏国府における手工業生産」『府中市郷土の森博物館紀要』第16号
 伊藤智夫 1992 「朝I」法政大学出版局
 福田健司 1986 「南武藏における平安時代後期の土器群—11世紀代の土器群—」『神奈川考古』第21号

(7) 「かながわ出土品データベース」から見た宮ヶ瀬遺跡群

はじめに

これまで2年間にわたり、奈良・平安研究プロジェクトチームでは、宮ヶ瀬遺跡群に関する遺跡概要のまとめと、出土土器・陶器の組成と特色及び時代区分と様相について発表してきた。今年はそれらを踏まえつつ少し違う視点も取り入れ「かながわ出土品データベース」のなかの「報告書図版データベース」と一昨年に行った遺跡概要のまとめをもとに検証を進めてみたい。

「報告書図版データベース」とは、財團法人かながわ考古学財団及び神奈川県教育委員会、県立埋蔵文化財センターが手がけた約400の発掘調査により出土した遺物についてその管理と活用のため各報告書の挿図(写真・拓本)を抽出し、そのすべてを対象にして、1999年より継続して作成されているもので2004年9月30日現在、約25万件の出土遺物のデータが蓄積されている。また各出土遺物について、それぞれ約40の項目(遺跡名・時代・器種・形式・出土場所など)が入力されており、挿図や写真などの画像も埋め込んであるのでその出土品を瞬時に確認できるものとなっている。さらにこの「報告書図版データベース」と他のデータベース(整理箱データベース、一括管理遺物データベース、出土品データベースetc)…これらを総称して「かながわ出土品データベース」と呼ぶ…をリンクさせることにより出土遺物が今どのようなところに収蔵されているか、あるいは貸し出されているなどの管理・活用も行うことができ、遺物の管理を効率的に行うことが可能になり、埋蔵文化財活用のための基盤整備の一翼を担ってきた。つまり遺物の住所録といえるのである。なお原則としてこのデータベースに載っている遺物は、県立埋蔵文化センターに収蔵されている。(＊「かながわ出土品データベース」は「桐」というソフトを用いて作成している。＊＊報告遺物以外でも特に重要と思われる遺物に関してはデータベースにのせている。また本文中にも述べたようにこのデータベースはあくまで県立埋蔵センターに収蔵されている出土品を対象にしており、神奈川県内の出土品のすべてを網羅するものではないという点に留意されたい。つまり神奈川県及びかながわ考古学財団が手がけた発掘調査を主体としており民間調査団や市町村の発掘調査に関しては一部を除きデータ入力をしていない点に注意してほしい。)

データベース上における宮ヶ瀬遺跡の器種の特徴(その1…土製品)

それでは、まず宮ヶ瀬遺跡群の奈良・平安時代の出土品にかんするデータを(表I)にのせる。これをもとにデータベースに収められている奈良・平安時代の遺跡と比較検討してみたい。また前回までは土器に注目してきたので、今回は土器以外に焦点をあててみようと思う。(もちろん土器に関しても多少は言及するが。)比較の一例として昨年の木村論考でも比較した草山遺跡を載せる(表II)。また当麻遺跡、田名稻荷山遺跡など相模川水系の他遺跡に関してデータベースを用いて調べた。その結果、器種に関していうと特に大きな差はみられなかったが、もう少し掘り下げてみようと思う。あわせて「かながわ出土品データベース」に含まれている古代関連のデータを器種ごとに何点報告されたかも載せた(表III)。古代に関して現在報告されている遺物の総数は約3万3千件弱で、これは全時代報告遺物の13%にある。さて、この中で注目に値するものとしてまず土製品をみてみよう。宮ヶ瀬遺跡群で発掘された遺物の中でデータベース上、土製品に分類されたものはすべて土鍤である。土鍤は当然ながら漁道具であり、そしてそれが宮ヶ瀬という内陸部の山村にもみられることは何を意味するのだろうか。また、これは相模川流域全体の傾向を意味するのだろうか。このような点をまず考察してみたい。古来相模川(上流の山梨県では桂川)は交通の動脈としての機能を果たしてきた。江戸時代には河口から山梨県の猿橋まで船でさかのぼれたという。また津久井湖あたりか

らも半日から4時間程度で平塚まで下れ、風が順風なら半日でさかのぼれた。ただし、さかのぼるのには3~4日かかるのが、通例であったようだが。今日思う以上に川は交通の要衝であった。このような点から宮ヶ瀬遺跡群を考察してみるとまた違った面も見えてこよう。データベース上に記録されている土器の発掘された遺跡とその数について(表IV)に載せる。総計で505例になるがこれは古代の報告遺物の1.5%になる。そして相模川流域の遺跡に出土例が多く見られる。そのなかでも宮久保遺跡の報告数は桁違いで347例を数える。その他の遺跡に関してはほとんど数例から十数例にとどまる。そうした中、宮ヶ瀬遺跡群の報告数は17とかなり多いがこれは宮ヶ瀬遺跡群の古代に関する報告数の1.6%を占める。特徴がないようだがデータベースにおける全報告数から宮久保遺跡(宮久保遺跡の全報告数5404件中347件が土器…6.4%)の分を除くと土器の報告数は、総数の0.5%弱を占めるに過ぎない。それを勘案すると宮ヶ瀬遺跡群の報告数は他遺跡に比較してかなり多いと言えるのである。これは何を物語っているのだろうか。宮ヶ瀬のような山間地では耕地の確保は至難であり住居址も中津川の浸食作用により形成された段丘崖(斜面)の上下の際に多くみられ、中津川に流れ込む小さな沢沿いに存在することから、生活用水を確保するとともに土器等をも置いて漁撈もおこない、川魚等も利用していた証といえよう。山林を利用するのほか、利用できるものはすべて利用するというライフスタイルであったのだろう。つまり生活の厳しさの現れであったのだ。

また前年の木村論考での甲斐型土器に関する報告や、住居跡のかまどの仕様についての報告を参考にして宮ヶ瀬遺跡群と甲斐の国の関係について考察すると、陸路水路とともに甲斐からの直接的な接触が認められるところが、これに関してもやはり河川(相模川水系)が重大な役割を果たしていたと言えよう。

(表I) 宮ヶ瀬の種別

| 種別 | 件数 |
|------|------|
| 灰釉陶器 | 23 |
| 須恵器 | 269 |
| 土師器 | 595 |
| 鉄製品 | 68 |
| 木製品 | 1 |
| 銭貨 | 1 |
| 鐵滓 | 1 |
| 石製品 | 37 |
| 土製品 | 17 |
| 種子 | 6 |
| 合計 | 1018 |

(表II) 草山遺跡の種別

| 種別 | 件数 |
|------|------|
| 灰釉陶器 | 129 |
| 須恵器 | 539 |
| 土師器 | 2493 |
| 綠釉陶器 | 8 |
| 鉄製品 | 298 |
| 木製品 | 1 |
| 銭貨 | 2 |
| 鐵滓 | 12 |
| 石製品 | 118 |
| 土製品 | 2 |
| 瓦 | 1 |
| 石器 | 2 |
| 骨角製品 | 1 |
| 合計 | 3610 |

(表III) データベースの古代における種別報告数

| 種別 | 件数 | 種別 | 件数 |
|------|-------|----------|-------|
| 灰釉陶器 | 1501 | 金銅製品 | 5 |
| 須恵器 | 8245 | 人骨・獸骨類 | 56 |
| 土師器 | 18330 | 種子 | 75 |
| 綠釉陶器 | 153 | ガラス製品 | 7 |
| 鉄製品 | 2101 | 銅製品 | 41 |
| 木製品 | 599 | 銅滓 | 3 |
| 銭貨 | 8 | 土師質土器 | 406 |
| 鐵滓 | 20 | 陶器 | 29 |
| 石製品 | 635 | 磁器 | 63 |
| 土製品 | 734 | 土器など | 34 |
| 瓦 | 234 | 須恵質土器 | 53 |
| 石器 | 150 | その他(石・貝) | 4 |
| 骨角製品 | 17 | 炻器 | 34 |
| 金属製品 | 4 | 合計 | 32731 |

データベース上における宮ヶ瀬遺跡の器種の特徴(その2…金属製品)

さて次に金属製品について考察してみたい。宮ヶ瀬遺跡群の金属製品(鉄滓を含む)の古代における発掘報告例は70例(槍鉤、火打金、鎌、短刀、鐵鎌、刀子、短刀、紡錘車、その他)である。(表V)これは、古代宮ヶ瀬遺跡群の全体報告(1018)の6.9%にあたる。宮ヶ瀬遺跡群で特徴的なものは、金属製品の報告に関していえば、そのほとんどすべてが鉄製品で銅製品は銭貨(元豊通宝=北宋錢)を除くとまったく報告されていない点にある。ただ鉄製品に関していえば、かなりの器種がそろっているのでそう見劣りしないように見える。「かながわ出土品データベース」における古代の報告数全体では金属製品の報告は2179例で古代

遺物報告数の6.5%を占めている。…表Ⅲ（その内訳を簡単に示すと、銭貨8、槍鉋9、円環8、火打ち金9、鎌80、鍔鉋8、鎌9、釘339斧8、鉄鍔234、刀子511、紡錘車40、鏡17、鑿25、鉄滓20、不明362、その他492となっている。）

これは宮ヶ瀬遺跡群の器種割合とほぼ同じである。ただし金銅製品やガラス製品など高級感のある製品は宮ヶ瀬にはまったく出土せず実用本位であった。ただ、鉄製品は当然のことながら当時においては貴重なものであったため、出土数に関してあまりこだわらないほうがよいという見解がある。それは、鉄製品は鉄なおせば何度でも使えるということである。したがって鉄器を捨ててしまうということはめったになかった考え方されるのだ。村落が放棄されるにあたり持ち去ったであろうし、また廃棄したとしても1000年以上も鉄製品が地中に残るというのは相当な幸運であろう。したがって、発見された鉄製品は当時使用していた量のはんの一部を示すものでしかないといえるからである。だから鉄製品のみに焦点を当てるのではなく鉄製品に関係する他の製品、あるいは鉄製品を使用したと思わせる遺物、たとえば、砥石や櫛の羽口などにも注意したい。以上述べたように鉄製品に関しては個数のみにこだわると思わぬ落とし穴にはまる恐れ無くにしも非ずの感がある。そこで関連する石製品や鉄製品の器種に注目していきたい。宮ヶ瀬遺跡群における砥石の報告数は24件で古代の出土品の総数の2.3%にある。そしてそれは、遺跡全体に存在している。これは鉄製品がかなり普及し生産の主力を担っていたということだろう。また鉄滓の存在は小鍛冶があったことをうかがわせる。ではデータベース全体ではどうだろうか。古代に関して砥石の報告例をあげると359件で1.1%に相当する。また櫛の羽口に関しては宮ヶ瀬には報告例がない。データベース全体には106件の報告例がある。さてこれら宮ヶ瀬における金属製品等の器種からどんな生活が予想されるだろうか、検証してみよう。宮ヶ瀬遺跡群の金属器の器種で言えることは装飾品、あるいは高級品がほとんど出土していないという点である。すべてが生産に関する器種であるといえる。このことは土鍤のところでも述べたが生活がかなり厳しい状況下で行われていたことを想像させる。ではデータベース上に報告されている他の遺跡の金属製品にはどんなものがあるだろうか、もう少し詳しく比較してみよう。他の遺跡では、帯び金具・簪・耳環・銅状鉄製品・鉄製小壺・鑿・鎌・銅鏡・鍾なども報告されておりこれらは、宮ヶ瀬遺跡群では報告がなされていない。これも宮ヶ瀬遺跡群のひとつの特色といえよう。

まとめ

以上述べたような点から宮ヶ瀬遺跡群の存立やその特徴について次のように考えてみた。すなわち、律令体制にはころびの出た9世紀に突如出現したと思われるところからおそらくこのころの開発ブームのなかで、山間の宮ヶ瀬にもフロンティアの波が押し寄せてきたのだろう。そしてこのような山村にしては生産のためのいろいろな器種がそろっており、技術的に当時のなかではそれなりのものを保持していたと認められる。しかし、その一方で高級品は土器を含めてほとんど存在しない点から生産のための技術にはそれなりの物を持っていたにもかかわらず文化的生活という面では余裕がなかったということになろう。そのため、10世紀中ごろ開発ブームが去り社会の変化がおこると（このころ律令体制の崩壊が顕著となり全国的に見ても国衙・郡衙の遺構の存続が確認できず消滅した例がほとんどである）。またいわゆる、律令国家から王朝国家への移行期と重なる）、他の南関東の古代集落と機を一にして潮の引くがごとく、宮ヶ瀬に集落が見られなくなることにつながるのだろう。労働力が貴重だった当時のこと、おそらくもっと条件のよい土地へと移住した、あるいは移住させられたと考えるのが自然であろう。

さて今回的小稿のテーマは、宮ヶ瀬遺跡群の神奈川県古代史における位置付けを目指したものの一環では

あるが、むしろデータベース活用の一例と捕らえていただきたい。今回は紙幅の関係で多くのデータを表として載せられず残念である。無論データベースは、県内全遺跡を網羅したものではないが統計学的に考察すれば、ある遺跡の傾向だけでなく、県内の遺跡の傾向や他の遺跡との比較が短時間で行え、その精度にはある程度の信頼が置けるといえよう。特に一遺跡の報告書のみを扱う場合でなく、大括りに複数の遺跡や時代を同時に扱おうとするときに大いに威力を発揮するといえる。また、出土遺物の器種や種別について多数の遺跡にあたるときなどはデータベースのメリットが、生きる展開といえるのである。そのことを踏まえ今回は、土錐と金属製品に焦点を当ててみた。特に土錐に関してはなかなか興味深い結果になった。データベース上、相模湾・東京湾沿岸の遺跡以上に相模川・金目川流域に営まれた遺跡群に多く出土が認められるからである。(表IV) これは古代における河川とのかかわりについて重大な示唆を与えていたといえそうである。今後の研究に期待したい。

(表IV) 古代における土錐出土報告数

| | | | |
|----------------|-----|-----------------|-----|
| 下大槻峯遺跡（秦野市） | 2 | 草山遺跡（秦野市） | 1 |
| 宮ヶ瀬遺跡群（清川村） | 17 | 池子遺跡群（逗子市） | 21 |
| 宮久保遺跡（綾瀬市） | 347 | 中里遺跡（秦野市） | 2 |
| 御厨敷添遺跡（厚木市） | 6 | 坪ノ内宮ノ前遺跡（伊勢原市） | 1 |
| 国分尼寺北方遺跡（海老名市） | 1 | 天神谷戸遺跡（二宮町） | 1 |
| 三ツ俣遺跡（小田原市） | 23 | 田名稻荷山遺跡（相模原市） | 2 |
| 三ヶ岡遺跡（葉山町） | 2 | 東耕地遺跡（横浜市） | 1 |
| 上ノ町遺跡（茅ヶ崎市） | 1 | 東當岡北三間通遺跡（伊勢原市） | 10 |
| 上柏屋川上遺跡（伊勢原市） | 1 | 当麻遺跡（相模原市） | 1 |
| 上浜田遺跡（海老名市） | 2 | 鳩尾遺跡（厚木市） | 2 |
| 神明久保遺跡（平塚市） | 8 | 受地だいやま遺跡（横浜市） | 36 |
| 大地開戸遺跡（津久井町） | 1 | 白幡浦島丘遺跡（横浜市） | 5 |
| 千葉地東遺跡（鎌倉市） | 1 | 半原屈中原遺跡（愛川町） | 6 |
| 川尻中村遺跡（城山町） | 1 | 仏向町遺跡（横浜市） | 3 |
| 総計 | | | 505 |

(表V) 宮ヶ瀬の金属製品の器種

| 器種 | 報告数 | 備考 |
|--------|-----|------|
| 銭貨 | 1 | 元豐通宝 |
| 槍鎗 | 3 | |
| 槍鎗状鉄製品 | 1 | |
| 円盤状鉄製品 | 1 | |
| 火打金 | 2 | |
| 鎌 | 1 | |
| 銅鏡 | 1 | |
| 刀子 | 22 | |
| 短刀 | 1 | |
| 釘 | 9 | |
| 鉄鎌 | 19 | |
| 板状鉄製品 | 1 | |
| 棒状鉄製品 | 4 | |
| 紡錘車 | 3 | |
| 鉄滓 | 1 | |
| 総計 | 70 | |

最後にこの小稿を書くにあたり多くの方々にご教授、ご協力いただいた。その中でも河野喜映、富永樹之、加藤久美、吉村美知子、鈴木彩子の諸氏には特にお世話になった。御札を申し上げる。
(小林耕一)

参考文献（主なもの）

- 鬼頭清明 1986 「古代日本を発掘する」 6 古代の村 岩波書店
- 神奈川県高校地理部会編 1989 「かながわの川 上、下」 神奈川新聞社
- 窟田龍郎 1981 考古学選書9 「改訂鉄の考古学」 雄山閣出版
- 「清川の伝承」 1988 清川村教育委員会
- 物質文化研究会 2003 物質文化 考古学民俗学研究(76)
- 東京工業大学製鉄史研究会 1985 「古代日本の鉄と社会」 平凡社選書78
- かながわ考古学財団 1998 「先人たちの軌跡」 -宮ヶ瀬遺跡群発掘調査の記録-
- 富永樹之 2004 「十・十一世紀の南関東-集落・官衙・寺院・土器の変遷-」 中世東国世界2 南関東 高志書店
- 森 浩一 1983 日本民俗文化大系3 「縄と鉄」 =さまざまな王権の基盤= 小学館
- 小林 昌二 2000 「日本古代の村落と農民支配」 填書房

(8) 宮ヶ瀬遺跡群の集落の特性

はじめに

丹沢山地の懷に抱かれた古代の宮ヶ瀬遺跡群は、一見したところ県内各地の古代集落とさして違わない外観をみせる。しかし、事象の微細な点に注意深い目を向けると、台地上、低地部に存在する通有の古代集落とは異なる実相がみえてくるようにも思える。ここでは主要施設の堅穴建物とその付属施設の一つである炉に着眼して、宮ヶ瀬遺跡群の集落の一面向を述べてみたい。

宮ヶ瀬遺跡群の概観

宮ヶ瀬遺跡群は、約1.5kmの距離をおき南の宮ヶ瀬地区の6遺跡、北の落合地区の7遺跡を合わせた13遺跡からなる。宮ヶ瀬地区では

川弟川東岸に所在する上村遺跡を除く北原、表の屋敷、馬場、南、久保ノ坂の各遺跡は、現代の道路により便宜的に分断されたもので、本来は一つの集落と把握されるものである。集落規模（≒調査範囲）も南北600m×150~300mと広く、宮ヶ瀬遺跡群の中では最も立地に恵まれている。一方、落合地区の各遺跡は指呼の間にあるが、支谷により独立した集落と把握される。集落規模（≒調査範囲）は一辺100m前後から150mと小規模である。このように両地区的集落は、立地上いささか趣を異にしている。

宮ヶ瀬地区では51棟の堅穴建物、5棟の掘立柱建物、それに1棟の礎石建物、落合地区では12棟の堅穴建物、2棟の掘立柱建物などが調査された。
集落の消長

遺構の年代については、堅穴建物を中心に各報文で触れられているが、今回のプロジェクトに際して、改めて河野

表1 時期別遺構

| 時期区分 | 実年代 | 遺跡名 | 遺構名 |
|-------|------------------|----------------|-------|
| I期 | 7世紀末から8世紀第1四半期 | 表の屋敷 (No.8) | 5号堅 |
| | | 表の屋敷 (No.8) | 14号堅 |
| | | ナラサス (No.15) | 遺構外 |
| II期 | 8世紀第2四半期前半 | 北原 (No.9) | 遺構外 |
| | | 馬場 (No.6) | 遺構外 |
| III期 | 9世紀初頭～第2四半期前半 | 北原 (No.10・11北) | 2号堅 |
| | | 北原 (No.10) | 6号堅 * |
| | | 表の屋敷 (No.8) | 6号堅 |
| | | 表の屋敷 (No.8) | 10号堅 |
| | | 馬場 (No.6) | 1号堅 |
| | | 馬場 (No.6) | 3号堅 * |
| | | 馬場 (No.6) | 5号堅 |
| | | 馬場 (No.3) | 6号堅 |
| | | 馬場 (No.3) | 7号土坑 |
| | | 南 (No.2) | 3号堅 |
| IV期 | 9世紀第2四半期後半～第3四半期 | 表の屋敷 (No.8) | 3号堅 |
| | | 表の屋敷 (No.8) | 7号堅 |
| | | 馬場 (No.3) | 1号堅 |
| | | 馬場 (No.3) | 3号堅 * |
| | | 馬場 (No.3) | 5号堅 |
| | | 馬場 (No.3) | 7号堅 |
| | | 馬場 (No.3) | 1号礎石 |
| V期 | 9世紀後半 | 馬場 (No.3) | 4号堅 |
| | | 南 (No.2) | 9号堅 |
| | | 大平原 (No.13) | 1号堅 |
| VI期 | 9世紀末～10世紀第1四半期 | 北原 (No.10) | 1号堅 * |
| | | 表の屋敷 (No.8) | 9号堅 |
| | | 南 (No.2) | 1号堅 |
| | | 南 (No.2) | 4号堅 |
| VII期 | 10世紀第2四半期～中葉 | 北原 (No.10) | 5号堅 * |
| | | 北原 (No.9) | 2号堅 |
| | | 表の屋敷 (No.8) | 4号堅 |
| | | 表の屋敷 (No.8) | 13号堅 |
| | | 南 (No.2) | 2号堅 |
| | | ナラサス (No.15) | 1号堅 |
| VIII期 | 10世紀後半～11世紀前半 | 北原 (No.10・11北) | 1号堅 * |
| | | 表の屋敷 (No.8) | 12号堅 |
| | | ナラサス北 (No.15北) | 1号堅 |

*は、炉を有する堅穴建物

が全体を統一的な時間軸でもって年代比定を行った。その結果、堅穴建物33棟、礎石建物1棟ほかの年代が示され、表1のとおりⅠ期からⅧ期までの8時期に分けられた（河野2004）。これらから集落の変遷を地区別にみてみよう。

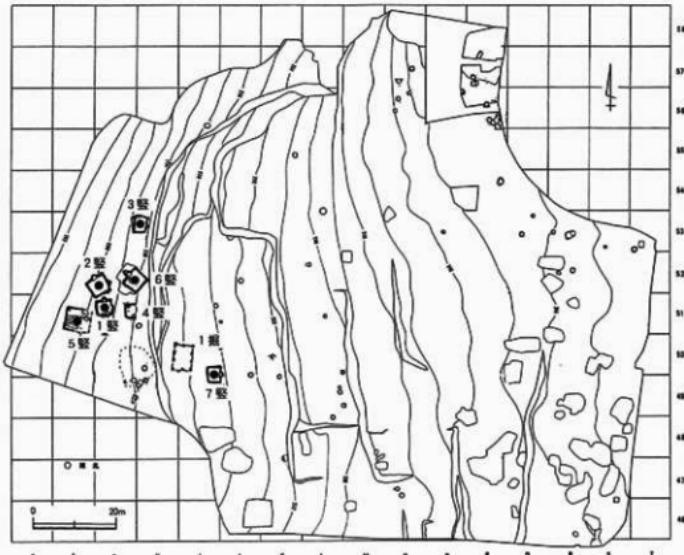
宮ヶ瀬地区では、7世紀末から8世紀第1四半期（Ⅰ期）に集落が成立し、そして出土土器から8世紀第2四半期前半（Ⅱ期）にも存在していたと思われる。その後半世紀余りの空白の後、9世紀初頭から第2四半期前半（Ⅲ期）に再び集落が姿を現す。堅穴建物は一転して集落内の各地点に展開する。そして9世紀初頭から10世紀第1四半期（Ⅲ～Ⅵ期）に充実期を迎える。その後の10世紀代に規模は縮小するものの一定程度の規模は保たれ、10世紀後半から11世紀前半（Ⅶ期）に終焉を迎える。堅穴建物は宮ヶ瀬地区内の各所を転々とした姿が垣間見える。また、9世紀第2四半期後半～第3四半期（Ⅳ期）には仏堂と思われる礎石建物が馬場（No.3）遺跡に出現する。

一方、落合地区のナラサス遺跡でも、出土土器から宮ヶ瀬地区とはほぼ同時期に集落が成立したものと思われる。そして、長い空白期間をおいて9世紀後半（Ⅴ期）に大野原遺跡に集落が出現する。その後の集落変遷過程は今一つ明確ではないが、9世紀末から10世紀中頃にかけてナラサス遺跡を中心に上原遺跡などでも集落が営まれ、最終的には宮ヶ瀬地区同様11世紀前半（Ⅶ期）にナラサス北遺跡に移遷した後、集落は姿を消す。落合地区ではナラサス遺跡が中心的な集落と思われるが、他遺跡では1ないし2棟の堅穴建物しか確認されておらず、短期・孤立的な集落像が窺える。

注目すべき事象

①集落成立の契機

集落の成立は、7世紀末から8世紀第1四半期の段階である。県下の古代集落の成立も概ねこの時期で、



第5図 北原（No.10）道路の遺構配置・炉を有する堅穴建物（●印）

律令体制の編戸制・班田制実施による再編と考えられる。宮ヶ瀬遺跡群の集落成立の契機もこれに求めるとは可能であるが、宮ヶ瀬遺跡群に律令制前夜の集落が存在しないこと、水田可耕地がない点を勘案すると慎重にならざるを得ない。ここでは、山間地立地という特異性から、次の可能性を考えたい。

『続日本紀』によると、和銅6（713）年に相模・常陸・上野・武藏・下野の5か国の調を布に加えて總も貢納させること、翌和銅7年には実際に總の調が貢納されたとあり、總生産が始まられたことがわかる。宮ヶ瀬遺跡群の集落の開始とこれらの記事がほぼ同時期である点をふまえ、總生産のための桑栽培或いは養蚕に伴う入植により集落が成立したと考えたい。

②堅穴建物の分布

後世の削平により堅穴建物のいくつかが消失していることを考慮しても、「段丘崖（斜面）の上下の際において多く見られます。これは宮ヶ瀬のような山間部の地域において、新たに平坦な場所を確保することが困難であることから、耕作地（畑）の確保とともに土地の有効利用を考えた故の選地であった」（近野1998）と堅穴建物の分布の特色とその意味を指摘している。

第5図は北原（No10）遺跡の遺構配置図である。堅穴建物、掘立柱建物は傾斜の緩い平坦地部分ではなく、西よりの緩斜面から急斜面に上る地形変換点にまとまって構築されている。この北原遺跡は宮ヶ瀬遺跡群において特殊な事例ではない。その一方で、ナラサス遺跡や表の屋敷遺跡のように堅穴建物が平坦地部分に存在する事例もあるが、これらの遺跡の堅穴建物は無目的に平坦部に選地されているのではなく、堅穴建物の周囲に一定の空間が確保できるように、距離を置いて構築されているようと思える。

以上から、近野も指摘するように、平坦地を畠地として利用するために、意識的にその地点を避け段丘崖の際、或いは平坦地に構築する場合でも一定の空間が確保できるように周囲の堅穴建物との位置関係に配慮した上で構築されたと考えられる。

ところで、古代においては養蚕は水稻とともに重要な生産活動と位置づけられていた。住まいの周囲に展開する畠地は園地と把握され、雜穀根菜類や桑漆などの栽培が考えられる。ただ、大宝令の「田今桑漆条」で、上戸は300根以上、中戸は200根以上、下戸は100根以上の桑を植えることが定められている。さらに桑の栽培地は林ではなく畠地と認定されてたことから、これら平坦地で、桑栽培が行なわれていたことも考えられるのではないか。

③堅穴建物内の炉

堅穴建物に付設された炉がナラサス遺跡で3棟5基、馬場（No3）遺跡で1棟4基、馬場（No6）遺跡で1棟1基、表の屋敷遺跡で1棟1基、北原（No10・11北）遺跡で1棟1基、北原（No10）遺跡で6棟6基（第5図●印）、計13棟の堅穴建物から18基確認された。この遺構数は、該期の他集落に比して異常に多く、特異な状況である。一般に炉を付設する堅穴建物は、鉄滓・羽口等を出土することが多く、鍛冶関連の遺構と理解される場合が多い。北原（No10）遺跡の2号堅穴建物からも鉄滓1点が出土しており、その可能性は否定できないが、遺構の数に比して鉄滓があまりに少なく、鍛冶関連遺構に限定するには無理がある。

ところで、秦野市草山遺跡では床面中央に炉を設け、その周囲から2点の鉄製紡錘車（1点には燃りの掛かった綿糸が残存）を出土した154号堅穴建物がある。堀田氏は、この堅穴建物を燃り糸作業は特殊と断りつつ、養蚕から綿糸までを行なった作業場と推定している（堀田1999）。また、関氏は、堅穴建物の中に桑葉の貯蔵・蚕飼いのための桑室・蚕室が存在することを指摘している（関1994）。民俗事例によると、桑葉の備蓄から綿糸抽出に至る作業工程においては、状況に応じて火氣が必要とされ、特に綿糸抽出に際しては

火気・湯は必需である。

以上から、炉の付設された竪穴建物の中には、養蚕に関連する竪穴建物が存在したものと考えたい。

④竪穴建物の埋め戻し行為

宮ヶ瀬遺跡群では埋め戻し行為を顕著に確認できた竪穴建物が存在する。河野編年で9世紀初頭～第2四半期前半とされる北原（No10・11北）遺跡の2号竪穴建物、北原（No10）遺跡の6号竪穴建物と、報文で10世紀前半とされる北原（No10）遺跡の3号竪穴建物の3棟である。報文によるとこれら竪穴建物の埋め戻しに伴う掘り込みは、斜面山側からの掘り込みが顕著で、北原（No10）遺跡の2例は2方向から、北原（No10・11北）遺跡例は3方向の掘り込み、竪穴建物の埋め戻し行為が行われている。こうした行為は、竪穴建物廃絶後窪地になった跡地を放置するのではなく、埋め戻しにより平坦地に復旧し、園地に取り込み活用するための行為と理解したい。

まとめ

以上の傍証資料から、宮ヶ瀬遺跡群の集落、そしてそこにみられる竪穴建物は養蚕、絹糸生産に関わるものではないかとの想定にたどりつく。¹⁰⁾その具体相を憶測を交え復元すると次のようになるか。

律令国家の絶生産の指示に基づく形で、7世紀末から8世紀第1四半期（I期）に養蚕を行なうために人々が入植し集落を形成する。第III期（9世紀初頭から第2四半期前半）以降、炉を有する竪穴建物がみられることから、合わせて集落内で繭から糸を抽出する織糸作業も行なわれるようになる。この作業は炉を有する竪穴建物が集中する落合地区では中心的集落のナラサス遺跡、宮ヶ瀬地区では特に北原（No10）遺跡において主体的に担われたと思われる。

竪穴建物の周囲に広がる園地では桑が栽培されたが、一定規模の園地を確保するため、廃絶竪穴建物はそのまま放置されるのではなく、埋め戻され園地に復旧された様子が窺える。

北原（No10・11北）遺跡、北原（No10）遺跡、ナラサス遺跡で伴出した掘立柱建物は合わせて5棟と竪穴建物に比べるとわずかである。これらは居住施設というよりは養蚕に関わる収納施設、或いは管理施設の可能性が高いと思われる。

ところで、河野の土器編年によるとII期とIII期の空白期を除くと、土器型式上は連続したものと把握されている。しかし、特に落合地区の各集落における竪穴建物のあり方、養蚕が季節的な労働と考えられることから、恐らく宮ヶ瀬遺跡群の集落は断続的なものであった可能性が高いのではないか。（大上周三）

註

- (1) 本論の要旨が養蚕を念頭においたものであるため、養蚕一辺倒の限定的な内容になっているが、雜穀類の栽培、林業にも従事した集落、また、竪穴建物も養蚕単独の機能ではなく居住機能も併せ持った、複合的な集落、竪穴建物であったことは十分に考えられる。

参考・引用文献

- 河野喜映 2004「出土土器・陶器の時期区分と様相」『研究紀要9』（財）かながわ考古学財団
 関 和彦 1994「古代の養蚕」『日本古代社会生活史の研究』校倉書房
 近野正幸 1998「律令期の山塚み集落」「先人たちの軌跡」（財）かながわ考古学財団
 堀田孝博 1999「古代における鉄製紡錘車普及の意義について」『神奈川考古』第35号 神奈川考古同人会

【付記】前年の論考も含め、執筆者各人の考え方を尊重し、用語、内容の統一は敢えてしていない。

神奈川県内の「やぐら」集成（3）

- 「やぐら」出土の石造塔類について -

中世研究プロジェクトチーム

はじめに

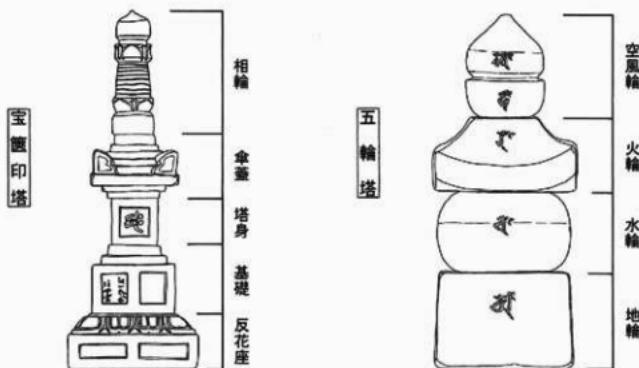
本プロジェクトでは、平成14年度から、中世の神奈川を特色づける遺構である「やぐら」の共同研究を行っている。14年度は発掘調査が実施された「やぐら」に関する基礎データの集成、15年度は上行寺東やぐら群を中心とする横浜市南部地域の「やぐら」群を対象に、分布状況、形態的特徴、出土遺物等から検討を加えた。

今年度からは、「やぐら」内で発見された五輪塔や宝篋印塔、板碑等の石造塔婆類について検討することとした。本年度は出土事例を中心とした基礎データの集成を行い、来年度以降、集成したデータの本格的な分析・検討を行うことにしたい。

また、これに加えて、前回集成の遗漏分および平成14年度の集成以後に報告書が刊行された「やぐら」の調査事例についても、補遺として掲載する。

石造塔類集計表 例言

1. 本集計表は2004年12月現在公刊されている発掘調査報告書に基づき、「やぐら」と「やぐら」に類する遺構から出土した石造塔類を集計したものである。
2. 発掘調査報告以外の、分布調査、資料紹介等で報告されているものは除外した。
3. 石造塔は宝篋印塔・五輪塔・板碑・一石五輪塔に大別し、宝篋印塔と五輪塔は石材ごと、部位ごとに集計した。
4. 石材の表記は安山岩・凝灰岩に統一した。「伊豆石」は安山岩、「砂岩」「凝灰質砂岩」「鎌倉石」は凝灰岩とした。
5. 宝篋印塔・五輪塔の各部位の名称は第1図の表記に統一した。
6. 文献番号は後出の文献一覧と対応する。



第1図 宝篋印塔・五輪塔の各部位の名称

第1表 やぐら出土石塔集計表

| 遺跡名 | 遺構名 | 宝蓋印塔(安山岩) | | | | | | 五輪塔(安山岩) | | | | | | 宝蓋印塔(凝灰岩) | | | | | | 五輪塔(凝灰岩) | | | | | | 一石五輪塔 根脚 部位 | 備考(紀年銘等) 報告書に石材の記載なし。写真 から安山岩と判断 | 文 獻 1 2 3 4 5 6 7 | | | | | | |
|----------|--------|-----------|--------|--------|--------|--------|-------------|-------------|--------|-------------|-------------|--------|-------------|-------------|--------|-------------|-------------|--------|-------------|-------------|--------|-------------|-------------|--------|-------------|-------------------|--|---|-------------------|---|----------|--|--|--|
| | | 相 輪 | 拿 蓋 | 塔 身 | 基 礎 | 空風輪 | | | 火輪 | | | 水輪 | | | 地輪 | | | 相 輪 | 拿 蓋 | 塔 身 | 基 礎 | 空風輪 | | | 火輪 | | | 水輪 | | | 根脚 部位 | 備考(紀年銘等) 報告書に石材の記載なし。写真 から凝灰岩と判断 | | |
| | | | | | | 梵 字 | 梵 字 有 | 梵 字 無 | | | | | | | | |
| 糞井やぐら | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 長昌寺前横穴群 | 第4道耕 | | | | | 2 | 1 | 3 | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 「□文六年」(延文?、1361?) | 2 | | | | |
| | 第4道耕前方 | | | | | 2 | 2 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第11号石窟 | 1 | 1 | | 2 | 1 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第20号石窟 | | | | 20 | 1 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第23号石窟 | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第26号石窟 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第3号小穴 | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 糞利谷やぐら群 | 14号やぐら | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 糞利谷やぐら群 | 典農塗 | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 糞口町やぐら群 | 第5号やぐら | 1 | 1 | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 泥牛庵塗やぐら群 | 第4号やぐら | 2 | | | 1 | 1 | 1 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 9号やぐら | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 10号やぐら | | | | | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 13号やぐら | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 14号やぐら | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 15号やぐら | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 17号やぐら | 1 | | 2 | 1 | 1 | 3 | 2 | 4 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 18号やぐら | | | | 1 | 3 | 1 | 4 | 3 | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 19号やぐら | | | | 1 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 20号やぐら | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 21号やぐら | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 上行寺東やぐら群 | 22号やぐら | | 1 | | 1 | | 1 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 23号やぐら | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 24号やぐら | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 26号やぐら | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 28号やぐら | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 29号やぐら | | 1 | 2 | | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 30号やぐら | | 1 | 2 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 31号やぐら | | | 1 | 1 | | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 34号やぐら | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 35号やぐら | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 36号やぐら | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 遺跡名 | 遺構名 | 宝鏡印塔(安山岩) | | | | 五輪塔(安山岩) | | | | 宝鏡印塔(凝灰岩) | | | | 五輪塔(凝灰岩) | | | | 一石五輪塔 | | 備考(紀年銘等) | 文献 | | |
|---------------|---------|----------------------------|----------------|-------------|---------------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------|-------------|---------------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|------------------|-------|----|---------------------------|---------------|---------------------|---|
| | | 塔身 相輪 傘蓋 梵字 有無 | 基礎 梵字 有無 | 反 花 座 | 空 風 輪 梵 字 有 無 | 火 輪 梵 字 有 無 | 水 輪 梵 字 有 無 | 地 輪 梵 字 有 無 | 塔身 相輪 傘蓋 梵字 有無 | 基礎 梵字 有無 | 反 花 座 | 空 風 輪 梵 字 有 無 | 火 輪 梵 字 有 無 | 水 輪 梵 字 有 無 | 地 輪 梵 字 有 無 | 板 碑 梵 字 有 無 | 部 位 數 量 | | | | | | |
| 上行寺東やぐら群 | 37号やぐら | | | 1 | | | | | | | | 8 | 2 | 3 | 1 | 1 | | | | 基礎に「永享十二年(1440)」。 月輪梵字 | 7 | | |
| | 38号やぐら | | | 1 | 2 | 1 | | | | | | 4 | 1 | 2 | 1 | 1 | | | | | | | |
| | 41号やぐら | | | | 1 | | | | | | | 1 | | | | 1 | | | | | | | |
| | 43号やぐら | | | | | | | | | | | 3 | 1 | 2 | 1 | 2 | 3 | | | | | | |
| | 1号窟 | 1 | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | 8 | | |
| | 2号窟 | 1 | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | |
| 六浦大道やぐら群 | 1号やぐら | 3 | 4 | 3 | 2 | 3 | 29 | 2 | 70 | 1 | 24 | 1 | 7 | | | | 4 | 1 | 1 | 16 | 33 | 9号やぐらから持ち出された もの | 9 |
| | 2号やぐら | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | |
| | 3号やぐら | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | | | | |
| | 4号やぐら | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | |
| | 6号やぐら | 1 | 1 | | 2 | 1 | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 7号やぐら | 2 | | | | 1 | | 1 | 2 | | | | 1 | | | | 2 | | 14 | | | | |
| 六浦北部遺跡 | 8号やぐら | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | 10 | |
| | 12号やぐら | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 2号防空壕 | 2 | 3 | 6 | 2 | 1 | 2 | 11 | 7 | 8 | 11 | 1 | | | | 4 | 2 | 11 | 3 | | | | |
| | 第9号横穴 | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | |
| 朝比奈群 | 第10号横穴 | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | 11 | |
| | 第11号横穴 | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | |
| 番場ヶ谷やぐら群 | 第16号横穴 | | | | | | | | | | | | | | | | | 3 | 1 | | | 12 | |
| | 1号「やぐら」 | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | 2 | 1 | | | |
| | 2号「やぐら」 | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 2 | | | | | |
| 十二所宿荷小路遺跡内やぐら | 3号やぐら | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | 1 | 1 | | | |
| | 4号やぐら | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | 2 | | | | |
| | 5号やぐら | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | 1 | 1 | | | |
| | 6号やぐら | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | 1 | 1 | | | |
| | 8号やぐら | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | 1 | | | |
| | 9号やぐら | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | | 1 | | | | |
| | 12号やぐら | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | 2 | 1 | | | |
| | 13号やぐら | | 1 | | | | | | | | | | 1 | | | | 1 | | | | 地輪に元徳三(1331)年 | | |
| | 14号やぐら | | | | | | | | | | | | | | | | 3 | | 1 | 2 | | | |
| | 15号やぐら | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | 1 | | | |
| 十二所宿荷小路遺跡内やぐら | 16号やぐら | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | | | 1 | | | |
| | 17号やぐら | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | 1 | | | |
| | 18号やぐら | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | 1 | | | |
| | 19号やぐら | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | | | |
| 十二所宿荷小路遺跡内やぐら | 2号窟 | 2 | 2 | 2 | 1 | 2 | 1 | 1 | 1 | | | | | | | | 1 | 1 | | | | 13 | |

| 遺跡名 | 遺構名 | 宝篋印塔(安山岩) | | | | | | 五輪塔(安山岩) | | | | | | 宝篋印塔(凝灰岩) | | | | | | 五輪塔(凝灰岩) | | | | | | 一石五輪塔 | | 備考(紀年統等) | 文献 | |
|--------------|-----------|-----------|------------------|----------|------------------|------------------|------------------|----------|------------------|----------|------------------|------------------|------------------|-----------|------------------|----------|------------------|------------------|------------------|----------|------------------|----------|----|--|--|-------|--|----------|----|----|
| | | 塔身 | | 基礎 | | 地輪 | | 塔身 | | 基礎 | | 地輪 | | 塔身 | | 基礎 | | 地輪 | | 板碑 | | 部位 | 数量 | | | | | | | |
| | | 相輪 | 傘蓋 梵字無 梵字有 | 鉢無 鉢有 | 基盤 梵字無 梵字有 | 輪有 梵字無 梵字有 | 地輪 梵字無 梵字有 | 相輪 | 傘蓋 梵字無 梵字有 | 鉢無 鉢有 | 基盤 梵字無 梵字有 | 輪有 梵字無 梵字有 | 地輪 梵字無 梵字有 | 相輪 | 傘蓋 梵字無 梵字有 | 鉢無 鉢有 | 基盤 梵字無 梵字有 | 輪有 梵字無 梵字有 | 地輪 梵字無 梵字有 | 相輪 | 傘蓋 梵字無 梵字有 | 鉢無 鉢有 | | | | | | | | |
| 光輪寺境内遺跡 | 1号竈 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 内やぐら | 溝状造築 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 14 |
| 公方屋敷跡内やぐら | 時期不明遺跡 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 15 |
| 宅間谷西第2やぐら群 | 3号やぐら | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 16 |
| 大倉幕府北道跡 | 1号やぐら | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 17 |
| 大倉幕府北やぐら群 | 2号やぐら | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 18 |
| | 5号やぐら | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 1号竈 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 杉本寺宮邊遺跡内やぐら群 | 2号竈 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 19 |
| | 4号竈 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 5号竈 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 八雲神社境内 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 20 |
| 山王堂東谷やぐら群 | 第1号やぐら | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 21 |
| | 第5号やぐら | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 2号やぐら | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 新善光寺跡内やぐら | コ字区画遺構 | 17 | 17 | 2 | 17 | 2 | 14 | 18 | 2 | 1 | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | 22 | |
| | 第1号やぐら | 1 | 1 | 3 | 1 | | | | 3 | 2 | 28 | 1 | 5 | 4 | | | | | | | | | | | | | | | | 23 |
| | 第2号やぐら | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 第2号やぐら | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 舟ヶ谷藪やぐら群 | 第3号やぐら | 1 | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 24 |
| | 第4号やぐら | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | やぐら一括 | 2 | 2 | 3 | 3 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 舟ヶ谷やぐら群 | 1号やぐら | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 25 |
| 舟ヶ谷やぐら群 | 2号やぐら | 1 | 1 | | | | | | 1 | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 26 | |
| | 第1号やぐら | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 27 |
| | 11号やぐら | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 5 | 1 | | | | | | | | | 3 | 1 | 1 | 3 | 4 | | | | | 28 | | |
| 長勝寺跡内やぐら群 | 12号やぐら | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 13号やぐら | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 15号やぐら | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 19号やぐら | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 福源院下やぐら群 | 3・4・6号やぐら | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 29 |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 遺跡名 | 遺構名 | 宝鏡印塔(安山岩) | | | | 五輪塔(安山岩) | | | | 宝鏡印塔(凝灰岩) | | | | 五輪塔(凝灰岩) | | | | 一石五輪塔 | | 備考(紀年既等) | 文献 | | | | |
|--------------|---------|-----------|----|-----|-----|----------|-----|-----|-----|-----------|-----|-----|-----|----------|-----|-----|-----|-------|-----|----------|-----------|----|---|----|----|
| | | 塔身 | | 基礎 | | 空風輪 | | 火輪 | | 水輪 | | 地輪 | | 空風輪 | | 火輪 | | 水輪 | | 地輪 | | 板碑 | | | |
| | | 相輪 | 傘蓋 | 梵字無 | 梵字有 | 梵字無 | 梵字有 | 梵字無 | 梵字有 | 梵字無 | 梵字有 | 梵字無 | 梵字有 | 梵字無 | 梵字有 | 梵字無 | 梵字有 | 梵字無 | 梵字有 | 梵字無 | 梵字有 | | | | |
| 西管領尼敷南やぐら群 | 第6号やぐら | | 2 | 1 | | 1 | | 3 | 1 | 1 | | | | | 1 | | | | | | | | | 30 | |
| 正法寺遺跡 | 1号窟 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 31 | |
| | 5号窟 | 3 | | | | 5 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 表揮 | 4 | 1 | 2 | 3 | 3 | 6 | 4 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 第2号やぐら | | | | | 1 | 2 | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | |
| 尾藤谷やぐら群 | 第5号やぐら | | | | | | 2 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | 32 |
| | 第6号やぐら | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 多宝寺やぐら群 | 10号やぐら | | | | | | | | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 33 |
| | 2号窟 | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | 1 | 1 | | | | | | | |
| | 3号窟 | | | | | | | | | | | | | | 2 | 2 | 2 | 2 | | | | | | | |
| | 7号窟 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | 34 |
| | 8号窟 | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | 1 | 1 | | | | | | | |
| 松谷寺やぐら | 11号窟 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | 1 | | | | | | | |
| | 前面平場 | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | | | | | | |
| | 1号窟 | | | | | | | | | | | | | | 2 | 2 | 2 | 2 | | | | | | | 35 |
| | 2号窟 | | | | | | | | | | | | | | 2 | 2 | 2 | 2 | | | | | | | |
| | 3号窟 | | | | | | | | | | | | | | 2 | 2 | 2 | 2 | | | | | | | |
| 菅目道路内やぐら群 | 1号窟 | 2 | | 1 | 6 | | | 5 | 1 | 1 | | | | | 14 | 30 | 44 | 31 | 15 | 53 | 29 | 34 | | | 36 |
| | 2号窟 | 1 | | 2 | 2 | 2 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 月影ヶ谷北やぐら群 | 1号窟 | | | | | | | | | | | | | | | | | 3 | 3 | | | | | | 37 |
| | 2号窟 | | | | | | | 2 | 1 | | | | | | | | | 2 | 4 | | | | | | |
| 極楽寺近傍やぐら | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 火水道 | 1 | 一石五輪塔は安山岩 | | | 38 | |
| 極楽寺旧境内遺跡内やぐら | やぐら一括 | | | | | | | 2 | 2 | | | | | | | | | 5 | 2 | | | | | | 39 |
| 子守神社跡遺跡 | 1号やぐら | 1 | | 1 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 40 |
| | 1号やぐら | | | | | 1 | 2 | 1 | 2 | 2 | 11 | 2 | | | | 1 | 3 | 9 | 2 | 7 | 2 | 5 | 5 | 4 | |
| 川名森久地区 | 3号やぐら | | | | | 29 | 4 | 28 | 5 | 26 | 4 | 26 | 8 | 1 | | 4 | 4 | 1 | 4 | 1 | 1 | 26 | | | 41 |
| 天神やぐら群 | 3号穴 | | | | | 6 | 1 | 4 | 11 | 1 | 9 | 3 | 1 | | | 5 | 2 | 5 | 18 | | | | | | 42 |
| | 3号やぐら | | | | | | | 1 | 1 | | | | | | | | | 1 | | | | | | | 43 |
| | 2・3号やぐら | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 陣屋谷口やぐら群 | 4号やぐら | | | | | 1 | 4 | 5 | 9 | 3 | 1 | | | | | | | 2 | | | | | | | 44 |
| 正押寺やぐら群 | 5・6号やぐら | | | | | 1 | | 2 | 1 | | | | | | | 4 | 4 | 6 | 17 | | | 水地 | 1 | | 45 |

| 遺跡名 | 遺構名 | 宝篋印塔(安山岩) | | | | | | 五輪塔(安山岩) | | | | | | 宝篋印塔(凝灰岩) | | | | | | 五輪塔(凝灰岩) | | | | | | 一部五輪塔 部位 | 部数 | 備考(紀年鉛等) | 文献 | | | | | | | | | | | | | |
|------------|-------------|-----------|------------------|--------|--------|--------|--------|----------|------------------|--------|--------|--------|--------|-----------|------------------|--------|--------|--------|--------|----------|------------------|--------|--------|--------|--------|-------------|-----|-------------------------|--------------|----|-----|----|---|-----|---|----|--|--|--|--|--|--|
| | | 相 輪 | 塔 身 傘 蓋 | 基 礎 | 火 輪 | 水 輪 | 地 輪 | 相 輪 | 塔 身 傘 蓋 | 基 礎 | 火 輪 | 水 輪 | 地 輪 | 相 輪 | 塔 身 傘 蓋 | 基 礎 | 火 輪 | 水 輪 | 地 輪 | 相 輪 | 塔 身 傘 蓋 | 基 礎 | 火 輪 | 水 輪 | 地 輪 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 長浦地区道路第3地点 | 1号やぐら | | | | 卷 | 袴 | 袴 | | | | | | | | | 卷 | 袴 | 袴 | | | | | | | | | | ※石材不明五輪塔空軸輪1点、火輪1点、水輪1点 | 47 | | | | | | | | | | | | | |
| 曳ヶ崎やぐら | 2号やぐら | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 2 | 3 | 4 | | | | | | 48 | | | | | | | | | | | | | |
| | 8号穴 | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | 5 | 6 | 6 | 11 | | | | | | 49 | | | | | | | | | | | | | |
| 夜島やぐら群 | 1号穴 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 50 | | | | | | | | | | | | |
| | 7号穴 | | | | 1 | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 長坂やぐら群 | 4号やぐら | | | | 4 | 5 | 4 | 3 | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | 51 | | | | | | | | | | | | | |
| | 新2号やぐら | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 新3号やぐら下 | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | 2 | 2 | 2 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 長坂宮ノ前やぐら群 | 第1号やぐら | 1 | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 52 | | | | | | | | | | | | |
| | 1号やぐら | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | 3 | 1 | 2 | 5 | 3 | | | | | | 水地 | 3 | | | | | | | | | | | | |
| 准王寺やぐら群 | 2号やぐら | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 5 | 4 | 1 | 3 | 2 | | | | | | 53 | | | | | | | | | | | | |
| | 4号やぐら | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 八坂やぐら群 | 2号やぐら | | | | | | | | | | | | | | | | | | 4 | 1 | 4 | 5 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 3号やぐら | | | | | | | | | | | | | | | | | | 7 | 13 | 12 | 2 | 14 | | | | | | 池子遺跡群No.15地点 | 54 | | | | | | | | | | | | |
| | 4号やぐら | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 2 | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 5号やぐら | | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 9 | 1 | 4 | 8 | 1 | 6 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| けんじが谷やぐら群 | 第1号やぐら | 1 | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 55 | | | | | | | | | | | | |
| | 2号やぐら | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 正覚寺やぐら群 | 3号やぐら | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 56 | | | | | | | | | | | | |
| | (小坪5丁目やぐら群) | | | 1 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 57 | | | | | | | | | | | | | |
| 竹の谷戸やぐら | 第1号やぐら | 1 | | | | | | 1 | 1 | 1 | | | | | | | | | 2 | 1 | 2 | 3 | 2 | | | | | | 58 | | | | | | | | | | | | | |
| | 1号やぐら | | | | | | | 23 | 13 | 12 | 14 | | | | | | | | 1 | 3 | 2 | 3 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 岡口またやぐら群 | 2号やぐら | | | | | | | 12 | 13 | 17 | 14 | | | | 3 | 1 | 1 | 2 | 2 | 1 | 3 | 4 | 1 | | | | | | 59 | | | | | | | | | | | | | |
| | 4号やぐら | 4 | 3 | 3 | 3 | 2 | 5 | 8 | 2 | 7 | 1 | 5 | 2 | 4 | 2 | | | | | | | | | | | | | 応安6(1373)年、明惠三(1392)年 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 5号やぐら | | | | | | | 3 | 2 | 2 | 2 | | | | 1 | 1 | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 北塙所在やぐら | | | | | | 7 | 7 | | 8 | 7 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 60 | | | | | | | | | | | | | |
| | 合計 | 53 | 43 | 20 | 35 | 24 | 22 | 40 | 200 | 46 | 232 | 16 | 181 | 38 | 146 | 28 | 7 | 5 | 2 | 2 | 0 | 5 | 0 | 0 | 151 | 77 | 134 | 67 | 169 | 92 | 266 | 91 | 1 | 105 | 6 | 総計 | | | | | | |
| | | | | | | | | | 237 | | | | | | | | | | 894 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 種別比率 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 38.8% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0.6% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

石塔集計表 参考文献

1. 神奈川県教育委員会 1983 「横浜市中区本牧荒井地区発見の中世墓地調査報告」「神奈川県埋蔵文化財調査報告」25
2. 横浜市埋蔵文化財調査委員会 1971 「横浜市金沢区富岡町長昌寺前横穴群発掘調査報告書」「昭和46年度横浜市埋蔵文化財調査報告書」Ⅲ
3. かながわ考古学財団 2001 「鎌谷東6丁目西地区やぐら群（2次）」かながわ考古学財団調査報告107
4. 鎌谷やぐら遺跡調査団 1987 「鎌谷やぐら遺跡」
5. かながわ考古学財団 2000 「瀬戸町やぐら群・横穴墓」かながわ考古学財団調査報告86
6. 神奈川県立埋蔵文化財センター・神奈川県土木部横浜治水事務所 1988 「泥牛庵脇やぐら群Ⅱ」
7. 上行寺東やぐら群遺跡発掘調査団 2002 「上行寺東やぐら群遺跡発掘調査報告書」
8. 東国歴史考古学研究所 1998 「上行寺東やぐら群」「中世石窟遺構の調査Ⅱ」東国歴史考古学研究所調査研究報告第15集
9. 財団法人横浜市ふるさと歴史財団 1987 「六浦大道やぐら群」
10. 六浦北部遺跡調査団 1982 「六浦北部遺跡」
11. 鎌倉市教育委員会 2002 「朝比奈寺発掘調査報告書」
12. 鎌倉市教育委員会 1986 「番場ヶ谷やぐら群発掘調査報告書」
13. 十二所稻荷小路遺跡内やぐら発掘調査団 1992 「十二所稻荷小路遺跡内やぐら」「平成2年度鎌倉市内急傾斜地崩壊対策事業に伴う発掘調査報告書」
14. 東国歴史考古学研究所 1998 「光触寺旧境内遺跡内やぐら」「中世石窟遺構の調査Ⅱ」東国歴史考古学研究所調査研究報告第15集
15. 公方屋敷内やぐら発掘調査団 1993 「公方屋敷内やぐら」「平成3年度鎌倉市内急傾斜地崩壊対策事業に伴う発掘調査報告書」
16. かながわ考古学財団 2002 「宅間谷西第2やぐら群Ⅱ」かながわ考古学財団調査報告137
17. 大倉幕府北遺跡発掘調査団 1999 「大倉幕府北遺跡」
18. かながわ考古学財団 2004 「大倉幕府北やぐら群」かながわ考古学財団調査報告162
19. 東国歴史考古学研究所 1996 「杉本寺周辺遺跡内やぐら」「中世石窟遺構の調査」東国歴史考古学研究所調査研究報告第7集
20. 東国歴史考古学研究所 1994 「中世山腹墓所遺跡の調査 No.302遺跡内やぐら（八雲神社境内）発掘調査報告書」東国歴史考古学研究所調査研究報告第8集
21. かながわ考古学財団 2001 「山王堂東谷やぐら群」かながわ考古学財団調査報告117
22. 新善光寺跡内やぐら発掘調査団 1988 「新善光寺跡内やぐら発掘調査報告書」
23. かながわ考古学財団 1999 「鎌倉城（No.87）所在やぐら群」かながわ考古学財団調査報告74
24. かながわ考古学財団 2000 「弁ヶ谷東やぐら群」かながわ考古学財団調査報告94
25. 相武考古学研究所 1986 「弁ヶ谷やぐら群」
26. かながわ考古学財団 2000 「弁ヶ谷やぐら群」かながわ考古学財団調査報告98
27. かながわ考古学財団 1999 「長勝寺跡（No.88）所在やぐら群」かながわ考古学財団調査報告71
28. かながわ考古学財団 2004 「長勝寺跡内やぐら群Ⅱ」かながわ考古学財団調査報告174

29. 神奈川県立埋蔵文化財センター 1985 「帰源院下やぐら群」 神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告 9
30. 神奈川県立埋蔵文化財センター 1984 「西管領屋敷やぐら群」 神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告 6
31. 東国歴史考古学研究所 1998 「正法寺遺跡」「中世石窟造構の調査Ⅲ」 東国歴史考古学研究所調査研究報告第22集
32. かながわ考古学財団 1999 「尾藤谷やぐら群」 かながわ考古学財団調査報告64
33. 鎌倉市教育委員会 1976 「多宝律寺遺跡発掘調査報告書」
34. 東国歴史考古学研究所 1998 「松谷寺跡内やぐら」「中世石窟造構の調査Ⅱ」 東国歴史考古学研究所調査研究報告第15集
35. 東国歴史考古学研究所 1998 「松谷寺やぐら」「中世石窟造構の調査Ⅱ」 東国歴史考古学研究所調査研究報告第15集
36. 箕目遺跡内やぐら発掘調査団 1990 「箕目遺跡内やぐら」『昭和63年度鎌倉市内急傾斜地崩壊対策事業に伴う発掘調査報告書』
37. 楠楽寺旧境内遺跡内やぐら発掘調査団 1992 「楠楽寺旧境内遺跡内やぐら」「平成2年度鎌倉市内急傾斜地崩壊対策事業に伴う発掘調査報告書」
38. 鎌倉市教育委員会 1983 「4 楠楽寺旧境内北やぐら」『鎌倉市埋蔵文化財発掘調査年報』 I
39. 神奈川県教育委員会 2002 「鎌倉市楠楽寺1丁目23の平成11年度急傾斜地崩壊対策事業に伴う立会調査」「神奈川県埋蔵文化財調査報告書」 44
40. 子守神社跡発掘調査団 2000 「子守神社跡発掘調査報告書」
41. 川名森久地区遺跡発掘調査団 1995 「藤沢市川名森久地区埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ」
42. 横須賀市急傾斜地区埋蔵文化財発掘調査団 1986 「横須賀市天神やぐら群の調査」
43. かながわ考古学財団 2003 「和田山やぐら群遺跡Ⅲ」 かながわ考古学財団調査報告148
44. 急傾斜地区埋蔵文化財調査団 1994 「和田山やぐら群の第2次調査」
45. かながわ考古学財団 2000 「陣屋谷戸やぐら群遺跡」 かながわ考古学財団調査報告84
46. かながわ考古学財団 2004 「正押寺やぐら群」 かながわ考古学財団調査報告173
47. 横須賀市教育委員会 1993 「長浦地区遺跡第3遺跡」「横須賀市文化財調査報告書」 第27集
48. 横須賀市教育委員会 1992 「16. 亀ヶ崎やぐら群」「横須賀市文化財調査報告書」 第26集
49. 横須賀市急傾斜地区埋蔵文化財調査団 1986 「横須賀市天神やぐら群・佐島やぐら群の2次調査」
50. 横須賀市急傾斜地区埋蔵文化財調査団 1985 「横須賀市佐島やぐら群の調査」
51. 長坂やぐら群発掘調査団 1981 「横須賀市長坂やぐら群の調査」
52. かながわ考古学財団 2003 「長坂宮ノ前やぐら群」 かながわ考古学財団調査報告144
53. かながわ考古学財団 2004 「藤王寺やぐら群」 かながわ考古学財団調査報告176
54. かながわ考古学財団 1997 「池子遺跡群Ⅳ」 かながわ考古学財団調査報告26
55. かながわ考古学財団 1999 「げんじが谷横穴墓群及びやぐら群」「かながわ考古学財団調査報告」 62
56. かながわ考古学財団 2003 「正覚寺やぐら群」 かながわ考古学財団調査報告132
57. 小坪やぐら群遺跡調査団 1997 「小坪5丁目やぐら群の第2次調査」
58. かながわ考古学財団 2003 「竹の谷戸やぐら」 かながわ考古学財団調査報告145
59. かながわ考古学財団 2004 「間口またやぐら群」 かながわ考古学財団調査報告172
60. 鎌倉考古学研究所 1981 「中郡二宮町長峯所在「やぐら」調査概報」「鎌倉考古」 No.7

第2表 神奈川県内「やぐら」集成一覧(前回集成遺漏分)

| 番号 | 遺跡名 | 所在地 | 基數 | 立地 | 調査年月日 | 備考 | 文献番号 |
|-----|-----------|-------------------------|----|----|----------------|----|------|
| 98 | 小網代やぐら群 | 三浦市三崎町小網代1449番、1451番 | 2 | 崖裾 | 1987年6月 | | 160 |
| 99 | 松輪印口やぐら | 三浦市南下浦町松輪608番、612番、614番 | 5 | 崖裾 | 1995年8~9月 | | 161 |
| 107 | 坂本元屋敷やぐら群 | 横浜市金沢区坂利谷町1049番 | 5 | 崖裾 | 1982年11月26,27日 | | 162 |

*98、99は前回集成(研究紀要8所収)の遺跡番号、107は新番号付与

第3表 神奈川県内「やぐら」集成一覧(2002年4月以降刊行分)

| 番号 | 遺跡名 | 所在地 | 基數 | 立地 | 調査年月日 | 備考 | 文献番号 |
|-----|--------------------|------------------------|----|----------|---------------------------------|-----------------------------------|------|
| 24 | 宅間谷西第2やぐら群 | 鎌倉市浄明寺二丁目519番1 | 1 | 崖裾 | 2001年6月28日~7月18日 | | 163 |
| 27 | 覚圓寺総門跡東やぐら群 | 鎌倉市二階堂413番地4、5 | 1 | 崖裾 | 2001年7月26日~8月10日 | | 164 |
| 37 | 山王堂東谷やぐら群 | 鎌倉市大町3丁目1377番1 | 1 | 崖裾 | 2001年11月20日~12月14日 | | 165 |
| 45 | 長勝寺跡内やぐら群 | 鎌倉市山ノ内557番1 | 13 | 崖裾 | 2002年7月1日~8月6日 | 他に造成遺構2基 | 166 |
| 61 | 極楽寺旧境内(史跡上杉憲方幕隣接地) | 鎌倉市極楽寺一丁目23番 | 1 | 中腹 崖裾 | 2000年2月21日(立会調査) | | 167 |
| 74 | 和田山やぐら群 | 横須賀市追浜本町二丁目17~3 | 3 | 崖裾 | 2002年4月10日~5月8日 | 他に地下式坑1基 | 168 |
| 93 | 正覚寺やぐら群 | 逗子市小坪五丁目45番 | 1 | 崖裾 | 2003年8月28日~9月18日 | | 169 |
| 108 | 朝比奈谷 | 鎌倉市十二所字閑ノ上310番1 | 2 | 崖裾 | 2002年3月29日~7月19日 | やぐら前面の平場に納骨堂1棟、石組納骨造構1基、茶毘址1基等を確認 | 170 |
| 109 | 明石谷東やぐら群 | 鎌倉市十二所882番1 | 2 | 崖裾 | 2002年6月3日~7月12日 | | 171 |
| 110 | 大倉幕府北やぐら群 | 鎌倉市西御門二丁目792番2 | 5 | 中腹 | 2001年9月28日~11月2日、2002年8月7日~9月9日 | 他に横穴墓1基 | 172 |
| 111 | 松葉ヶ谷奥やぐら | 鎌倉市大町四丁目1932番3 | 1 | 崖裾 | 2001年9月14日~10月3日 | | 173 |
| 112 | 史跡鶴岡八幡宮境内 | 鎌倉市雪ノ下二丁目39番3 | 1 | 崖裾 | 2001年3月2日~3月7日 | 奥壁に円形の龕 | 174 |
| 113 | 華光院跡やぐら群 | 鎌倉市扇ガ谷二丁目191番 | 1 | 崖裾 | 2000年12月21日~2001年1月18日 | | 175 |
| 114 | 真言院北やぐら群 | 鎌倉市極楽寺二丁目493番 | 1 | 崖裾 | 2002年8月7日~9月4日 | | 176 |
| 115 | 平六ヶ入やぐら群 | 横須賀市追浜町二丁目22~4、24~3 | 2 | 崖裾 | 2003年5月20日~5月30日 | | 177 |
| 116 | 正福寺やぐら群 | 横須賀市浦郷町四丁目6番2他 | 6 | 崖裾 中腹 | 2003年5月19日~6月3日 | 他に石切跡1ヶ所 | 178 |
| 117 | 正觀寺やぐら群 | 横須賀市浦郷町二丁目86番10先、88番1先 | 2 | 崖裾 | 2004年6月1日~21日 | | 179 |
| 117 | 走水神社やぐら群 | 横須賀市走水二丁目地内 | 1 | 崖裾 | 2002年7月2日~7月9日 | | 180 |
| 118 | 葉王寺やぐら群 | 横須賀市大矢部一丁目151~5 | 5 | 崖裾 | 2003年6月17日~7月4日 | | 181 |
| 119 | 長坂宮ノ前やぐら群 | 横須賀市長坂三丁目983 | 2 | 中腹 | 2001年8月30日~9月14日 | | 182 |

| 番号 | 遺跡名 | 所在地 | 基數 | 立地 | 調査年月日 | 備考 | 文献番号 |
|-----|--------------|----------------------------|----|------|---|--|------|
| 120 | まんだら堂やぐら群 | 逗子市小坪七丁目1245-1他、久木九丁目1867他 | 5 | 山頂中腹 | 2001年11月12日～12月27日 2002年2月5日～2月13日 2003年1月14日～3月14日 | 名越通とまんだら堂やぐら群周辺のトレンチ調査。やぐらの基数は平面図に記載されている数 | 183 |
| 121 | 竹の谷戸やぐら | 三浦郡葉山町長柄131-2番地 | 1 | 崖裾 | 2002年4月2日～4月10日 | | 184 |
| 123 | 白山神社前遺跡所在やぐら | 三浦市南下浦町菊名字中里286 | 1 | 崖裾 | 2002年5月9日～5月31日 | | 185 |
| 124 | 金田仙神やぐら群 | 三浦市南下浦町1998-1 | 2 | 崖裾 | 2003年7月7日～7月23日 | | 186 |
| 125 | 間口またやぐら群 | 三浦市南下浦町松輪499 | 5 | 崖裾 | 2003年10月8日～11月14日 | 他に土坑墓1基 | 187 |

*24～83は前回集成（研究紀要8所取）の遺跡番号、108以降は新番号付与

文 献

160. 三浦市急傾斜地区埋蔵文化財調査団1987『三浦市小網代やぐら群の第2次調査』
161. 急傾斜地区埋蔵文化財調査団1996『松輪間口やぐらの第2次調査』
162. 坂本元屋敷やぐら群調査団1983『横浜市金沢区釜利谷町坂本元屋敷やぐら群調査概報』『横須賀考古学会年報』No.26
163. かながわ考古学財団2002『宅間谷西第2やぐら群II』かながわ考古学財団調査報告137
164. かながわ考古学財団2002『覚園寺絶門跡東やぐら群II』かながわ考古学財団調査報告138
165. かながわ考古学財団2002『山王堂東谷やぐら群II』かながわ考古学財団調査報告140
166. かながわ考古学財団2004『長勝寺跡内やぐら群II』かながわ考古学財団調査報告174
167. 神奈川県教育委員会2002『鎌倉市根葉寺1丁目23の平成11年度急傾斜地崩壊対策事業に伴う立会調査』『神奈川県埋蔵文化財調査報告』44
168. かながわ考古学財団2003『和田山やぐら群遺跡III』かながわ考古学財団調査報告148
169. 横須賀考古学会2004『横須賀考古学会年報』No.39
170. 鎌倉市教育委員会2002『朝比奈谷発掘調査報告書』
171. かながわ考古学財団2003『明石谷やぐら群・明石谷東やぐら群』かながわ考古学財団調査報告154
172. かながわ考古学財団2004『大倉幕府北やぐら群』かながわ考古学財団調査報告162
173. かながわ考古学財団2002『松葉ヶ谷奥やぐら群』かながわ考古学財団調査報告139
174. 鎌倉市教育委員会2003『史跡鶴岡八幡宮境内』『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』19
175. 鎌倉市教育委員会2003『華光院跡やぐら群』『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』19
176. かながわ考古学財団2003『真言院北やぐら群』かながわ考古学財団調査報告156
177. かながわ考古学財団2003『平六ヶ入やぐら群』かながわ考古学財団調査報告159
178. かながわ考古学財団2004『正福寺やぐら群』かながわ考古学財団調査報告173
179. かながわ考古学財団2004『正觀寺やぐら群』かながわ考古学財団調査報告177
180. かながわ考古学財団2003『走水神社やぐら群』かながわ考古学財団調査報告147
181. かながわ考古学財団2004『薬王寺やぐら群』かながわ考古学財団調査報告176
182. かながわ考古学財団2003『長坂宮ノ前やぐら群』かながわ考古学財団調査報告144
183. 逗子市教育委員会2004『史跡「名越通」』神奈川県逗子市埋蔵文化財発掘調査報告書4
184. かながわ考古学財団2003『竹の谷戸やぐら』かながわ考古学財団調査報告145
185. かながわ考古学財団2003『白山神社前遺跡所在やぐら』かながわ考古学財団調査報告146
186. かながわ考古学財団2003『金田仙神やぐら群』かながわ考古学財団調査報告160
187. かながわ考古学財団2004『間口またやぐら群』かながわ考古学財団調査報告172

近世民家の集成（2）

近世研究プロジェクトチーム

はじめに

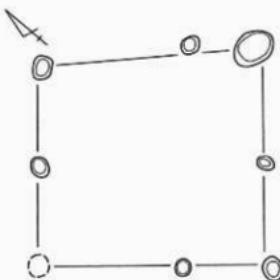
昨年に引き続き県内の近世民家の集成を行う。今年度は逗子市を対象とした。同市では池子遺跡群で30棟以上、池子市No118・119遺跡で各1棟が報告されている。No118・119遺跡は概報のため詳細は不明である。特に前者の復元図は上場だけが示された簡略なものであったことから今回の集成からは除外した。

凡例

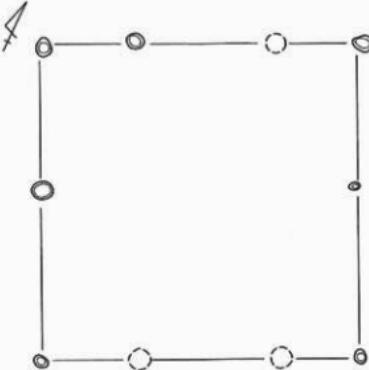
- 資料Noは近世民家の集成（1）からの続番号である。
- 遺構名は報告書の記載に基づく。
- 建物の縮尺は1/100とし、スケールを省略した。
- 梁間、桁行の間数は単に柱穴の数ではなく、柱間距離から概略割り出した1間の梁間及び桁寸法で換算した数値を示している。
- 坪数は梁間×桁行の面積を、現行の一坪3.3m²で除したものである。
- 建物の機能・構築時期については、報告書の記載に準じているが、母屋と付属建物の別が明確なもの、出土遺物から時期が推定できるものについては記載した。

| 資料No. | 27 | 遺跡名 | 池子遺跡群No.1-C地点 | 所在地 | 逗子市池子 |
|-------|-------------|--------------------|-----------------|---------------------------|-------------|
| 遺構名 | K-5号建物址 | 構造場所 | 丘陵及び池子川に挟まれた微高地 | | |
| 規模 | 梁間 3.4 m | 桁行 3.5 m | 1 × 2間 | 面積 11.9 m ² | 坪数 3.6 坪 |
| 柱穴の形状 | 円～椭円形 | 柱間距離 梁 3.4 m | 桁 1.7～1.8 m | 主軸方位 N-45°-W | |
| 出土遺物 | | | 付属施設 | | |
| 建物の機能 | | | 構築時期 | | |
| 備考 | | | | | |

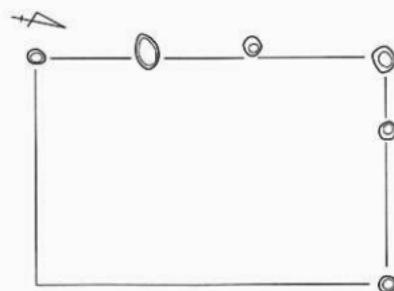
| | | | | | | | | | |
|-------|-------------------|-------|---------------|-----------------|--------|-----------|---------------------|---------|-------|
| 資料No. | 28 | 遺跡名 | 池子遺跡群No.1-C地点 | | | 所在地 | 池子市池子 | | |
| 遺構名 | K-6号建物址 | | 構築場所 | 丘陵及び池子川に挟まれた微高地 | | | | | |
| 規模 | 梁間 | 4.4 m | 桁行 | 4.7 m | 2 × 2間 | 面積 | 20.7 m ² | 坪数 | 6.3 坪 |
| 柱穴の形状 | 円～梢円形 | 柱間距離 | 梁 | 2.0～2.3 m | 桁 | 1.3～3.0 m | 主軸方位 | N-50°-W | |
| 出土遺物 | | | | 付属施設 | | | | | |
| 建物の機能 | | | | 構築時期 | 近世末 | | | | |
| 備考 | K-5号建物址の南西3mに位置する | | | | | | | | |



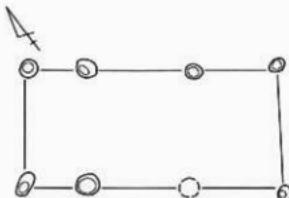
| | | | | | | | | | |
|-------|--------------------------------------|-------|---------------|-----------------|--------|-------|---------------------|---------|--------|
| 資料No. | 29 | 遺跡名 | 池子遺跡群No.1-C地点 | | | 所在地 | 池子市池子 | | |
| 遺構名 | K-7号建物址 | | 構築場所 | 丘陵及び池子川に挟まれた微高地 | | | | | |
| 規模 | 梁間 | 6.3 m | 桁行 | 6.4 m | 3 × 2間 | 面積 | 40.3 m ² | 坪数 | 12.2 坪 |
| 柱穴の形状 | 円～梢円形 | 柱間距離 | 梁 | 2.0 m | 桁 | 2.9 m | 主軸方位 | N-40°-W | |
| 出土遺物 | | | | 付属施設 | | | | | |
| 建物の機能 | 母屋 | | | 構築時期 | | | | | |
| 備考 | K-6・8・9号建物址と重複、6号建物址より古いが8・9号との新旧は不明 | | | | | | | | |



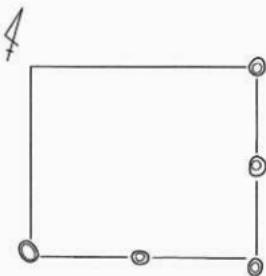
| | | | | | |
|-------|--------------------------------------|--------------|------------------------|--------------|-------|
| 資料No. | 30 | 遺跡名 | 池子遺跡群No.1-C地点 | 所在地 | 逗子市池子 |
| 遺構名 | K-8号建物址 | 構築場所 | 丘陵及び池子川に挟まれた微高地 | | |
| 規模 | 梁間 4.4 m 柱行 7.0 m | 2 × 3 間 | 面積 30.8 m ² | 坪数 9.3 坪 | |
| 柱穴の形状 | 円～楕円形 | 柱間距離 梁 1.4 m | 桁 2.1～2.7 m | 主軸方位 N-15°-W | |
| 出土遺物 | | 付属施設 | | | |
| 建物の機能 | 母屋 | 構築時期 | | | |
| 備考 | K-6・7・9号建物址と重複、6号建物址より古いが7・9号との新旧は不明 | | | | |



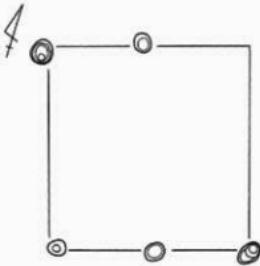
| | | | | | |
|-------|--------------------------|------------------|------------------------|--------------|-------|
| 資料No. | 31 | 遺跡名 | 池子遺跡群No.1-C地点 | 所在地 | 逗子市池子 |
| 遺構名 | K-9号建物址 | 構築場所 | 丘陵及び池子川に挟まれた微高地 | | |
| 規模 | 梁間 2.6 m 柱行 5.2 m | 1 × 3 間 | 面積 13.5 m ² | 坪数 4.1 坪 | |
| 柱穴の形状 | 円～楕円形 | 柱間距離 梁 2.4・2.6 m | 桁 1.2～2.1 m | 主軸方位 N-60°-W | |
| 出土遺物 | | 付属施設 | | | |
| 建物の機能 | K-11号または12号建物址の付属建物 | 構築時期 | | | |
| 備考 | K-7・8・10号建物址と重複するが、新旧は不明 | | | | |



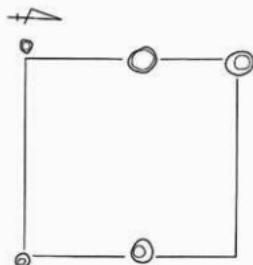
| | | | | | | | | | | | |
|-------|---------------------------|-------|---------------|-----------------|---------|-------|---------------------|---------|-------|--|--|
| 資料No. | 32 | 遺跡名 | 池子遺跡群No.1-C地点 | | | 所在地 | 逗子市池子 | | | | |
| 遺構名 | K-10号建物址 | | 構築場所 | 丘陵及び池子川に挟まれた微高地 | | | | | | | |
| 規模 | 梁間 | 3.9 m | 桁行 | 4.6 m | 2 × 2 間 | 面積 | 17.9 m ² | 坪数 | 5.4 坪 | | |
| 柱穴の形状 | 円～楕円形 | 柱間距離 | 梁 | 1.9・2.0 m | 桁 | 2.3 m | 主軸方位 | N-70°-E | | | |
| 出土遺物 | | | | 付属施設 | | | | | | | |
| 建物の機能 | K-7号または8号建物址の付属建物 | | | 構築時期 | | | | | | | |
| 備考 | K-9・11・12号建物址と重複するが、新旧は不明 | | | | | | | | | | |



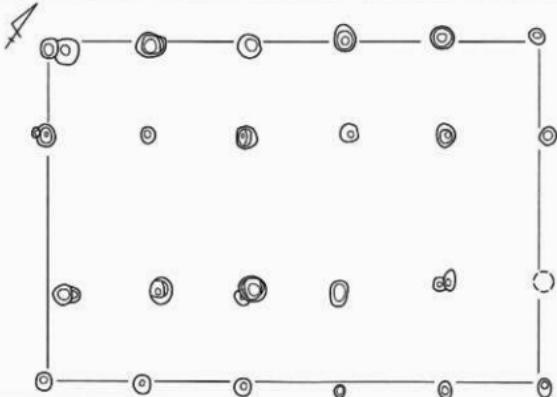
| | | | | | | | | | | | |
|-------|-------------------------|-------|---------------|-----------------|---------|-----------|---------------------|---------|-------|--|--|
| 資料No. | 33 | 遺跡名 | 池子遺跡群No.1-C地点 | | | 所在地 | 逗子市池子 | | | | |
| 遺構名 | K-11号建物址 | | 構築場所 | 丘陵及び池子川に挟まれた微高地 | | | | | | | |
| 規模 | 梁間 | 3.9 m | 桁行 | 3.9 m | 1 × 2 間 | 面積 | 15.2 m ² | 坪数 | 4.6 坪 | | |
| 柱穴の形状 | 円～楕円形 | 柱間距離 | 梁 | 3.9 m | 桁 | 1.9・2.0 m | 主軸方位 | N-20°-W | | | |
| 出土遺物 | | | | 付属施設 | | | | | | | |
| 建物の機能 | 母屋 | | | 構築時期 | | | | | | | |
| 備考 | K-10・12号建物址と重複するが、新旧は不明 | | | | | | | | | | |



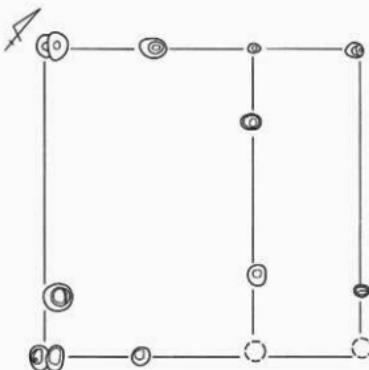
| | | | | | | | | | | | |
|-------|-------------------------|-------|---------------|-----------------|--------|-----------|---------------------|--------|-------|--|--|
| 資料No. | 34 | 遺跡名 | 池子遺跡群No.1-C地点 | | | 所在地 | 逗子市池子 | | | | |
| 遺構名 | K-12号建物址 | | 構築場所 | 丘陵及び池子川に挟まれた微高地 | | | | | | | |
| 規模 | 梁間 | 4.3 m | 桁行 | 4.3 m | 1 × 2間 | 面積 | 18.5 m ² | 坪数 | 5.6 坪 | | |
| 柱穴の形状 | 円～楕円形 | 柱間距離 | 梁 | 4.3 m | 桁 | 2.0・2.3 m | 主軸方位 | N-5°-W | | | |
| 出土遺物 | | | | 付属施設 | | | | | | | |
| 建物の機能 | 母屋 | | | 構築時期 | | | | | | | |
| 備考 | K-10・11号建物址と重複するが、新旧は不明 | | | | | | | | | | |



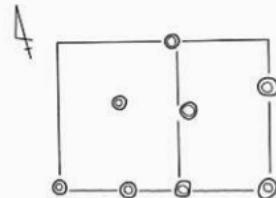
| | | | | | | | | | | | |
|-------|-----------------------------|-------|---------------|-----------------|--------|-----------|---------------------|---------|--------|--|--|
| 資料No. | 35 | 遺跡名 | 池子遺跡群No.1-C地点 | | | 所在地 | 逗子市池子 | | | | |
| 遺構名 | K-13号建物址 | | 構築場所 | 丘陵及び池子川に挟まれた微高地 | | | | | | | |
| 規模 | 梁間 | 6.9 m | 桁行 | 9.9 m | 3 × 5間 | 面積 | 68.3 m ² | 坪数 | 20.7 坪 | | |
| 柱穴の形状 | 円～楕円形 | 柱間距離 | 梁 | 1.9～2.0 m | 桁 | 1.8～3.0 m | 主軸方位 | N-37°-E | | | |
| 出土遺物 | | | | 付属施設 | | | | | | | |
| 建物の機能 | | | | 構築時期 | | | 17c～18c前 | | | | |
| 備考 | 総柱式、K-14号建物址と重複、14号建物址より新しい | | | | | | | | | | |



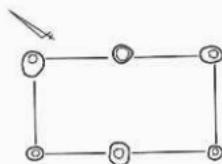
| | | | | | | | | |
|-------|----------------------------|-------|---------------|-----------------|----------|-----------|---------------------|---------|
| 資料No. | 36 | 遺跡名 | 池子遺跡群No.1-C地点 | | | 所在地 | 池子市池子 | |
| 遺構名 | K-14号建物址 | | 構築場所 | 丘陵及び池子川に挟まれた微高地 | | | | |
| 規模 | 梁間 | 6.2 m | 桁行 | 6.2 m | 3 × 3 間 | 面積 | 38.4 m ² | 坪数 |
| 柱穴の形状 | 円～楕円形 | 柱間距離 | 梁 | 2.2～2.5 m | 桁 | 2.0～2.1 m | 主軸方位 | N-37°-E |
| 出土遺物 | かわらけ | | | 付属施設 | | | | |
| 建物の機能 | | | | 構築時期 | 中世末～近世初頭 | | | |
| 備考 | 総柱式？K-13号建物址と重複、13号建物址より古い | | | | | | | |



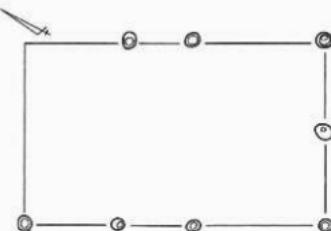
| | | | | | | | | |
|-------|-----------------------|-------|---------------|-----------------|-----------|-----------|---------------------|---------|
| 資料No. | 37 | 遺跡名 | 池子遺跡群No.1-C地点 | | | 所在地 | 池子市池子 | |
| 遺構名 | K-15号建物址 | | 構築場所 | 丘陵及び池子川に挟まれた微高地 | | | | |
| 規模 | 梁間 | 2.9 m | 桁行 | 4.2 m | 2 × 3 間 | 面積 | 12.2 m ² | 坪数 |
| 柱穴の形状 | 円～楕円形 | 柱間距離 | 梁 | 1.8～2.0 m | 桁 | 1.1～1.7 m | 主軸方位 | N-50°-W |
| 出土遺物 | | | | 付属施設 | | | | |
| 建物の機能 | | | | 構築時期 | 初現は17c初頭か | | | |
| 備考 | 総柱式？同じ場所で建て替えをした可能性あり | | | | | | | |



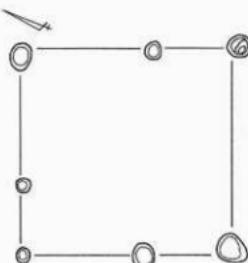
| | | | | | |
|-------|-----------------------------|--------------|----------------|-----------------------|----------|
| 資料No. | 38 | 遺跡名 | 池子遺跡群No.7地点東地区 | 所在地 | 逗子市池子 |
| 遺構名 | 第19号堀立柱建物址 構築場所 小谷戸奥南側の丘陵裾部 | | | | |
| 規模 | 梁間 2.0 m | 桁行 3.6 m | 1 × 2 間 | 面積 7.2 m ² | 坪数 2.2 坪 |
| 柱穴の形状 | 円～梢円形 | 柱間距離 梁 2.0 m | 桁 1.6～1.9 m | 主軸方位 N-13°-W | |
| 出土遺物 | | 付属施設 | | | |
| 建物の機能 | | 構築時期 | 戦国末～江戸時代前半 | | |
| 備考 | | | | | |



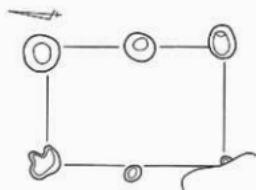
| | | | | | |
|-------|-----------------------------------|--------------|----------------|------------------------|----------|
| 資料No. | 39 | 遺跡名 | 池子遺跡群No.7地点西地区 | 所在地 | 逗子市池子 |
| 遺構名 | 第3号堀立柱建物址 構築場所 主谷戸東側の丘陵崖面地の段切り造成面 | | | | |
| 規模 | 梁間 3.6 m | 桁行 6.0 m | 2 × 3 間 | 面積 21.6 m ² | 坪数 6.5 坪 |
| 柱穴の形状 | 円～梢円形 | 柱間距離 梁 1.8 m | 桁 1.8～2.7 m | 主軸方位 N-13°-E | |
| 出土遺物 | | 付属施設 | | | |
| 建物の機能 | 母屋 | 構築時期 | | | |
| 備考 | 近代の第1号建物址(礎石建て)の前身建物 | | | | |



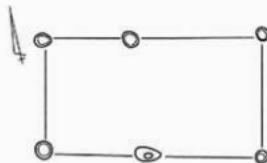
| | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|---------------|------|----------------|--------------------|--------|-----------|---------------------|---------|-------|--|--|--|--|--|--|--|
| 資料No. | 40 | 遺跡名 | 池子遺跡群No.7地点西地区 | | | | 所在地 | 逗子市池子 | | | | | | | | |
| 遺構名 | 第5号堀立柱建物址 | | 構築場所 | 主谷戸東側の丘陵崖面地の段切り造成面 | | | | | | | | | | | | |
| 規模 | 梁間 | 4 m | 桁行 | 4.2 m | 2 × 2間 | 面積 | 16.8 m ² | 坪数 | 5.1 坪 | | | | | | | |
| 柱穴の形状 | 円～椭円形 | 柱間距離 | 梁 | 1.4・2.6 m | 桁 | 1.8・2.4 m | 主軸方位 | N-26°-E | | | | | | | | |
| 出土遺物 | | | | 付属施設 | | | | | | | | | | | | |
| 建物の機能 | 第3号堀立柱建物の付属建物 | | 構築時期 | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 第6号堀立柱建物址に先行か | | | | | | | | | | | | | | | |



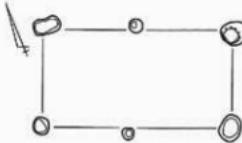
| | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|---|-------|----------------|-------------------------|--------|-----------|--------------------|--------|-------|--|--|--|--|--|--|--|
| 資料No. | 41 | 遺跡名 | 池子遺跡群No.7地点西地区 | | | | 所在地 | 逗子市池子 | | | | | | | | |
| 遺構名 | 第6号堀立柱建物址 | | 構築場所 | 主谷戸東側の丘陵崖面地の段切り造成面 | | | | | | | | | | | | |
| 規模 | 梁間 | 2.4 m | 桁行 | 3.6 m | 1 × 2間 | 面積 | 8.6 m ² | 坪数 | 2.6 坪 | | | | | | | |
| 柱穴の形状 | 円～椭円形 | 柱間距離 | 梁 | 2.4 m | 桁 | 1.6・2.0 m | 主軸方位 | N-8°-E | | | | | | | | |
| 出土遺物 | | | | 付属施設 | | | | | | | | | | | | |
| 建物の機能 | 第3号堀立柱建物の付属建物 | | 構築時期 | 重複遺構から18世紀後半～19世紀前半より以前 | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 第3号堀立柱建物址の南約5mに位置し、主軸方向と同じにしている。第5号堀立柱建物址の建替え | | | | | | | | | | | | | | | |



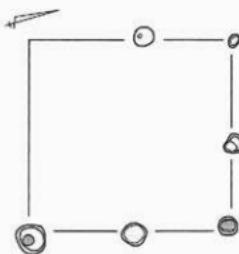
| | | | | | | | | | |
|-------|-----------|-------|----------------|-------|--------------|-------|--------------------|---------|-----|
| 資料No. | 42 | 遺跡名 | 池子遺跡群No.7地点西地区 | | | 所在地 | 逗子市池子 | | |
| 遺構名 | 第8号掘立柱建物址 | | | 構築場所 | 小支谷入り口部の丘陵裾際 | | | | |
| 規模 | 梁間 | 2.3 m | 桁行 | 4.3 m | 1 × 2間 | 面積 | 9.9 m ² | 坪数 | 3 坪 |
| 柱穴の形状 | 円～楕円形 | 柱間距離 | 梁 | 2.3 m | 桁 | 2.1 m | 主軸方位 | N-78°-W | |
| 出土遺物 | | | | 付属施設 | | | | | |
| 建物の機能 | 小屋的な施設 | | | 構築時期 | | | | | |
| 備考 | | | | | | | | | |



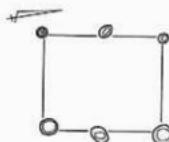
| | | | | | | | | | |
|-------|-----------|-------|----------------|-------|--------------|--------|--------------------|---------|-------|
| 資料No. | 43 | 遺跡名 | 池子遺跡群No.7地点西地区 | | | 所在地 | 逗子市池子 | | |
| 遺構名 | 第9号掘立柱建物址 | | | 構築場所 | 小支谷入り口部の丘陵裾際 | | | | |
| 規模 | 梁間 | 2.0 m | 桁行 | 3.7 m | 1 × 2間 | 面積 | 7.4 m ² | 坪数 | 2.2 坪 |
| 柱穴の形状 | 円～楕円形 | 柱間距離 | 梁 | 2 m | 桁 | 1.85 m | 主軸方位 | N-70°-W | |
| 出土遺物 | | | | 付属施設 | | | | | |
| 建物の機能 | | | | 構築時期 | | | | | |
| 備考 | | | | | | | | | |



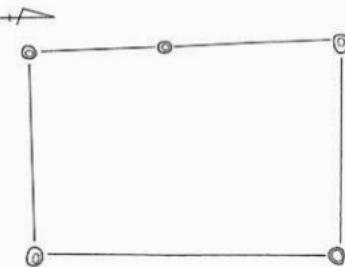
| | | | | | | | | | |
|-------|------------------------|-------|----------------|-------|--------------|-----|---------------------|------|---------|
| 資料No. | 44 | 遺跡名 | 池子遺跡群No.7地点西地区 | | | 所在地 | 逗子市池子 | | |
| 遺構名 | 第12号堀立柱建物址 | | | 構築場所 | 小支谷入り口部の丘陵裾際 | | | | |
| 規模 | 梁間 | 3.6 m | 桁行 | 3.9 m | 2 × 2 間 | 面積 | 14.0 m ² | 坪数 | 4.3 坪 |
| 柱穴の形状 | 円～楕円形 | | 柱間距離 | 梁 | 1.6・2.0 m | 桁 | 1.9～2.1 m | 主軸方位 | N-17°-W |
| 出土遺物 | | | 付属施設 | | | | | | |
| 建物の機能 | | | 構築時期 | | | | | | |
| 備考 | 柱穴2穴底面に土丹塊から石場建ての建物と推定 | | | | | | | | |



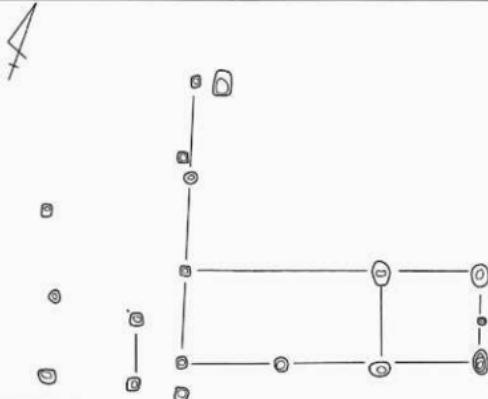
| | | | | | | | | | |
|-------|--------------------|-------|----------------|-------|--------------|-----|--------------------|------|---------|
| 資料No. | 45 | 遺跡名 | 池子遺跡群No.7地点西地区 | | | 所在地 | 逗子市池子 | | |
| 遺構名 | 第13号堀立柱建物址 | | | 構築場所 | 小支谷入り口部の丘陵裾際 | | | | |
| 規模 | 梁間 | 1.9 m | 桁行 | 2.4 m | 1 × 2 間 | 面積 | 4.6 m ² | 坪数 | 1.4 坪 |
| 柱穴の形状 | 円～楕円形 | | 柱間距離 | 梁 | 2 m | 桁 | 1.85 m | 主軸方位 | N-10°-E |
| 出土遺物 | | | 付属施設 | | | | | | |
| 建物の機能 | 小屋的な建物址 | | 構築時期 | | | | | | |
| 備考 | 第8号堀立柱建物址の西約10mに位置 | | | | | | | | |



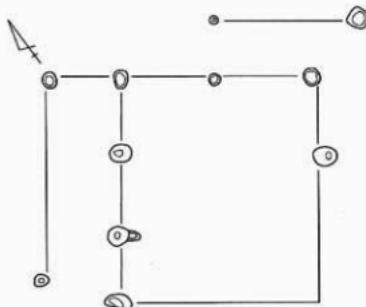
| | | | | | | | | | |
|-------|----------|-------|-------------|-------|--------|-----|---------------------|------|--------|
| 資料No. | 46 | 遺跡名 | 池子遺跡群No.5地点 | | | 所在地 | 逗子市池子 | | |
| 遺構名 | K-10号建物址 | | 構築場所 | 小谷戸内 | | | | | |
| 規模 | 梁間 | 4.3 m | 桁行 | 6.2 m | 1 × 3間 | 面積 | 26.7 m ² | 坪数 | 8.1 坪 |
| 柱穴の形状 | 円～梢円形 | | 柱間距離 | 梁 | 4.3 m | 桁 | 1.5～2.7 m | 主軸方位 | N-0°-S |
| 出土遺物 | | | | 付属施設 | | | | | |
| 建物の機能 | | | | 構築時期 | | | | | |
| 備考 | | | | | | | | | |



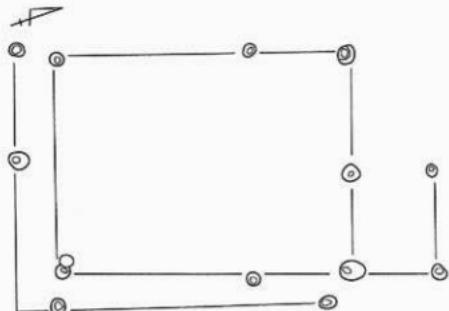
| | | | | | | | | | |
|-------|----------|-------|-------------|-------------------------|-----------|-----|-------------------|------|---------|
| 資料No. | 47 | 遺跡名 | 池子遺跡群No.5地点 | | | 所在地 | 逗子市池子 | | |
| 遺構名 | K-11号建物址 | | 構築場所 | 谷戸開口部から南側に張り出した丘陵の岩盤削平面 | | | | | |
| 規模 | 梁間 | 6.0 m | 桁行 | 5.5 m | 3 × 3間 | 面積 | 33 m ² | 坪数 | 10 坪 |
| 柱穴の形状 | 円～梢円形 | | 柱間距離 | 梁 | 0.9～1.0 m | 桁 | 0.9～1.0 m | 主軸方位 | N-70°-E |
| 出土遺物 | | | | 付属施設 | | | | | |
| 建物の機能 | | | | 構築時期 | | | | | |
| 備考 | | | | | | | | | |



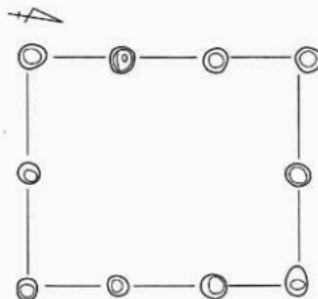
| | | | | | | | | |
|-------|--------------------------------|------------------|-----------------|------------------------|----------|-----|-------|--|
| 資料No. | 48 | 遺跡名 | 池子遺跡群No.5地点 | | | 所在地 | 逗子市池子 | |
| 遺構名 | K-14号建物址 | 構築場所 | 丘陵裾部 | | | | | |
| 規模 | 梁間 3.9 m | 桁行 4.4 m | 2 × 3 間 | 面積 17.1 m ² | 坪数 5.2 坪 | | | |
| 柱穴の形状 | 円～楕円形 | 柱間距離 梁 1.9・2.0 m | 桁 1.3～1.6 m | 主軸方位 N-25°-E | | | | |
| 出土遺物 | 瀬戸・美濃系陶器半胴甕、天保通宝 | 付属施設 | 北(東)及び西に庇ないしは縁側 | | | | | |
| 建物の機能 | | 構築時期 | 18c末～19c後半 | | | | | |
| 備考 | K-16号建物址の下面から検出された(K16号建物址へ改築) | | | | | | | |



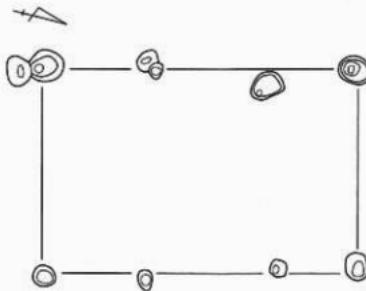
| | | | | | | | | |
|-------|-----------------------|--------------|-------------------------|------------------------|----------|-----|-------|--|
| 資料No. | 49 | 遺跡名 | 池子遺跡群No.5地点 | | | 所在地 | 逗子市池子 | |
| 遺構名 | K-15号建物址 | 構築場所 | 丘陵裾部 | | | | | |
| 規模 | 梁間 4.4 m | 桁行 5.6 m | 2 × 3 間 | 面積 24.6 m ² | 坪数 7.5 坪 | | | |
| 柱穴の形状 | 円～楕円形 | 柱間距離 梁 1.9 m | 桁 1.9 m | 主軸方位 N-23°-E | | | | |
| 出土遺物 | 肥前系及び瀬戸・美濃系の端反碗等 | 付属施設 | 南及び東に庇ないしは縁側、北東隅に張り出し部有 | | | | | |
| 建物の機能 | | 構築時期 | 18c末～19c後半 | | | | | |
| 備考 | K-14号建物址の北側約2.5mに位置する | | | | | | | |



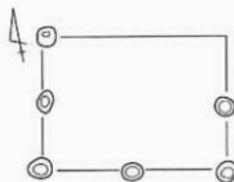
| | | | | | |
|-------|--------------------------|------------------|---------------|---------------------|---------|
| 資料No. | 50 | 遺跡名 | 池子遺跡群No.5地点 | 所在地 | 逗子市池子 |
| 遺構名 | K-4号建物址 | 構築場所 | 丘陵裾部の段切り造成面上段 | | |
| 規模 | 梁間 4.7 m 柱行 5.6 m | 2 × 3 間 | 面積 | 26.3 m ² | 坪数 8 坪 |
| 柱穴の形状 | 円～楕円形 | 柱間距離 梁 2.2～2.4 m | 桁 1.8～1.9 m | 主軸方位 | N-10°-W |
| 出土遺物 | 瀬戸・美濃系陶器片口跡及び灯明窯。磁管漆首、舟釣 | 付属施設 | | | |
| 建物の機能 | | 構築時期 | | | |
| 備考 | K-8号建物址の上面 | | | | |



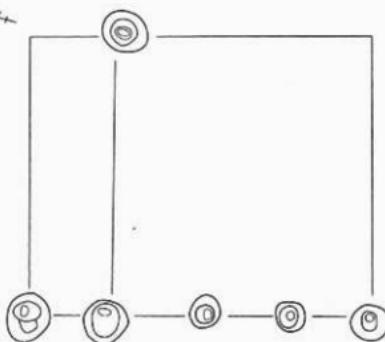
| | | | | | |
|-------|--------------------|------------------|---------------|-------------------|----------|
| 資料No. | 51 | 遺跡名 | 池子遺跡群No.5地点 | 所在地 | 逗子市池子 |
| 遺構名 | K-5号建物址 | 構築場所 | 丘陵裾部の段切り造成面上段 | | |
| 規模 | 梁間 4.2 m 柱行 6.2 m | 1 × 3 間 | 面積 | 26 m ² | 坪数 7.9 坪 |
| 柱穴の形状 | 円～楕円形 | 柱間距離 梁 4.0～4.2 m | 桁 1.6 m | 主軸方位 | N-13°-W |
| 出土遺物 | 瀬戸・美濃系ミニチュア陶器 | 付属施設 | | | |
| 建物の機能 | | 構築時期 | 宝永山噴火前 | | |
| 備考 | K-20号建物址と重複、新旧関係不明 | | | | |



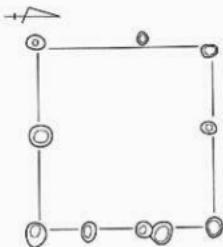
| | | | | | | | | | | | |
|-------|---------|-------|-------------|---------------|--------|-------|-------------------|---------|-----|--|--|
| 資料No. | 52 | 遺跡名 | 池子遺跡群No.5地点 | | | 所在地 | 逗子市池子 | | | | |
| 遺構名 | K-6号建物址 | | 構築場所 | 丘陵裾部の段切り造成面上段 | | | | | | | |
| 規模 | 梁間 | 2.7 m | 桁行 | 3.7 m | 2 × 2間 | 面積 | 10 m ² | 坪数 | 3 坪 | | |
| 柱穴の形状 | 円～楕円形 | 柱間距離 | 梁 | 1.3・1.4 m | 桁 | 1.8 m | 主軸方位 | N-10°-S | | | |
| 出土遺物 | | | | 付属施設 | | | | | | | |
| 建物の機能 | | | | 構築時期 | | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | | | | | |



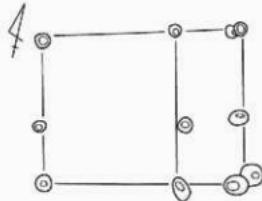
| | | | | | | | | | | | |
|-------|------------------|-------|-------------|---------------|--------|-----------|---------------------|---------|--------|--|--|
| 資料No. | 53 | 遺跡名 | 池子遺跡群No.5地点 | | | 所在地 | 逗子市池子 | | | | |
| 遺構名 | K-8号建物址 | | 構築場所 | 丘陵裾部の段切り造成面上段 | | | | | | | |
| 規模 | 梁間 | 5.6 m | 桁行 | 7.0 m | 1 × 4間 | 面積 | 39.2 m ² | 坪数 | 11.9 坪 | | |
| 柱穴の形状 | 円～楕円形 | 柱間距離 | 梁 | 5.6 m | 桁 | 1.5～2.0 m | 主軸方位 | N-13°-W | | | |
| 出土遺物 | 瀬戸・美濃系陶器皿、元豈通貢、土 | | | 付属施設 | | | | | | | |
| 建物の機能 | | | | 構築時期 | 宝永山噴火前 | | | | | | |
| 備考 | K-4号建物址の下面 | | | | | | | | | | |



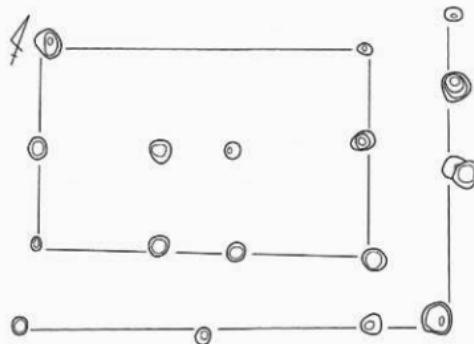
| | | | | | | | | | | | |
|-------|--------------------------|-------|-------------|---------------|--------|-------|-------------------|---------|------|--|--|
| 資料No. | 54 | 遺跡名 | 池子遺跡群No.5地点 | | | | 所在地 | 逗子市池子 | | | |
| 遺構名 | K-12号建物址 | | 構築場所 | 丘陵裾部の段切り造成面下段 | | | | | | | |
| 規模 | 梁間 | 3.7 m | 桁行 | 3.5 m | 2 × 1間 | 面積 | 13 m ² | 坪数 | 3.9坪 | | |
| 柱穴の形状 | 円～楕円形 | 柱間距離 | 梁 | 1.5・1.9 m | 桁 | 3.5 m | 主軸方位 | N-11°-E | | | |
| 出土遺物 | 漁具・美濃系志野丸皿、かわらけ | | | 付属施設 | | | | | | | |
| 建物の機能 | 構造時期 | | | | | | | | | | |
| 備考 | K-18号建物址と重複、新旧関係不明(建て替え) | | | | | | | | | | |



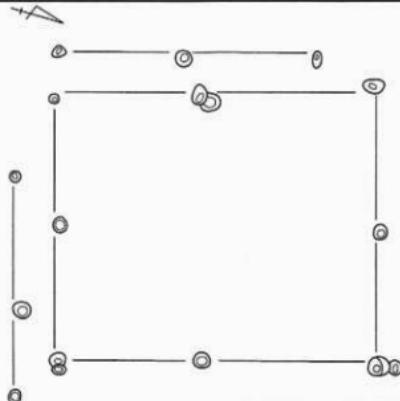
| | | | | | | | | | | | |
|-------|--------------------------|-------|-------------|---------------|--------|-----------|---------------------|---------|------|--|--|
| 資料No. | 55 | 遺跡名 | 池子遺跡群No.5地点 | | | | 所在地 | 逗子市池子 | | | |
| 遺構名 | K-18号建物址 | | 構築場所 | 丘陵裾部の段切り造成面下段 | | | | | | | |
| 規模 | 梁間 | 3.0 m | 桁行 | 4.2 m | 2 × 2間 | 面積 | 12.6 m ² | 坪数 | 3.8坪 | | |
| 柱穴の形状 | 円～楕円形 | 柱間距離 | 梁 | 1.9・2.4 m | 桁 | 1.5・2.7 m | 主軸方位 | N-75°-E | | | |
| 出土遺物 | | | | 付属施設 | | | | | | | |
| 建物の機能 | 構造時期 | | | | | | | | | | |
| 備考 | K-12号建物址と重複、新旧関係不明(建て替え) | | | | | | | | | | |



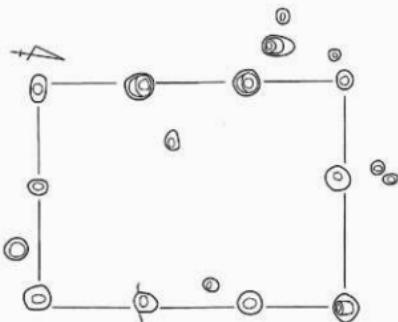
| | | | | | | | | | | | |
|-------|----------|-------|-------------|---------------|--------|---------------|---------------------|---------|-----|--|--|
| 資料番号 | 56 | 遺跡名 | 池子遺跡群No.5地点 | | | | 所在地 | 逗子市池子 | | | |
| 遺構名 | K-19号建物址 | | 構築場所 | 丘陵裾部の段切り造成面下段 | | | | | | | |
| 規模 | 梁間 | 4.3 m | 桁行 | 6.9 m | 2 × 3間 | 面積 | 29.7 m ² | 坪数 | 9 坪 | | |
| 柱穴の形状 | 円～楕円形 | 柱間距離 | 梁 | 1.9・2.4 m | 桁 | 1.5～2.7 m | 主軸方位 | N-15°-E | | | |
| 出土遺物 | | | | | 付属施設 | 東及び南側に縁側ないしは庇 | | | | | |
| 建物の機能 | | | | | 構築時期 | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | | | | | |



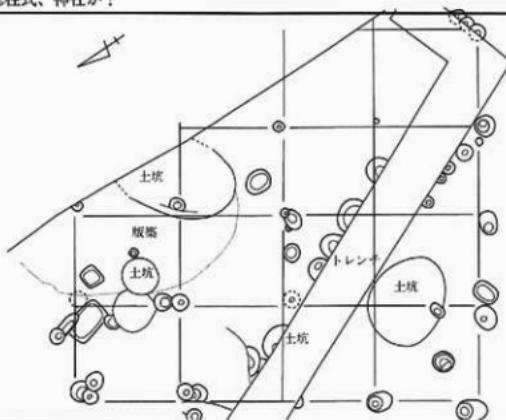
| | | | | | | | | | | | |
|-------|----------|-------|-------------|---------------|--------|--------------|---------------------|---------|--------|--|--|
| 資料番号 | 57 | 遺跡名 | 池子遺跡群No.5地点 | | | | 所在地 | 逗子市池子 | | | |
| 遺構名 | K-20号建物址 | | 構築場所 | 丘陵裾部の段切り造成面下段 | | | | | | | |
| 規模 | 梁間 | 5.7 m | 桁行 | 6.5 m | 2 × 2間 | 面積 | 37.1 m ² | 坪数 | 11.2 坪 | | |
| 柱穴の形状 | 円～楕円形 | 柱間距離 | 梁 | 2.6・3.0 m | 桁 | 2.9・3.6 m | 主軸方位 | N-20°-W | | | |
| 出土遺物 | 寛永通寶 | | | | 付属施設 | 西及び南に縁側ないしは庇 | | | | | |
| 建物の機能 | | | | | 構築時期 | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | | | | | |



| | | | | | | | | | |
|-------|----------|-------|-------------|----------|-----------|----|---------------------|-------|---------|
| 資料No. | 58 | 遺跡名 | 池子遺跡群No.5地点 | | | | 所在地 | 逗子市池子 | |
| 遺構名 | K-13号建物址 | | 構築場所 | 段切り造成面下段 | | | | | |
| 規模 | 棟間 | 4.5 m | 桁行 | 6.2 m | 2 × 3間 | 面積 | 27.9 m ² | 坪数 | 8.5坪 |
| 柱穴の形状 | 円～楕円形 | | 柱間距離 | 梁 | 1.9～2.5 m | 桁 | 1.9～2.1 m | 主軸方位 | N-15°-W |
| 出土遺物 | | | | | 付属施設 | | | | |
| 建物の機能 | | | | | 構築時期 | | | | |
| 備考 | 単独で存在 | | | | | | | | |



| | | | | | | | | | |
|-------|-------------------|-------|-----------|---|-----------|-------------|---------------------|-------|---------|
| 資料No. | 59 | 遺跡名 | 地蔵山熊野神社遺跡 | | | | 所在地 | 逗子市桜山 | |
| 遺構名 | K-20号建物址 | | 構築場所 | 地溝によって盛んだ地形に南上方斜面より滑落した表土が埋まって形成された緩斜面上 | | | | | |
| 規模 | 棟間 | 8.0 m | 桁行 | 7.3 m | 4 × 4間 | 面積 | 58.4 m ² | 坪数 | 17.7坪 |
| 柱穴の形状 | 円～楕円形 | | 柱間距離 | 梁 | 1.9～2.1 m | 桁 | 1.7～1.9 m | 主軸方位 | N-56°-W |
| 出土遺物 | 国産陶器、かわらけ、石製品、鉄製品 | | | | 付属施設 | | | | |
| 建物の機能 | | | | | 構築時期 | 16c後半～17c前半 | | | |
| 備考 | 柱式、神社か？ | | | | | | | | |



研究紀要10

かながわの考古学

発行日 2005(平成17)年3月10日
発行 かながわ考古資料刊行会
〒232-0033 横浜市南区中村町3-191-1
tel (045)-252-8661 fax (045)-262-8162
印 刷 光写真印刷株式会社

本書は2005年2月16日に、財団法人かながわ考古学財団が編集・発行したものと、かながわ考古資料刊行会が許可を得て、増刷したものである。

KANAGAWA NO KÔKOGAKU

Vol.10

(**Bulletin of KANAGAWA Archaeology Foundation**)

CONTENTS

| | |
|---|----|
| Project Team for Palaeolithic Studies: Palaeolithic Remains in Kanagawa Prefecture (4): Lower Part of B2 | 1 |
| Project Team for Jômon Period Studies: Change of the Jômon Culture in Kanagawa Prefecture (VII): An Example in the Late-Middle Period. An Aspect of the Kasori-E-Type Pottery Period. Part 4: Cultural Aspect (3) | 19 |
| Project Team for Yayoi Period Studies: A Study of the Miyanodai-Type Pottery (4) | 35 |
| Project Team for Kofun Period Studies: Track of Dr. Naotada Akaboshi, A Pioneer of Archaeological Research in Kanagawa Prefecture (2): A Report of Materials of the Kofun Period in the So-called "Akaboshi Note" | 51 |
| Project Team for Nara-Heian Period Studies: An Archaeological Study of the Miyagase Sites of the Nara-Heian Period (II). | 69 |
| Project Team for Medieval Age Studies: The Corpus of "Yagura" (horizontal bedrock-cut cave burial chamber of the Kamakura period) in Kanagawa Prefecture (3): Stone stupas from "Yagura" | 85 |
| Project Team for Early Modern Age Studies: The Corpus of Common Houses in the Early Modern Age (2). | 95 |

February, 2005

KANAGAWA Archaeology Foundation

Yokohama, Japan